

地理教授同志會編纂
新制
帝國地理
(用表甲)
八年版

社會科學
帝國書院

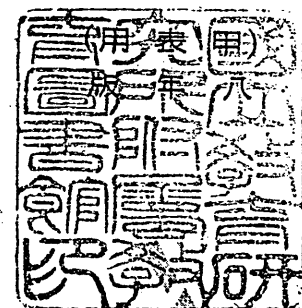
345
574

K220.28
87

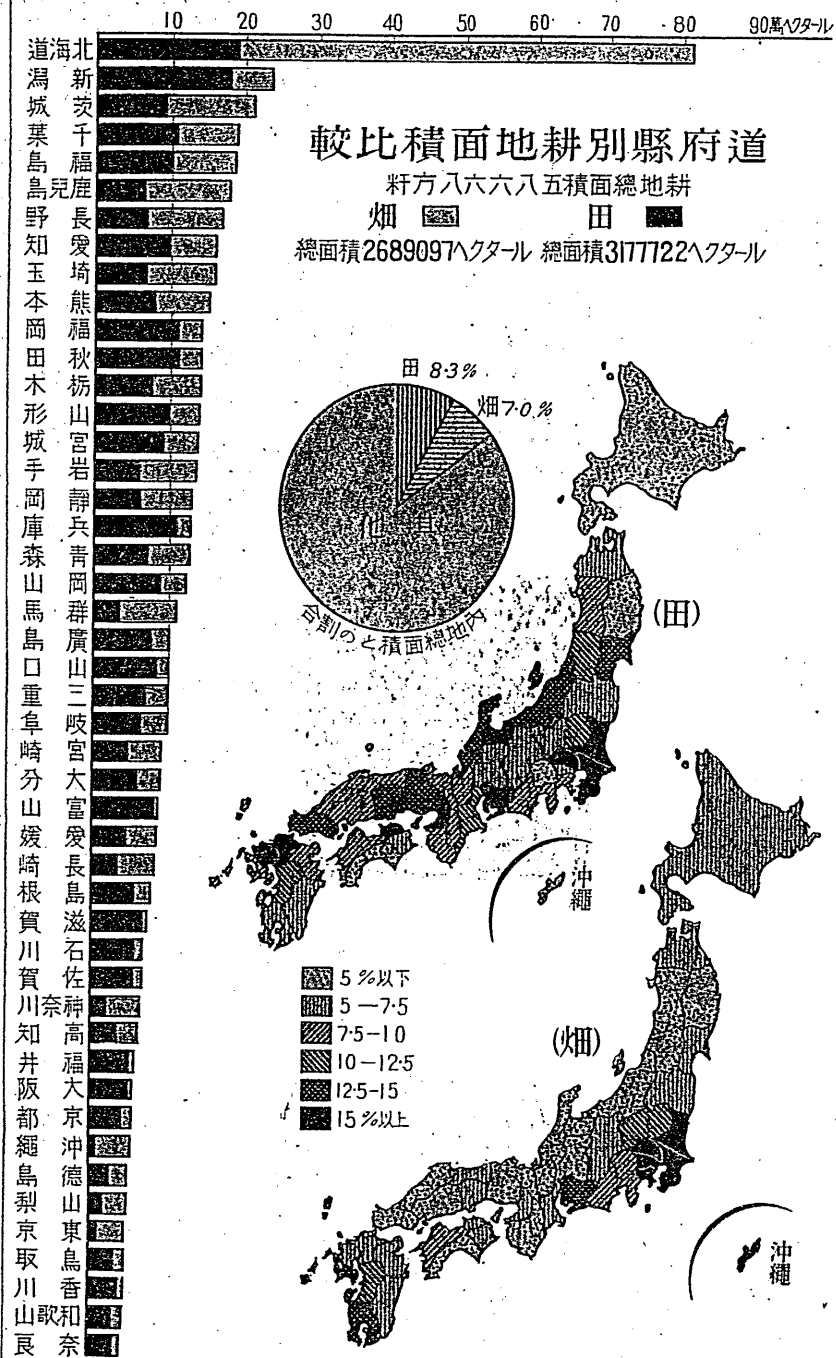
K220.28

87

帝國地理



株式會社
帝國書院



一、本書は、文部省の新教授要目により、中學校に於ける地理教科書
 (甲表用)として編纂したものである。
 一、本書は、分れて緒論、地方誌、總括の三部より成つてゐる。
 一、本書は、左の諸點について、格段の注意を拂ひつゝ、編纂の歩を進
 めた。
 1 最近の移動事實に順應して、記事を嚴選すると同時に、從來の
 教科書に比して、内容を豊富にした。
 2 世上、あまりに周知せる事柄は、之を簡にして、他の實用的事項
 を詳説し、以て常識的地理學たらしめるやう、百尺竿頭更に一
 歩を進めた。
 3 地方誌は、府縣別に説明を進めた。

例
言

度量衡換算表

度 1.			度 7.		
杆	哩	里	平方米	平方碼	坪
/	=0.6214=	0.2546	/	=1.1960=	0.3025
1.6093=	/	=0.4093	0.8361=	/	=0.2529
3.9273=	2.4403=	/	3.3058=	3.9537=	/
度 2.			量 1.		
米	碼	間	立	ガロン	升
/	=1.0936=	0.5500	/	=0.2642=	0.5544
0.9144=	/	=0.5029	3.7854=	/	=2.0985
1.8182=	1.9884=	/	1.8039=	0.4765=	/
度 3.			量 2.		
米	呎	尺	立方碼	立方吋	立方寸
/	=3.2808=	3.3000	/	=0.0610=	0.0359
0.3048=	/	=1.0058	16.3871=	/	=0.5889
0.3030=	0.9942=	/	27.8265=	1.6981=	/
度 4.			衡 1.		
糧	時	寸	佛噸	英噸	IT
/	=0.3937=	0.3300	/	=0.9842=	266.667
2.5400=	/	=0.8382	1.0161=	/	=270.95
3.0303=	1.1930=	/	0.0038=	0.0037=	/
度 5.			衡 2.		
平方杆	平方哩	平方里	匁	封匁	IT
/	=0.3816=	0.0648	/	=2.2046=	0.2667
2.5900=	/	=0.1679	0.4536=	/	=0.1210
15.4235=	5.9550=	/	3.7500=	8.2672=	/
度 6.			衡 3.		
アール	エーカー	畝	瓦	オンス	匁
/	=0.0247=	1.0083	/	=0.0353=	0.2667
40.4680=	/	=40.8060	28.350 =	/	=7.5600
0.9917=	0.0245=	/	3.7500=	0.1323=	/

4 挿繪挿圖に就いては、細心の注意を拂ひ、之を嚴選して、且つ其の數の多きを期し、又鮮明ならしめ、以て學習者の趣味の喚起に努めた。

5 人文方面にありては、成るべく産業に關する挿圖を増し、多數の統計表を加へた。

一、終りに臨み、本書の編纂に關して、懇篤なる忠言と援助とを與へられたる諸君に對し、爰に滿腔の謝意を表し、併せて其の勞を謝する次第であります。

昭和七年初秋

著者 謹誌

新帝國地理 (甲表用)

目次

緒論

第一編 地方誌

第一章 關東地方

第一節 地文誌

第二節 人文誌

第三節 處誌

第二章 奥羽地方

第一節 地文誌

第二節 人文誌

第三節 處誌

第三章 中部地方

第一節	地文誌	三
第二節	人文誌	三
第三節	處誌	六
第四章	近畿地方	六
第一節	地文誌	六
第二節	人文誌	五
第三節	處誌	六
第五章	中國地方	六
第一節	地文誌	六
第二節	人文誌	九
第三節	處誌	三
第六章	四國地方	六
第一節	地文誌	六
第二節	人文誌	九
第三節	處誌	六
第七章	九州地方	六

第一節	地文誌	六
第二節	人文誌	六
第三節	處誌	六
第八章	臺灣地方	一〇
第一節	地文誌	一〇
第二節	人文誌	一〇
第三節	處誌	一〇
第九章	北海道地方	一三
第一節	地文誌	一三
第二節	人文誌	一四
第三節	處誌	一〇
第十章	樺太地方	一三
第一節	地文誌	一三
第二節	人文誌	一四
第三節	處誌	一七
第十一章	朝鮮地方	一六

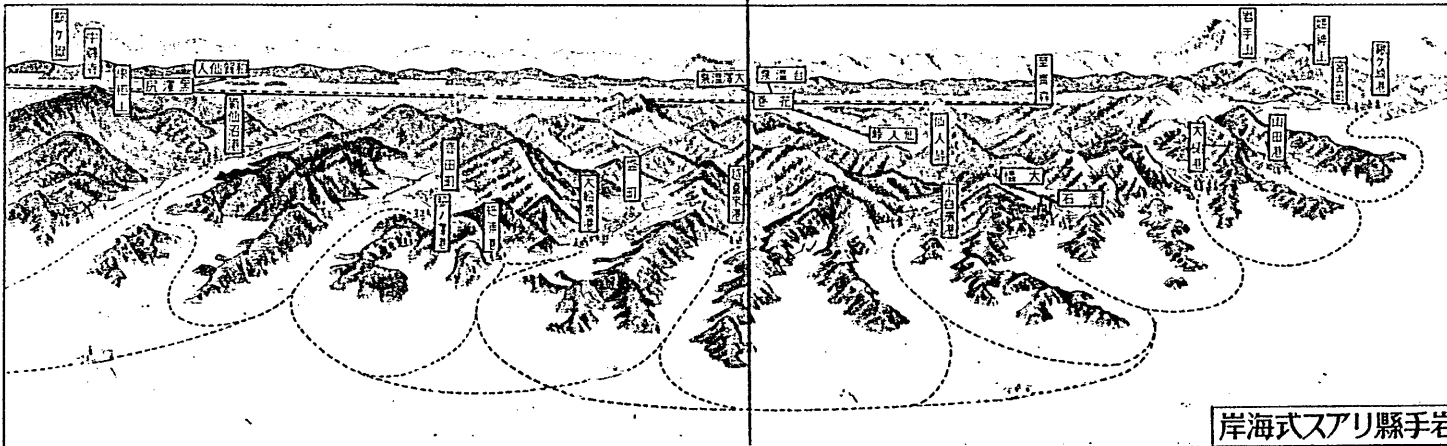
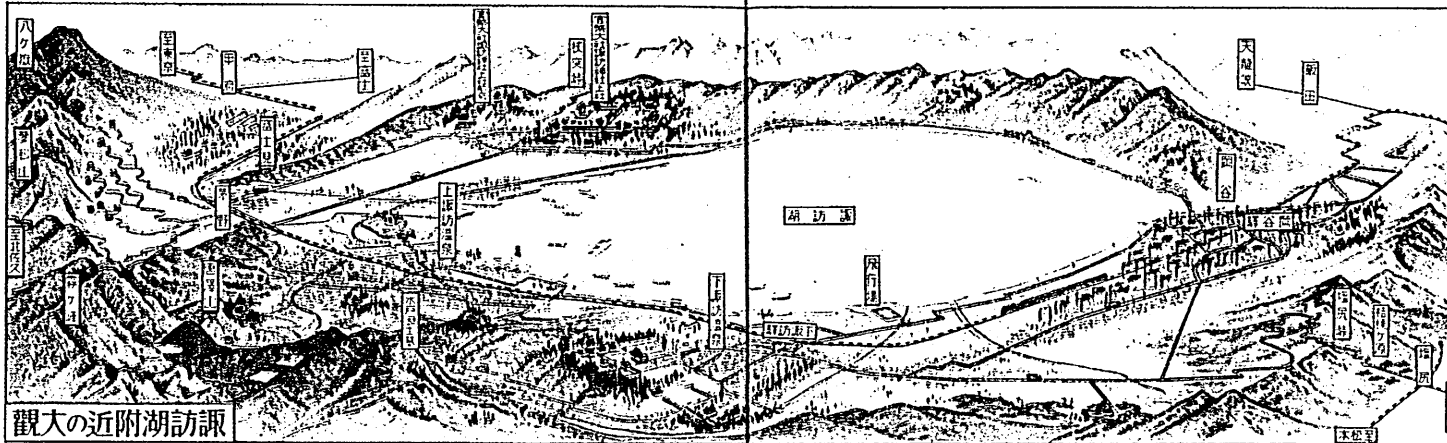
第一節 地文誌	一六
第二節 人文誌	一〇
第三節 處誌	一四
第十二章 關東州	一七
第一節 地文誌	一七
第二節 人文誌	一八
第三節 處誌	二〇
第十三章 南洋諸島	二四
第一節 地文誌	二四
第二節 人文誌	二四
第二編 總括	二五
第一章 自然地理	二五
第一節 地勢	二五
第二節 海洋	二六
第三節 氣候生物	二五

第二章 人文地理	二五
第一節 產業	二五
第二節 交通	二五
第三節 住民	二六
第四節 政治	二五
結論	二六

目

次

終



に岸海部東縣手岩は圖下 るゐて中つま眸にの目一が貌風の近四めじはを落衆諸の等谷岡・訪諏下・訪諏上 るあて岡瞰鳥たしと心中を湖訪諏は圖上 瞰鳥の岸海東縣手岩及び湖訪諏
 るゐてれさ示にか明も最が等態狀るゐてし達發に連灣のそが港び及態狀の入出のそで岡瞰鳥たし下見らか上海の方東を岸海式スアリるけ於

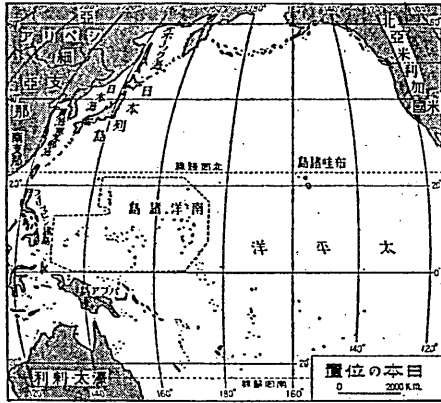
新帝國地理 (甲表用)

緒論

境域 我が大日本帝國は、アジア洲の東部にあつて、日本列島と、

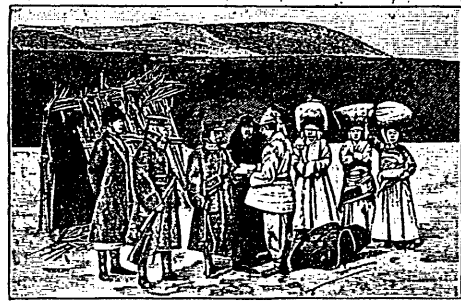
朝鮮半島とより成り立ち、別に租借地の關東州と、委任統治地の南洋諸島とがある。

日本列島は、太平洋中に、花綵狀をなして連なる大小數多の島々で、其の中、樺太(部南)北海道本島本州、四國、九州の五大島が、略中央にある。而して千島列島や、琉球列島、臺灣は、兩端にならび、小笠



朝鮮國境の
發信

原列島は南方に延びてゐる。朝鮮半島は、アジア大陸の一大半島であつて、南は對馬、壹岐を飛石として、九州本州に近づき、北は鴨綠江、豆滿江を隔てて滿洲及びシベリアに境してゐる。

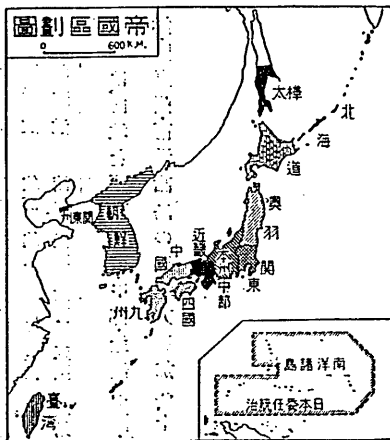


關東州は遼東半島の南西端を占め、南洋諸島は、小笠原列島の南方赤道の北方に散在し、千島列島は、カムチャツカ半島に、臺灣は、フィリピン諸島に近い。列島の大部は、北溫帶にあつて、其の内側は、オホーツク海、日本海、黄海、東支那海等の綠海が多く、外側は、廣い太平洋を隔てて、遙に北アメリカ大陸に對してゐる。實に、我が帝國は、最も良好な位置を占てゐる。

面積 我が國の面積は、明治時代に於て、著しく増加し、今は六十

帝國面積内譯
(單位方里)

本州	330,000
四國	18,750
九州	84,400
北海道	83,380
小計	506,530
臺灣	36,190
朝鮮	39,000
關東州	21,400
南洋諸島	11,100
總計	602,220



八萬方里(千方里)ある。其中、北海道、本州、四國、九州等は、一般に内地と呼ばれ、臺灣、樺太(部)、朝鮮等は、植民地と呼ばれてゐる。

人口 人口は、明治以來著しく増加し、其の總數九千萬人を超えてゐる。其の中、内地の人口は、六千五百萬に達し、其の稠密なことは、ベルギ

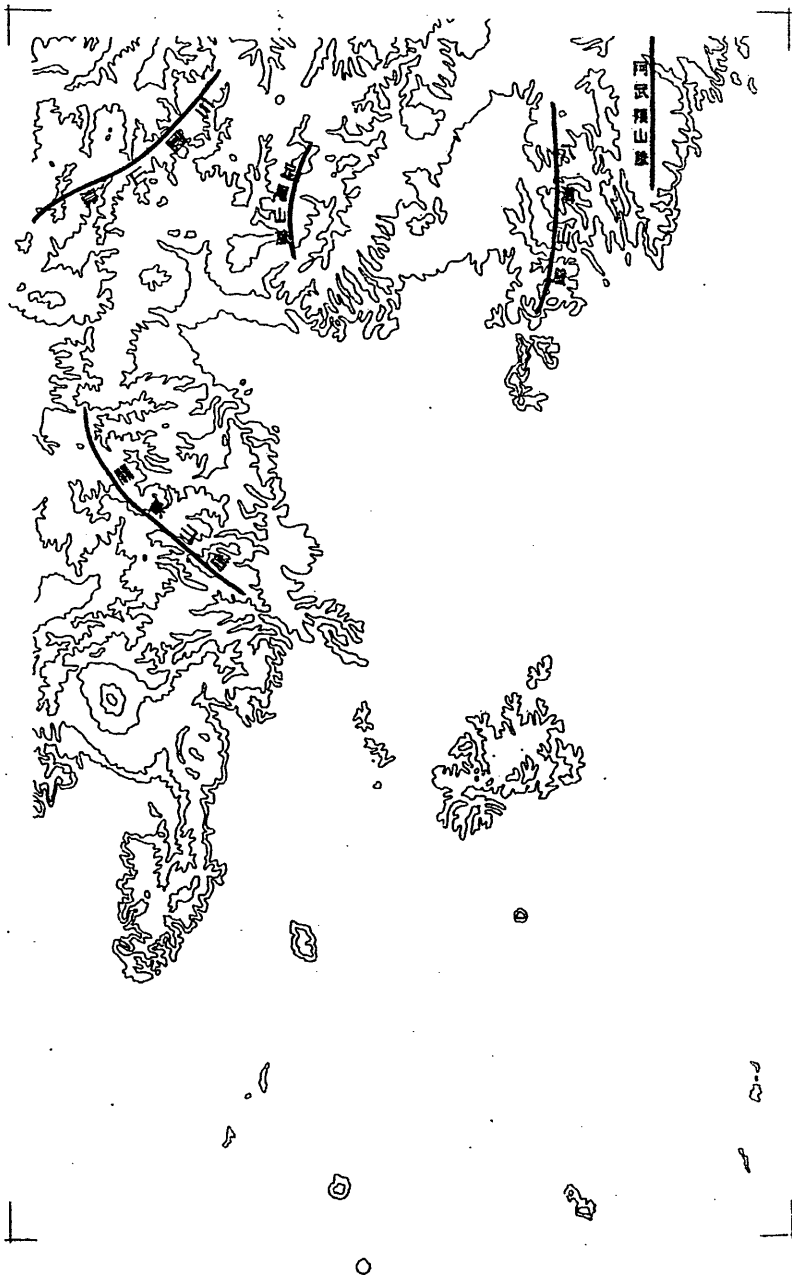
ー、オランダ、英吉利に次ぎて、世界第四位である。

區劃 内地は、もとの畿内、八道(八十五國)の地で、今は行政上、一道、三府、四十三縣に分かれ、それぞれ道廳、府廳、縣廳がある。又朝鮮、臺灣には總督府を置き、樺太、關東州、南洋諸島には廳がある。我が帝國の中央政府は東京にあつて、これ等の諸官廳を統轄してゐる。

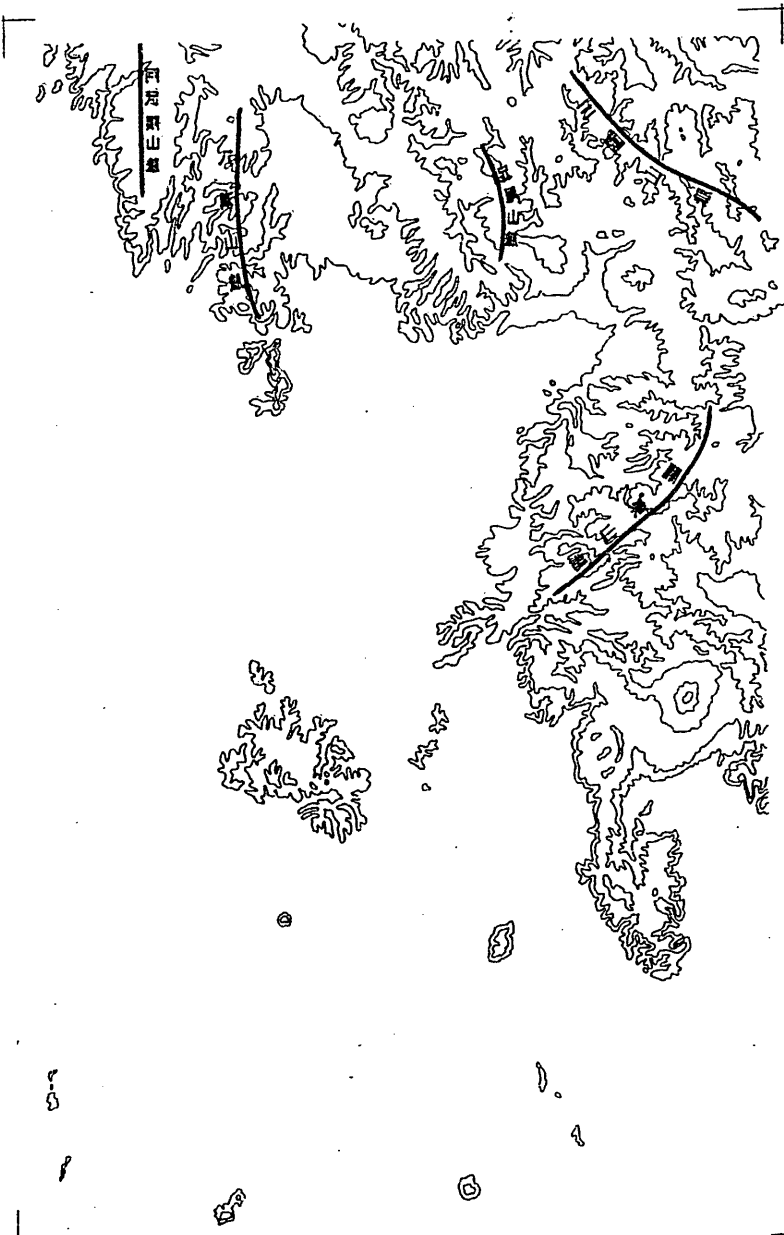
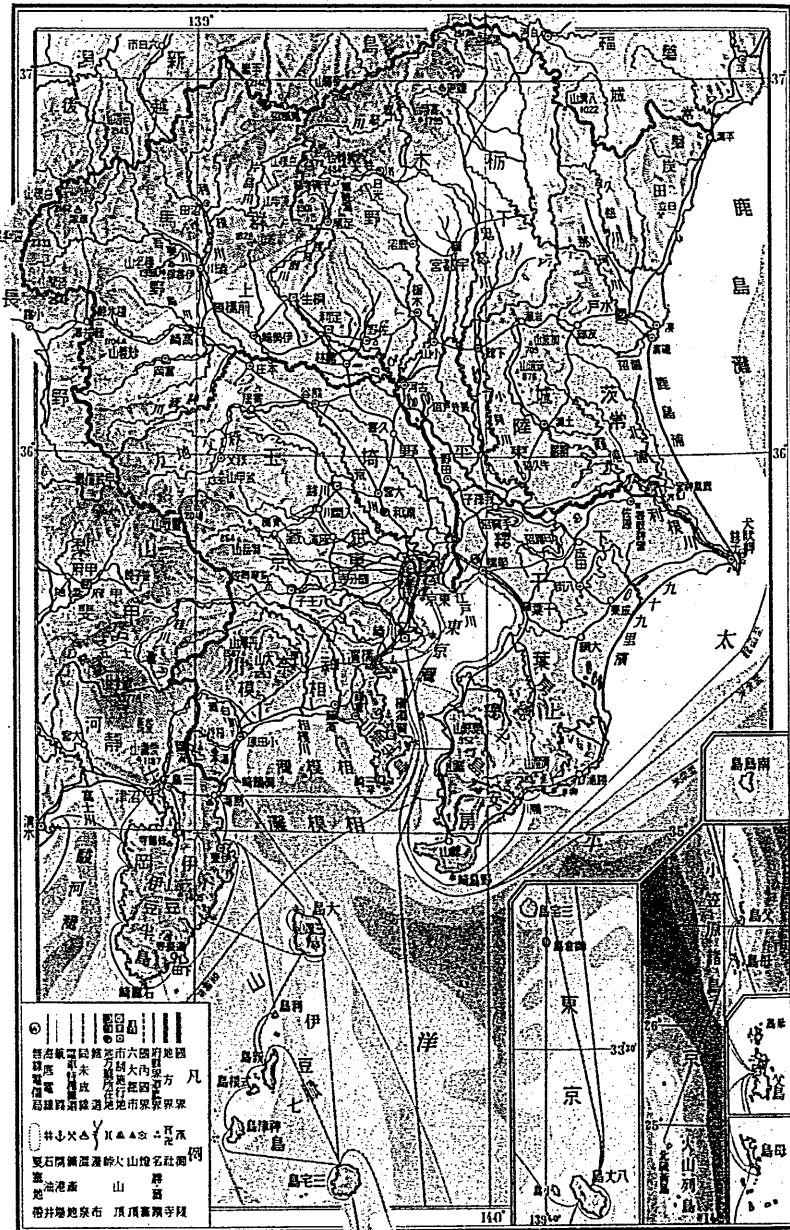
畿道國別表

畿內	山城	大和	河内	和泉	攝津
東海道	伊賀	伊勢	志摩	尾張	三河
	常陸				
東山道	近江	美濃	飛驒	信濃	上野
北陸道	若狹	越前	加賀	能登	越中
山陰道	丹波	丹後	但馬	因幡	伯耆
山陽道	播磨	美作	備前	備中	備後
南海道	紀伊	淡路	阿波	讃岐	伊豫
西海道	筑前	筑後	豐前	豊後	肥前
					肥後
北海道	渡島	後志	石狩	天鹽	北見
					釧路
					根室
					千島
					琉球

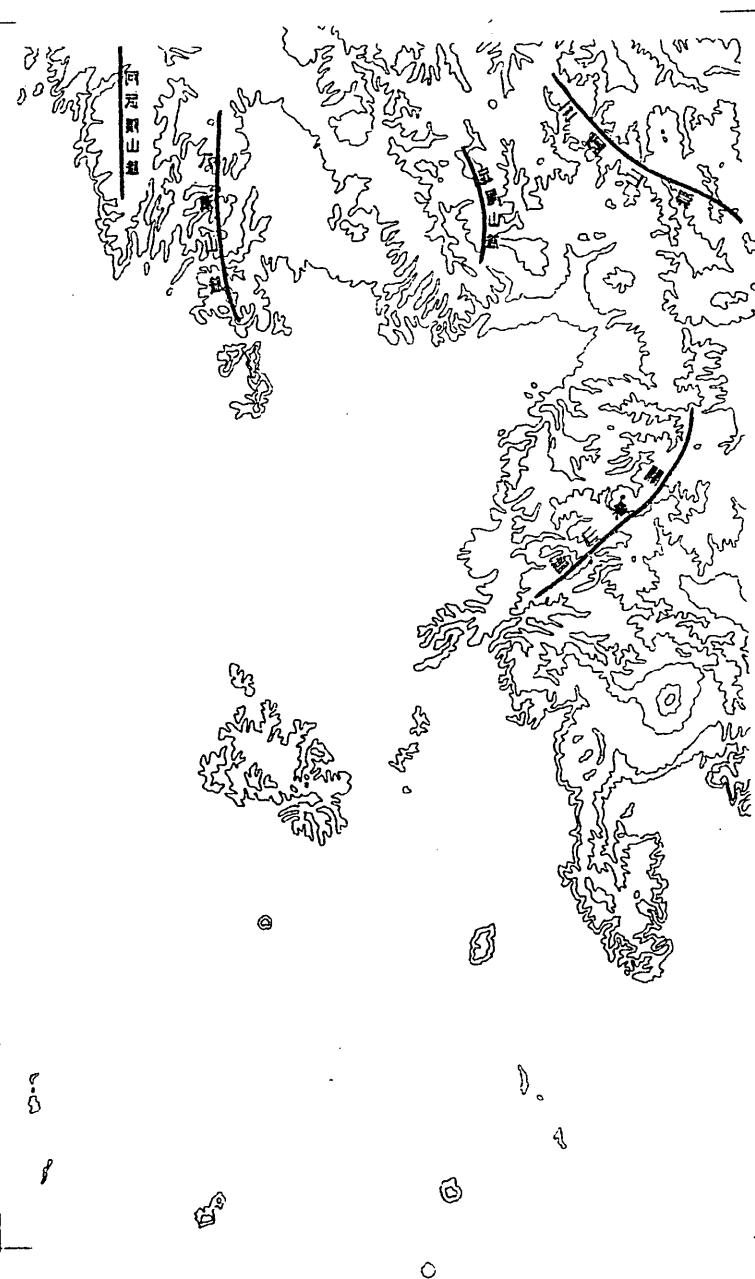
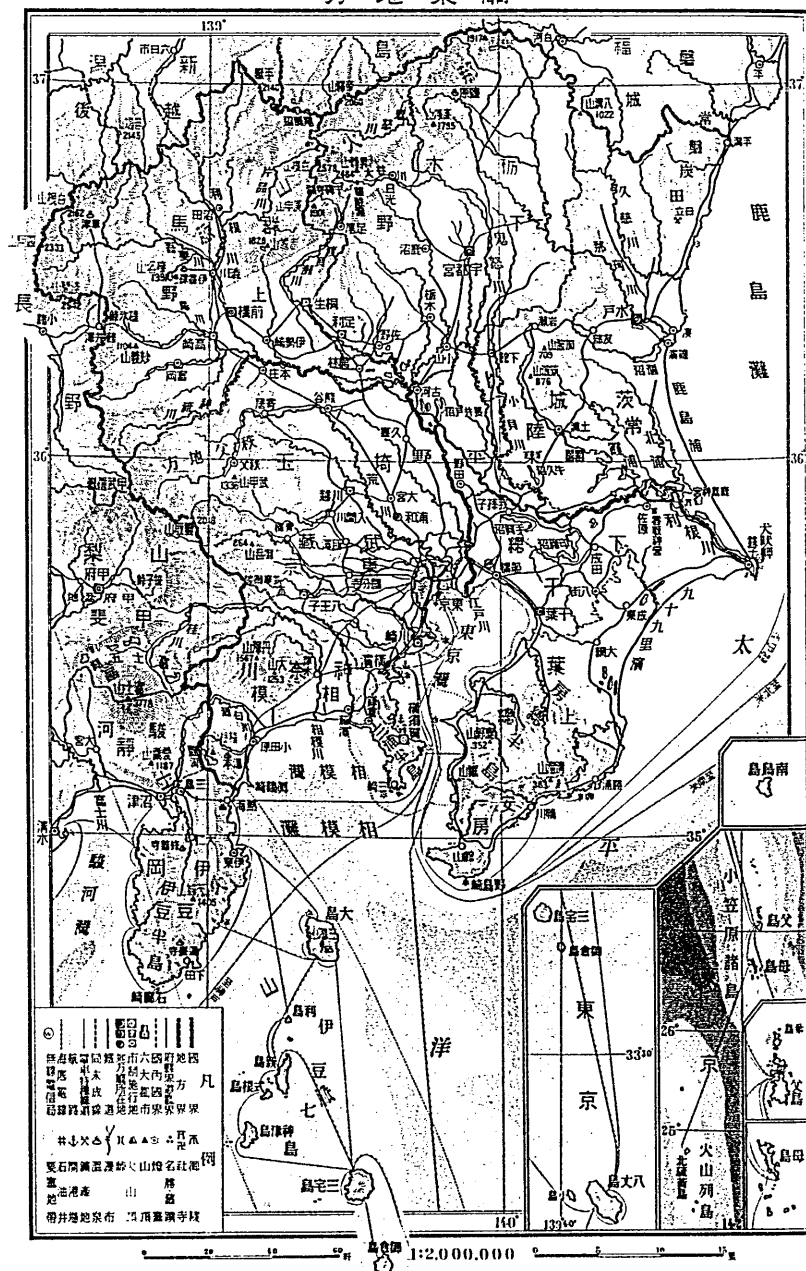
本書は、内地を關東奥羽中部近畿中國四國九州北海道の八地方に分け、之に臺灣樺太朝鮮關東州南洋諸島の五地方を加へ、十三地方として記述した。



關東地方



關東地方

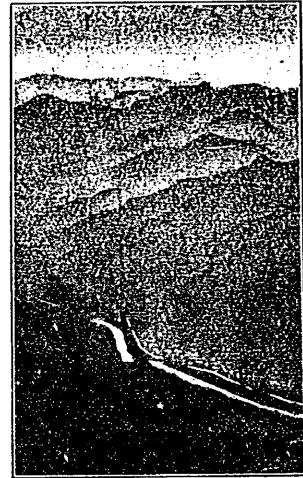


第一編 地方誌

第二章 關東地方

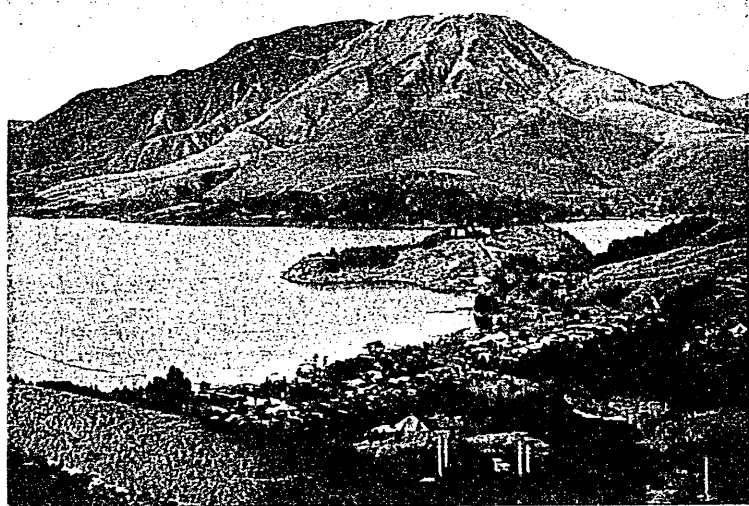
第一節 地文誌

地域 關東地方は古の關八州の地で、本州の南東部を占め、東京府

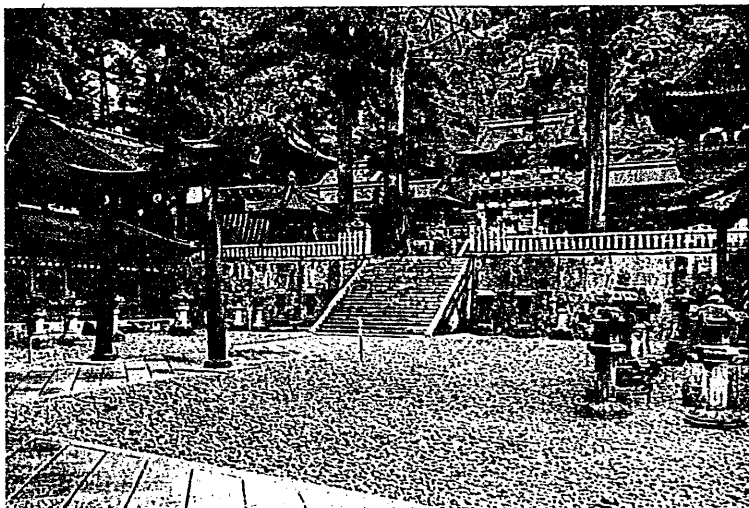


圖解 關東山脈の
遠望

と、神奈川・千葉・埼玉・群馬・栃木・茨城の六縣とに分れる。各府縣とも面積は狭いが、人口は極めて密である。
地勢 山地は、北より西に亘つて、阿武隈三國・關東の三山脈と、那須



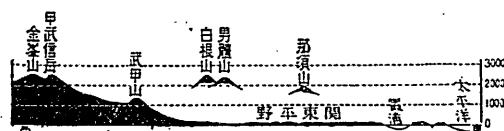
てし出突に方右處るあの址所關舊で元根箱るす通の道街舊は町の前手 湖ノ蘆根箱
るあで岳ヶ駒の丘口火央中はのつ峠に岸湖 るあが宮庭はに島塔すなを島半小



寶國は部大く高名に界世は麗華の物築建で社幣官格別る祀を康家川徳 宮照東光日
るあでさし美の近附(央中面正)門明陽な名有も最は園 るゐてつなと

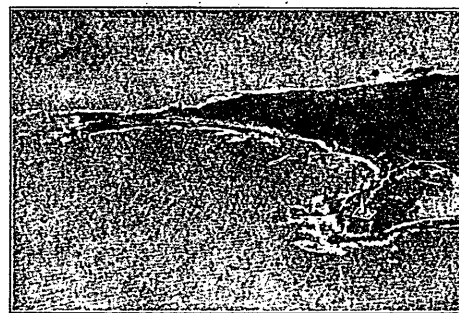
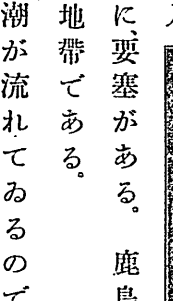
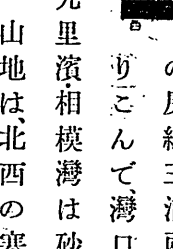
利根川の本流・支流と相模川との各上流は發電に利用され又多摩川・相模川は飲料水を供給する

圖解 (上)關東地方東西斷面(下)關東地方東海岸(犬吠崎)

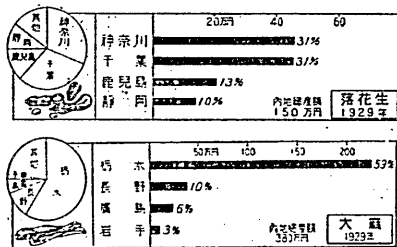


富士の二火山脈とが連なり、高山名勝温泉に富んでゐる。南東部は、日本一の關東平野で、其の大動脈たる利根川は、數多の支流と湖水とを容れて、本地方の大半を潤し、以て太平洋に注ぐ。その他、久慈川、那珂川は、鹿島灘に、荒川、多摩川は、東京灣に、馬入川は、相模灘に入る。海岸は、丘陵性の房總三浦兩半島間に、東京灣が入りこんで、灣口の浦賀水道の兩側に、要塞がある。鹿島灘

氣候　山地は、北西の寒風を防ぎ、近海に、黒潮が流れてゐるので、氣温も雨量も適順で、農耕によく、海岸は、避暑避寒に適する。



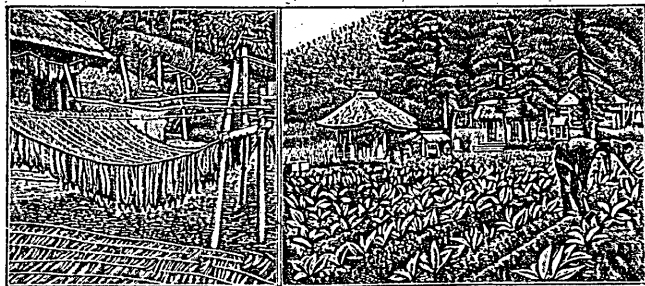
東京・横濱の二大消費地があるので、米穀が多く他地方より移入する。園解、煙草の栽培と乾燥。



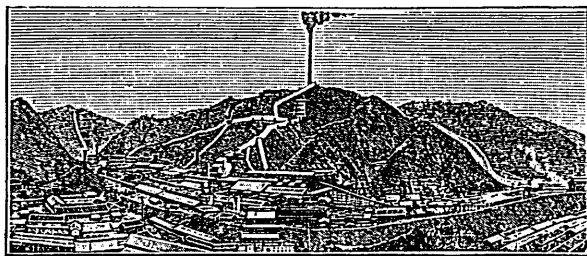
第二節 人文誌

産業 地味氣候の關係で農業は、一般に盛んであるが、關東平野殊に埼玉千葉茨城の三縣が、ことに盛大である。

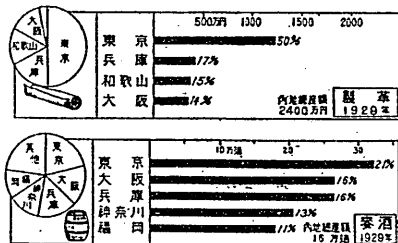
米は低地に、麥大豆落花生は臺地に栽培され、麥の産額は、全國總産額の約二分一に達してゐる。
栃木茨城神奈川三縣は、葉煙草、栃木縣は大麻を産出し、東京府埼玉縣千葉縣は、蔬菜園藝が盛んである。西部及び



圖解 日立鐵山製鉄所
×日立では買鐵をも行ふ

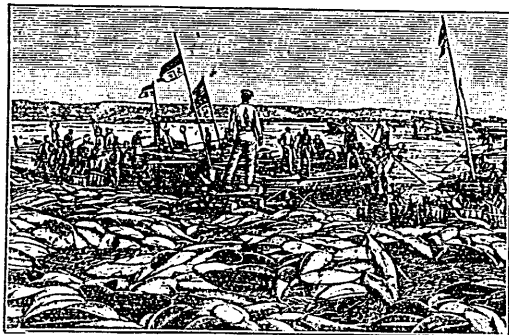


北部の山麓地帯は、その附近の地方と共に、養蠶製絲が盛んに行はれ、群馬埼玉の二縣は特に有名で、前橋高崎熊谷などの繭の大市場、前橋富岡本庄深谷等の大製絲業地、桐生足利八王子等の絹織業地がある。東京横濱間海岸一帯の地は、多數の大工場が立ちならんで、綿織物毛織物機械書籍藥品砂糖護謨麥酒雜貨船舶及び製革の製造が頗る發達してゐる。江戸川利根川下流霞浦北浦の沿岸地方は、野田銚子土浦を中心として、釀造が盛んに行はれてゐる。足尾[×]日立の二大鐵山は、金銀銅を採掘製鍊し、常磐炭田では高



圖解 千倉の漁港

*街道と其の關門
東海道—箱根峠
甲州街道—小佛峠
中山道—碓氷峠
越後街道—清水越
奥羽街道—白河關
濱街道—勿來關



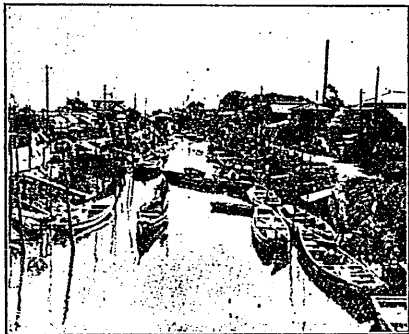
總武等の諸線である。戸に至り、山陽線に接續する我が國での主要鐵道で、支線に横濱線横須賀線熱海線がある。

萩などの炭坑で、多く石炭を採掘してゐる。近海は、水産物が多く、千葉縣を第一として、漁業が盛んに行はれ、鰯^{イワシ}、鮪^{サシ}、鰹^{カツノ}、秋刀魚^{マアサ}、烏賊^{イカ}等の漁獲高が多い。漁場は、千葉縣の東西兩方面の近海伊豆七島の沖合を主とし、漁港として、銚子千倉館山三崎などが有名である。

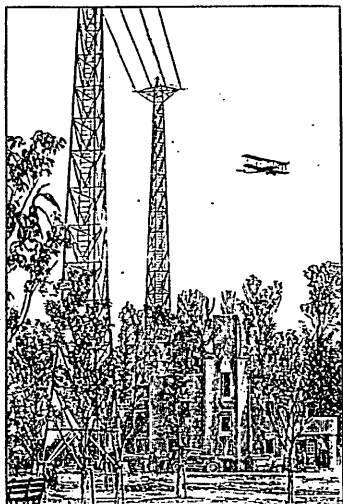
交通 概ね東京を起點として、街道も鐵道も開けてゐる。

東京を起點とする鐵道は、東海道東北中央東海道線は、横濱名古屋京都大阪を経て神

東北線は仙臺を経て青森に達する本州の幹線鐵道で、支線に、常磐線、高崎線、兩毛線、水戸線、日光線、上越南線等の諸線がある。又、中央線は、西の方甲府鹽尻を過ぎて名古屋に至り、總武線は、東方に向ひ、千葉佐倉を経て銚子に至る。その他東京附近には、私設



園解 (下) 東京市
 内の舟運(上) 東
 京中央放送局



の鐵道
及び電
車軌道が多く、運轉回數も亦多
い。水運の便が良く、東京を中
心として、利根川、江戸川、霞浦の
沿岸各地に、船舶を通ずる。
横濱は、内外航路の中心で、外國

×小山より岩槻までの五局は東京無線電信局の一部をなしてゐる

管轄 武藏中・南部・伊豆七島・小笠原諸島

航路は、北米・歐洲・南米・濠洲・印度・爪哇・支那の諸港に通じて居る。東京は、大阪・大連等に至る航空路の起點である。

海底電線は、小笠原諸島の父島を経て、グアムで、太平洋横斷線に接續する。小山[×]・檢見川^ヰ（^{千葉縣}）・船橋・福岡^{（福岡縣）}・岩槻^{（埼玉縣）}・横濱・銚子・父島に無線電信局、東京に^{J. O. A. K.}ラヂオ放送局、新郷^{（埼玉縣）}に其の放送所がある。

都市　一萬人以上の都邑が、百四十もある。住民は、益々東京附近に集中する傾向がある。

第三節 處 誌

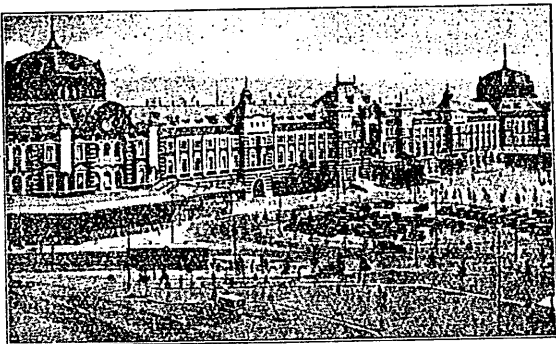
東京府、西部山地を除けば、平野が開けて、荒川・多摩川（東京市飲料水の源）などが流れる。東京市（帝國首都）は、隅田川（荒川下流）に跨つて、東京灣に臨み、人口五百萬に達し、日本第一、世界第二位の大都市にして、三十五區より成り、山、手、下町に分れてゐる。市は、略、宮城を中心として、諸官衙（ガ）

* 一高・高師・外語・陸大・陸士・海大を始め私立諸大學等

× 汽車發着點は東京・上野・飯田町・兩國橋等

圖解 東京驛

伊豆七島中の式根島は漁業根據地
△ 三重式の活火山



ひ、横濱線を分つてゐる。その附近に、多摩御陵がある。伊豆七島中、最大の大島には、三原火山が峙ち、八丈島には、八丈絹棒油の産が

國會議事堂、近衛第一師團司令部、帝國大學高等諸學校、皇室博物館を始め、圖書館、書店、新聞社、銀行、會社、工場などが多く、交通機關もよく發達して、實に政治、學術、軍事、經濟、交通等の大中心である。下町は、先年最も多く震災を蒙つた所であるが、今では復興が著しく進んで、舊時に優つた市街が建設され、益商業工業が發達してゐる。市の内外には、社寺公園、名所が散在し、觀光客が常に雜沓する。

八王子市は、養蠶機業の中心で、中央線に沿

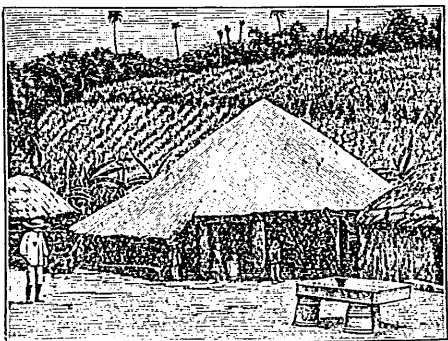
* 香蕉・鳳梨・甘蔗・林投樹・海魚・大鰻鰻

管轄 武蔵南部・相模

圖解 小笠原島の甘蔗園と製糖場
× 南麓の奈野は煙草の名産地
■ 南端の三時港は漁港で附近に臨海實驗所がある

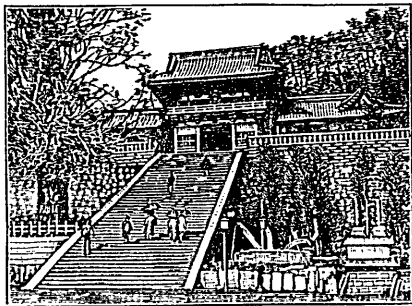


ある。小笠原諸島には、熱帶性の生物が多く、父島の二見は、軍事上交通上の要地で、太平洋海底電線の中繼所である。
神奈川縣 馬入(相模川以西は、大山・丹澤・箱根山の山地で、南東に三浦半島が突出してゐる。



縣廳所在地の横濱市は、東京灣の西岸に臨み、神戶港と共に帝國の大貿易港で、帝國六大都市の一つである。内外船舶の出入がしげく、

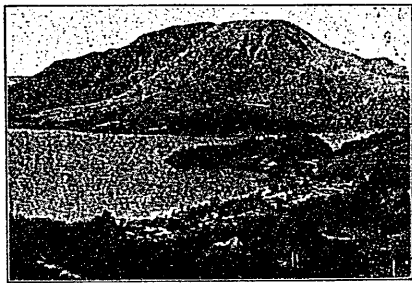
△鶴岡八幡宮・鎌倉宮・建長寺・圓覺寺・長谷大佛等
●解上(鶴岡八幡宮)下(箱根町)蘆湖



居留外國人も多く、主に生絲絹織物綿織物を輸出し、鐵材線綿羊毛を輸入する。川崎市は、京濱工業地帯に屬する工業地で、鋼管・精糖・電氣機械類・電球等を多く産する。

鎌倉は、源賴朝が幕府を開いた土地で、史蹟名刹に富み、別荘文化住宅が多い。江島・逗子・葉山の勝地を控へて、遊覽の客が絶えない。軍港横須

賀市は、第一海軍鎮守府のある處で、開港史に名高い浦賀と共に造船が盛んで、近郊の追濱に、海軍飛行場がある。茅崎・大磯・國府津・小田原は保養地で、小田原は、熱海(海)又は箱根等に



至る要地である。箱根は蘆湖畔に、離宮と關址とがあり、又自然の風景がよい。

千葉縣 南部の房總半島には、模範林の茂る清澄山、石材を切出す鋸山等があり、海岸には、大原・勝浦・小湊・北條・九十九里・濱館山・木更津等の保養地や漁場が多い。

北部には、利根・江戸・二川が縣境を流れ、印旛沼・手賀沼等の湖沼もあつて、平野がよく開け、米・麥を産することが多く、流山・野田・銚子・佐原(酒)などの大醸造地がある。

國府臺・習志野(兵營)・佐倉等は軍用地で、千葉市(縣廳・醫科大)は、交通の要地である。成田は、不動堂によつて榮えてゐる。

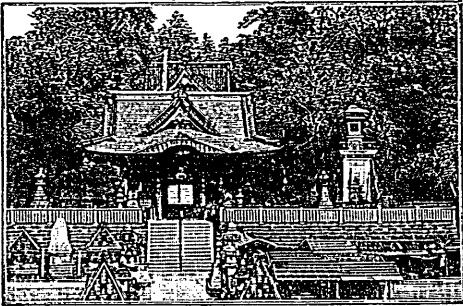
埼玉縣 荒川は、銘仙織で名高き秩父盆地を出て、米・麥(國産額全)・繭の

管轄 安房・上總・下總大部

關解 成田 不動堂

・利根川口にある漁港で大吹却は無線電信局の所在地

管轄 武蔵北半
×上流に長瀬の奇



勝がある

園解（土）長瀬
（下）富岡製絲場

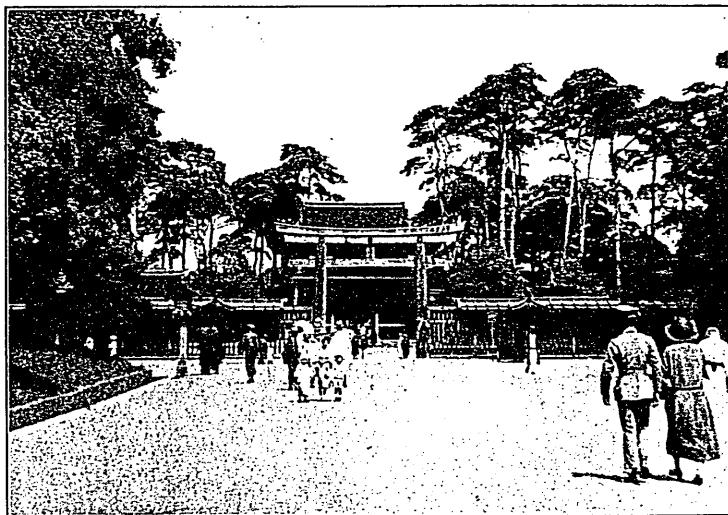
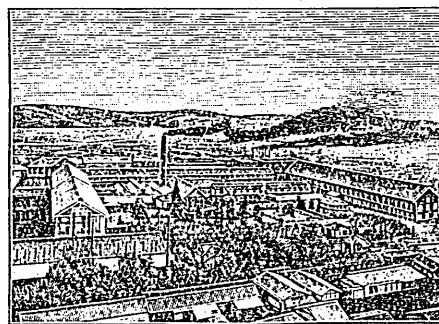
× 南方の松山附近
に吉見の百穴（太
古の遺跡）がある

管轄 上野

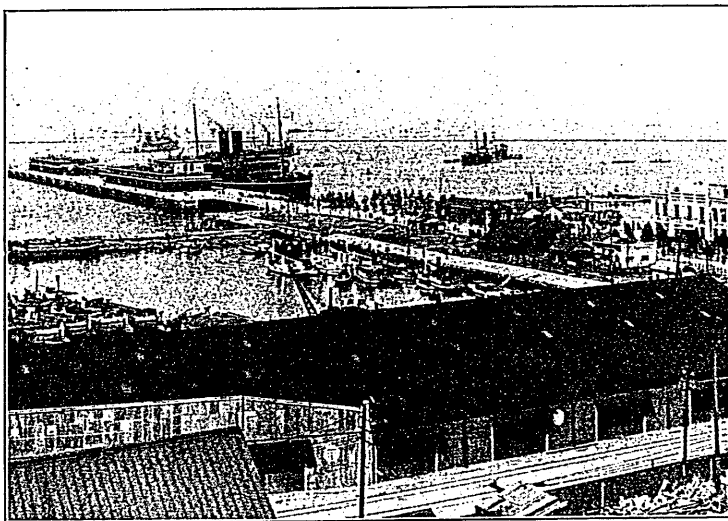


出る山地で、風光に富める
（三）の三山が峙ち、伊香保草津四萬などの温

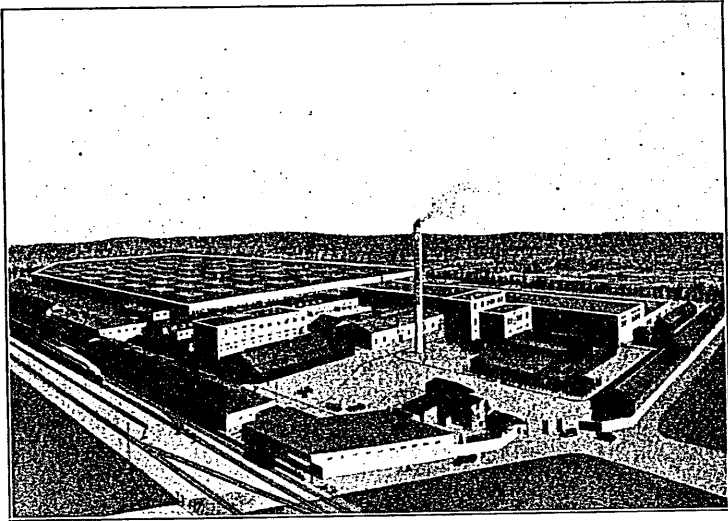
産出多き平野を貫流してゐる。川越市は、綿織物と甘藷とで知られ、その南方の所澤に、陸軍飛行學校がある。川口は、米を集散し、麥酒、鑄物を産する。浦和は、縣廳の所在地で、東京の郊外住宅地である。大宮には、鐵道省工場、氷川神社がある。熊谷は、繭生絲の取引が盛んである。群馬縣の北部と西部とは、利根の本支流の流れ、赤城、榛名、妙義（以上山）の三山が峙ち、伊香保、草津、四萬などの温



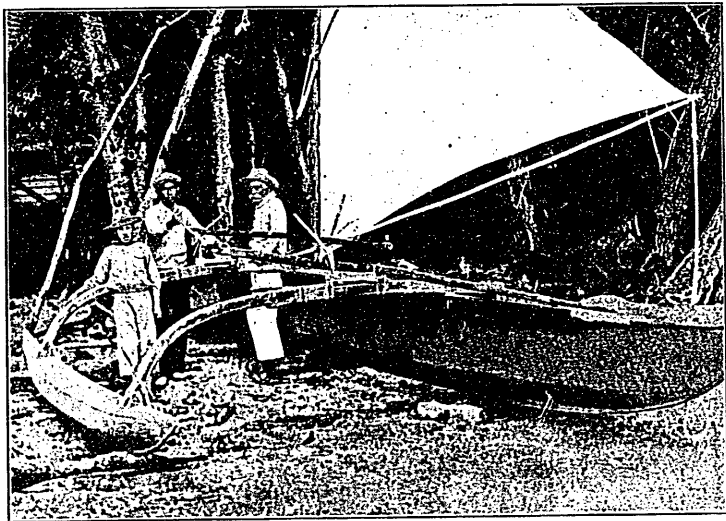
明治神宮 東京市郊の代々木に鎮座し、内閣府の崇敬の的となつてゐる。毎年十一月三日に大祭が行はれる。園解（土）長瀬（下）富岡製絲場



横濱港の頭埠 遠洋航路の巨船を停泊する所である。大正二十年の大震災に、横濱港の頭埠は壊滅した。復興の間、たつた間も復興し、越す種々の設備が完了した。



社会本 るあで場工一たし備完も最の社会油替田野るあ稱の一本日 場工油替田野
ぶ及に并萬十年一高造醸てし機を人百五千三員業従とるす合を場工るあに地各の

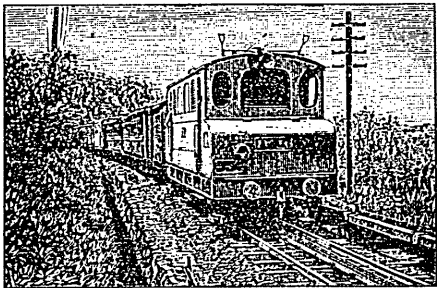


に漁漁み住餘人百に島父在現で孫子の者たし落漂は又住移く古 人化歸の島原笠小
るあで船本獨の布特島本は船の眞寫 るあてけ受を扱取の一同人地内てし事従

×高崎・信越・上
越・雨毛等
國解 碓氷峠のア
プト式軌道

管轄 下野

△那珂流域の島
山・茂木は其の中
心地
▲鹿沼は其の市場



泉がある。 縣内は、一般に養蠶機業が盛んに
行はれる。

諸鐵道會點の高崎市は、前橋市（縣在）と共に、繭
生絲の大市場である。伊勢崎桐生市は大絹
織地、富岡は屈指の製絲業地である。高崎に
起る信越線は、アプト式軌道によりて碓氷峠
を越える。又上越線は、ループ線によつて清
水峠を越え、新潟縣との交通に變化を與へた。
栃木縣 北西部には、那須高原、男體などの火山があつて、温泉が多
い。南東部の那珂、鬼怒、兩川の流域は平野で、麥、煙草、大麻（全國第一）など
を産する。小山は、水戸、雨毛、東北三線の會點、栃木は繭生絲の取引
地、佐野、真岡は綿織物の産地で、足利市は、有名な絹綿交織物の大産
地である。

×附近は干瓢・石
村の産地
鬼怒川上流の發電
所の電力は東京市
に供給する

園解（上・中・下）
湖と華嚴瀧（下）
日光東照宮

管轄 下總北部・
常陸

△白色の大理石で
ある



草（以上太
田地方）

宇都宮市（縣廳所在地）は、東北日光二線の分岐點で、干瓢米を集散する。日光は、華嚴瀧・中禪寺湖などの自然美と、東照宮の人工美と相俟つて、内外人の歎賞する絶景で、夏秋は、遊覽者が殊に多い。日光の南西にある足尾は、本邦屈指の銅産地として名高い。茨城縣 水産物の多い鹿島灘の沿岸には、湊大洗磯濱助川などの漁港や保養地がある。北部の山地は、金銀銅（以上立石炭（常陸））寒水石煙草（以上太田地方）を出し、霞浦・北浦を湛ふる南部平野は、麥・大豆を多く産し、



筑波山は男體・女體の雙峯に分れて男體山上に故山階宮殿下創設の高空洞候所がある

養蠶・醸造も行はれてゐる。

水戸市（縣廳所在地）は、那珂川の下流に臨み、徳川親藩の舊城地で、交通商業の要地である。結城地方は、紬・木綿を産出する。土浦は醬油、石岡は清酒の醸造で名高い。

第二章 奥羽地方

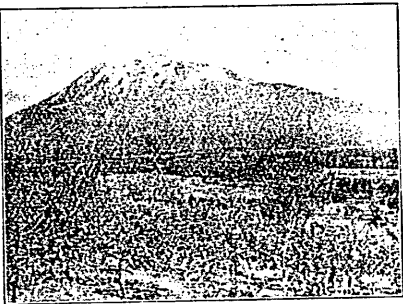
第一節 地文誌

地域 奥羽地方（古の陸奥）は、一に東北地方ともいはれ、面積は甚だ廣いが、その反對に人口は少い。行政上、福島・宮城・岩手・青森・秋田・山形の六縣に分れる。

地勢 東部山地（北上山脈・阿武隈山脈）中央山地（奥羽山脈・那須火山脈）西部山地・出羽丘陵・越後山脈・海火山脈は縦走し、本地方の骨格

中央山地には板谷・狭谷などの峠があつて東西の交通が行はれてゐる

図解 弘前郊外より見た岩木山

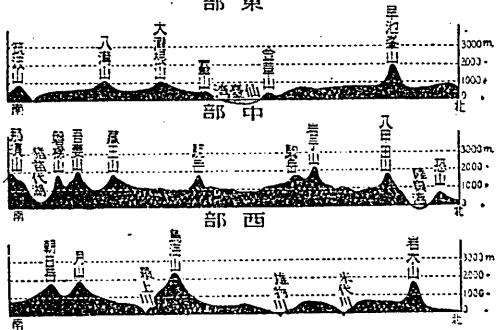


をなしてゐる。就中中央山地は最も高峻雄大で諸川の分水界をなし、西部山地と共に、火山や温泉が多い。湖沼は、風光の美しいものが多く、殊に猪苗代湖・八郎潟・十和田湖・田澤湖等が名高い。猪苗代湖より出づる日橋川

(阿賀川)には、壯大なる発電所が數箇所あつて、東京地方等に送電してゐる。

河川中、北上・阿武隈の二川は、廣い縦谷を開いて、太平洋に注ぎ、米代

奥羽地方南北断面圖



図解 男鹿半島の一部

日本海方面では冬季野外の労働は概して不可能で農民は家にあつて副業に従ひ或は他地方に多く出稼する

最上・阿賀の諸川は、多くの盆地及び横谷を潤して、日本海に入る。これ等の平地は、田園がよく開け、交通も發達して、本地方の主要産業地となつてゐる。海岸は、牡鹿・下北・津輕・男鹿の四半島、陸奥・仙臺の二灣、岩手・縣東岸の屈曲が、目立つたけて、屬島も少い。

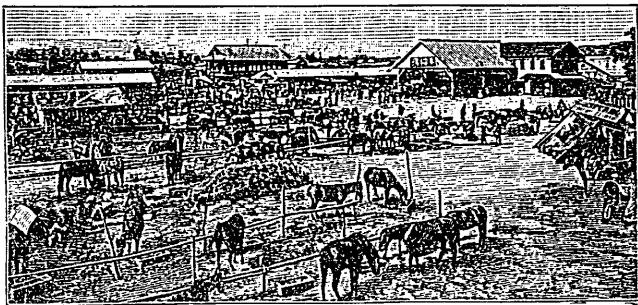
氣候 東岸は、寒流に洗はれて氣溫が低く、西岸は、暖流と大陸との影響を受け、冬に積雪が多い。



第二節 人文誌

産業 農業は、主要産業であるが、耕地が少く、氣候が二毛作を許さない。その産額は少い。米は、平地殊に最上川・御物川・岩木川・此上川等の各流域に多く産する。岩木縣や青森縣には、稗の産が少

圖解 (上)盛岡の馬市(下)青森縣の苹果

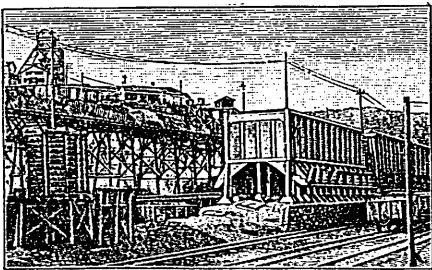


くない。馬鈴薯は、青森岩手の二縣苹果は青森縣を主産地とし、櫻桃は、山形福島に多い。阿武隈最上流域には、養蠶が廣く行はれ、福島山形二縣は製業絹織絲業が盛んである。原野が多いから牧畜殊に牧馬が盛んで、その頭數が多く、盛岡・白河の馬市は有名である。山林が多く、殊に米代川流域の杉、津輕半島の羅漢柏は、其の產出が多い。

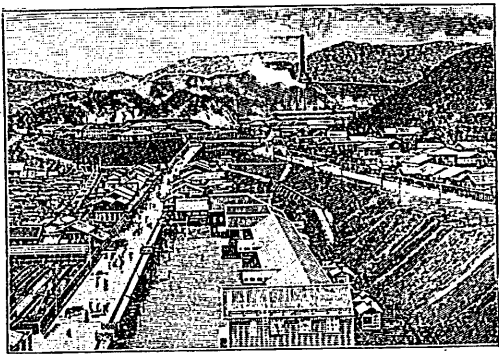


米代川及び雄物川の各流域には、小坂の大鑛山を始め、數多の鑛山

圖解 (上)常磐炭田の炭坑(下)小坂鑛山



があつて、銅を主として金銀などを產出する。この外秋田附近の油田は、原油の產額が、新潟縣について多く、土崎港に、大製油所がある。又、平附近は石炭、釜石附近は鐵鑛を産する。太平洋方面には、水產物が多く、宮古・鮫の漁港があつて、漁業が盛んに、行はれ、金華山沖の鯨、鯉、鮪、岩手縣沿岸の鮑、烏賊、青森縣の鰺、鰯の漁獲を主とする。



交通 地勢の關係で、鐵道は、先づ南北の縦貫線が發達し、東西の横斷線がおくれてゐる。

仙臺・秋田にラヂオ放送局がある

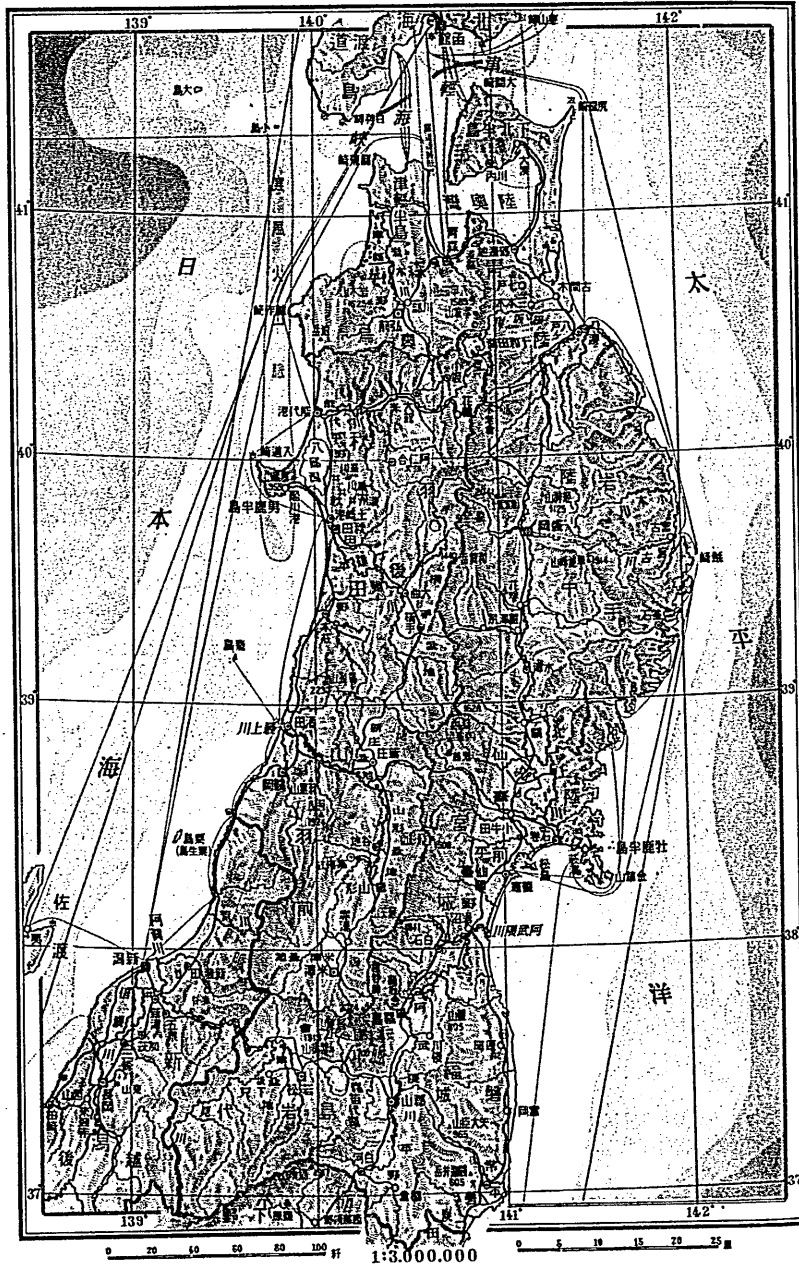
東北線は、仙臺を経て青森に終り、その支線に、横黒線・大湊線などの短距離線がある。奥羽線は、福島に起り、山形・新庄・秋田を過ぎて青森に至り、鐵道連絡船によりて、北海道に通じてゐる。之にも多くの短支線がある。羽越線は、秋田より酒田を経て新津(新潟縣)に至り、信越線に接続する。常盤線は、東岸地方を北して岩沼に至り、東北線に接続する。その平に起る盤越線は、郡山・若松を経て新津に達する。陸羽線は、東北線の小牛田(福島縣)に起り、新庄にて奥羽線を横ぎり、余目にて羽越線に連絡する。青森灣内の青森・東岸の萩濱(アキハ)・鹽釜・西岸の船川港の外には、良港がないので、船舶の往來が少く、冬季は、風波が荒く、雨雪が多い故、海上の交通が、不便である。

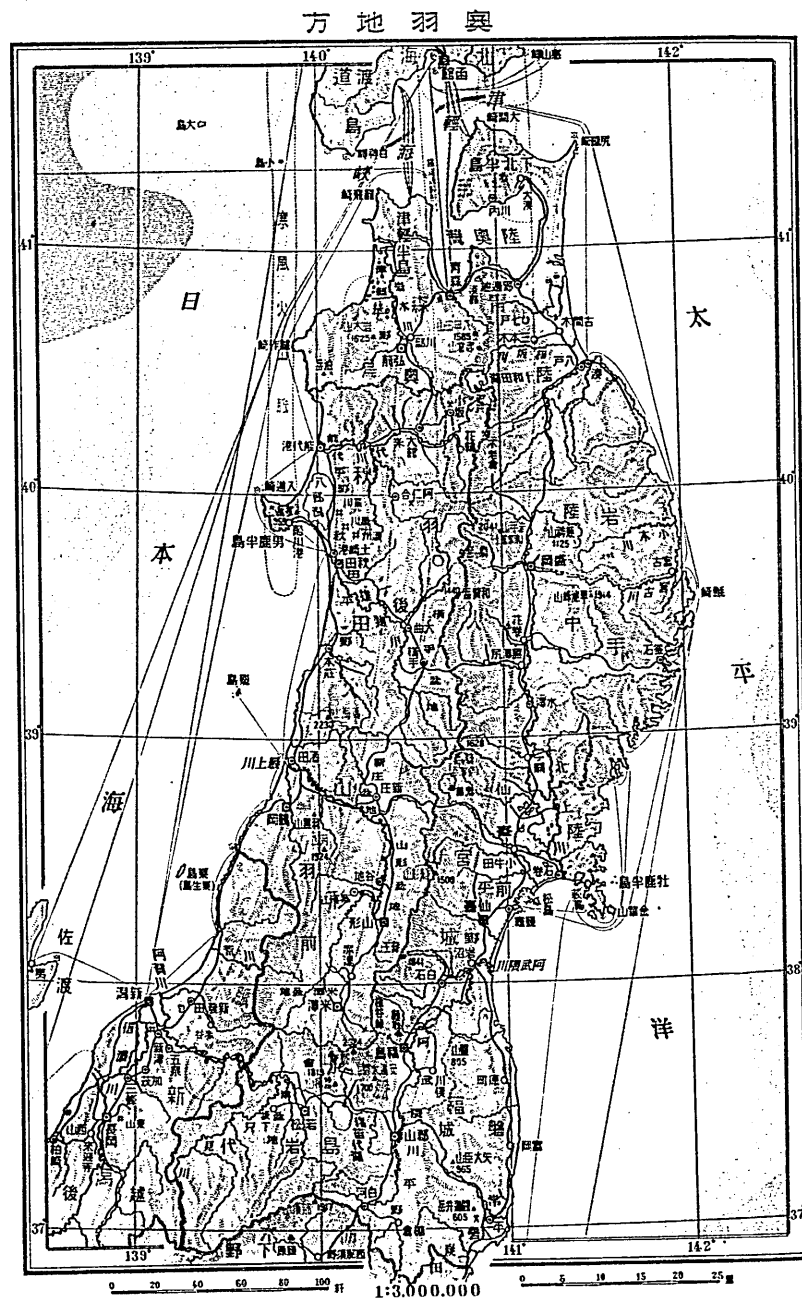
都邑 諸鐵道の沿線には、仙臺市を始め、地方的の中心都市がある。

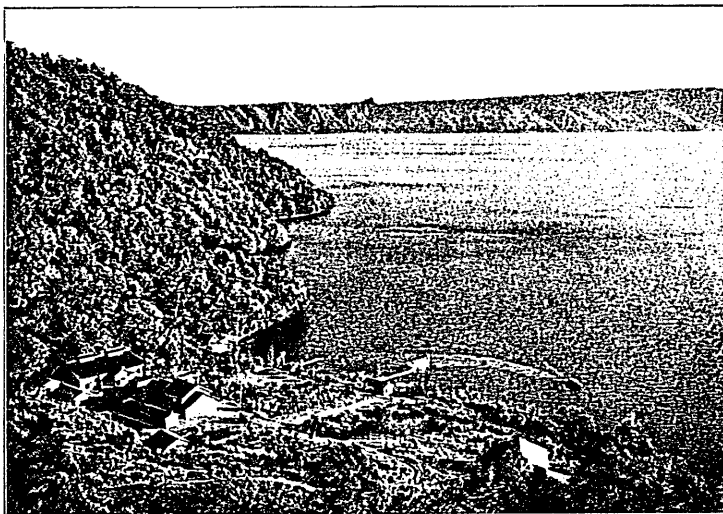
第三節 處 誌



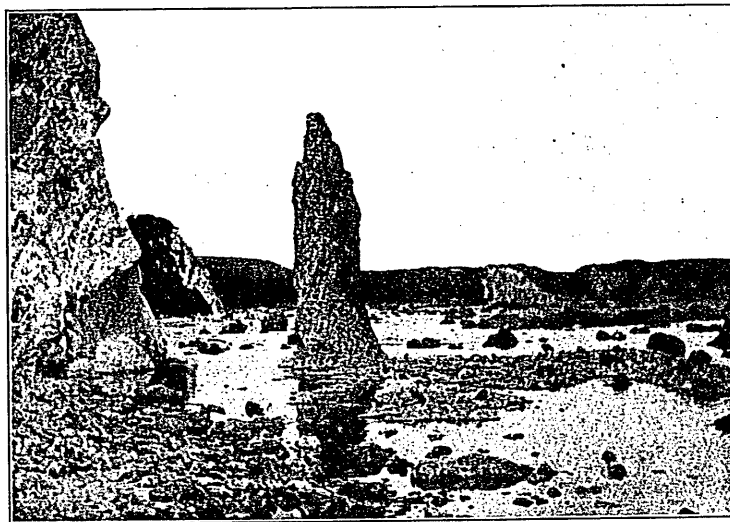
方地羽奥



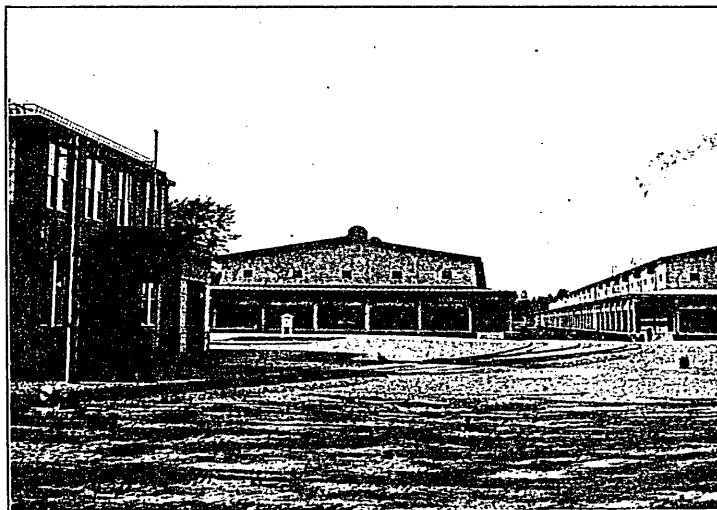




湖田和十
の外塵り茂が林始原てつ繞を水の碧紺で湖の勝景的表代るけ於に國が我
るあで觀景の近附場魚養一の其は圖れは行が魚養の鮎はで湖 すなを地天別



勝奇の島半鹿男
の壁絶・窟洞・岩奇にめ爲の用作蝕海の岩山火は岸西の島半鹿男 勝奇の島半鹿男
るあで岩奇觀すなを端南の勝奇は眞寫 い難し盡に紙筆觀壯れら作形が勝奇



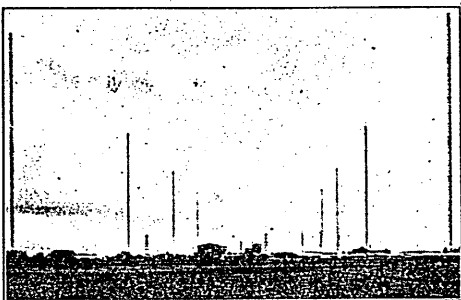
心申一の業商羽奥れら知てしと地散集の米内莊りよ來古は田酒 庫倉米立國の田酒
い多も往來の船舶え榮る頗が引取の穀米てれき置設が庫倉立國も今 たつあで



かは林森大の流上川代能 るあで觀景の場木貯の社倉材木田秋 積集材木の港代能
るゐてれき給供に地内く廣て以を名の杉田秋上の材製てれき積集に量多く

管轄 磐城大部・
岩代

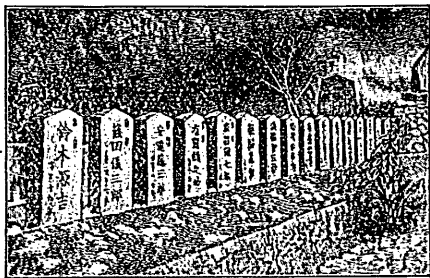
図解 (上) 原町の
無線電信發信所
(下) 白虎隊の墓



福島縣 域内は、東部中央の二山地によつて、
東中、西の三部に分れ、それ／＼濱通・中通・會津
と呼ばれてゐる。
濱通は、常磐線が通じ、平よりセメントを湯本
より石炭を積出す。中村
は、古來相馬焼を産し、富岡
原町には、宏大な無線電信
局がある。

牧馬養蠶製絲等が行はれる。白河須賀川・三春
は馬の市場である。

郡山市は、東北磐越二線の會點に當り、新進の工
業市である。福島市(縣廳所在地)は、東北奥羽二線の會



諸苗代湖の水は、
灌漑の疏水と發電
とに利用せられ其
の電力は東京市其
の他に送られる

管轄 陸前大部・
磐城小部

圖解 仙臺市街の
一部



點である。

會津は、盆地をなしてゐる。若松市は、會津の中心地で、白虎隊で著はれ、附近より、會津塗、會津焼、會津蠟燭を産する。

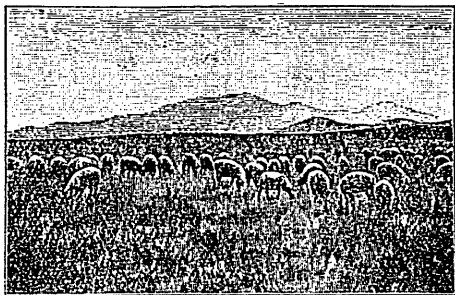
宮城縣 西部の中央山地は、牧馬が榮え、東北線の通ずる仙臺平野は、陸前米を産出する。北上川河口の石巻は、鐵道開通前陸前米の輸送で賑つた處である。

仙臺市は、廣瀬川に跨り、形勝の地を占め、奥羽地方の大都で、製絲工場がある。仙臺平埋木細工を名産とし、縣廳東北帝國大學第二師團司令部控訴院などがある。其の外港鹽釜の前面には、松島灣の絶景(日本の一)が展開

小牛田は陸羽線の
分岐點

管轄 陸前小部・
陸中大部・陸奥
小部

圖解 (上)小岩井
農場山は岩手山
(下)平泉の金色
堂



してゐる。金華山は、航海者の好目標で、その沖合は、本地方での主要漁場である。

岩手縣 各府縣の中に於いて、面積が最も大きく、人口が最も稀薄である。

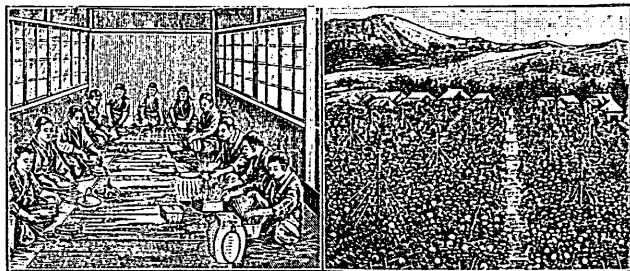
海岸は鋸齒狀を呈し、良泊地に乏しくないが、北上山脈に限られて、後背地との交通が不便なる故、港市が発達しない。唯、内地第一の鐵山を控へ

た釜石のみが、稍、著しい都會である。盛岡市は、北上川の上流に位し、南部鐵瓶馬の市場で、縣廳鐵道工場がある。小岩井農場は、造林牧



管轄 陸奥大部

圖解 苹果園と木
通莖細工



畜犬農式耕作を、新式方法にて行ふ所として知られてゐる。東北線の通る北上馬淵二河谷は、稗(飼料)馬を産する。水澤は緯度観測所の所在地で、平泉附近には、藤原時代の史蹟が多い。

青森縣 本州の最北に位し、津輕海峡を隔て、北海道に對する。山地は、羅漢柏の良材を多く出し、又八甲田山と、風光明媚の十和田湖(最奥部)とがある。東岸に、八戸市がある。三本木は、牧馬の中心である。斧形の下北半島は、陸奥灣と大湊海軍要港とを抱き、羅漢柏の美林で名高い津輕半島と相對してゐる。

青森市(縣在縣)は、陸奥灣の開港で、東京を距ること七百六十軒、函館室蘭小樽大泊等に航路を通じ、

管轄 陸奥中部・
羽後大部

圖解 (上)能代港
製材所(下)秋田
縣の一油田

森吉火山の南方に
ある田澤湖は本邦
の最深湖(三米)

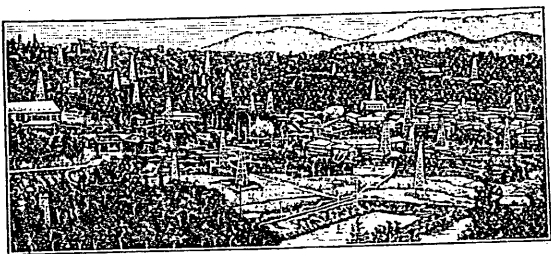


製材罐詰製造が行はれる。津輕平野の弘前市は、第八師團司令部のある處で、木材米を集散し、津輕塗、苹果木、通莖細工の産が多い。

秋田縣 秋田縣は、長方形を呈し、東にある岩手縣と、奥羽山脈によつて脊中合せをなしてゐる。縣の中央山地には、小坂尾去澤荒川等の鑛山

があつて、銀銅の産額が多く、殊に小坂は、本邦屈指の大銅山である。

能代川口の能代港は、上流地方に、杉の大美林を控へて、製材業が頗る盛んな所である。



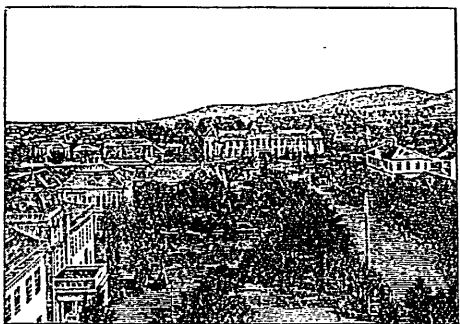
■線上に本莊の名
呂、象湯の舊址が
ある

圖解 山形市街

管轄 羽後小部・

羽前

湯殿山は月山の一
部



との境上に、鳥海山(羽後)がある。最上川は、羽黒山・月山・湯殿山(以上は羽前)などの山地と、中央山地との間を流れ、米産地の庄内平野を潤して日本海に注ぐ。

庄内平野の酒田は米、鶴岡市は米、羽二重の市場である。新庄(奥羽)

雄物河畔の秋田市(縣廳)は、羽越線の起點で、絹織物大路を産出する。附近には、油田が頗る多く、其の外港の土崎港は、製油業が盛んである。又開港の船川港を補助港として、米・石油の積出が行はれてゐる。

奇勝に富める男鹿半島は、日本海に突出し、内に八郎潟を抱いてゐる。横手・大曲は、米産地の中心である。

山形縣 宮城縣と脊中合せをなし、秋田縣

二線(交點)は、交通の要地で、山形(縣廳)・米澤の二市と共に、それ／＼同名の盆地に位する。山形市は、銅鐵器・綿織物を産し、又其の附近は、櫻桃を産する。米澤市は、絲織の産地である。

第三章 中部地方

第一節 地文誌

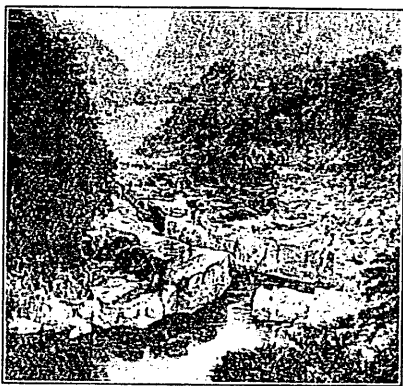
地域 中部地方は、本州中、幅員最大の處で、關東・奥羽二地方と、近畿地方との間に挟り、昔も今も重要な地方で、大工業地・大米產地・大蠶業地を含んでゐる。行政上、山・梨・靜岡・愛知・岐阜・長野・新潟・富山・石川及び福井の九縣に分たれる。

地勢 北東派と南西派との山系の會する所で、地相が極めて錯雜してゐる。本邦屈指の高峯・峻嶽に富める日本アルプス(飛騨・山脈・乗鞍・火・山脈)

圖解（上）河口湖
より見たる富士
山（下）木曾川の
一部（登母床附
近）



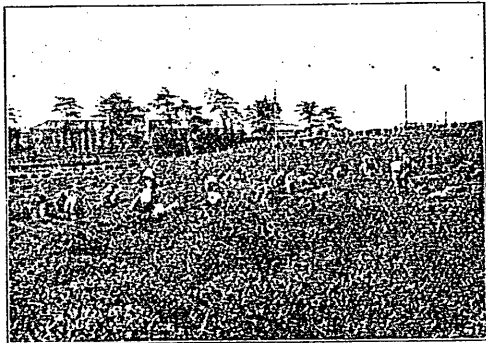
る。此の外、西北に、白山を主とする



は、兩越・信飛の國境を南北に走り、その西に、飛騨高原があり、南東に、木曾・赤石の兩山脈が竝走してゐる。東境には關東越後兩山脈が對峙し、富士火山脈は、遠く南洋より來て、中央部を横斷してゐる。

富士山麓の湖畔や
野湖畔は避暑に
適する

×渥美・知多兩半
島間に三河灣が凹
入してゐる
圖解 静岡縣牧ノ
原の茶摘



白山火山脈東境に、那須火山脈がある。河流の大部は、中央の山地より出づる急流なので、屢、水害を起すこともあるが、信濃川や木曾川は、下流に、廣大な平野を開いて、農産の寶庫をなしてゐる。湖沼は、諏訪湖・濱名湖が名高く、日本海岸には、潟（湖澤）が多い。

海岸は、日本海方面の能登半島・富山灣と、太平洋方面の伊豆半島・駿河灣とが、南北に相對する。若狹灣と伊勢海との間は、本州の最狹部である。屬島は、極めて少く、佐渡が最も大きい。

氣候 南部は溫暖、中部は夏熱冬寒である。北部の冬季は、雪が深い。

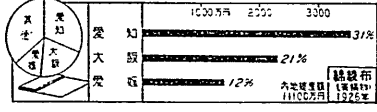
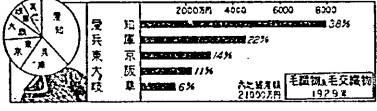
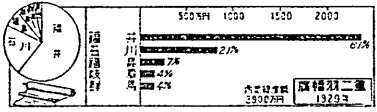
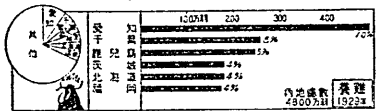
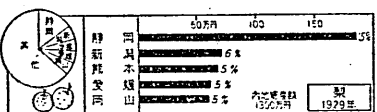
第二節 人文誌

×養蠶が盛んである

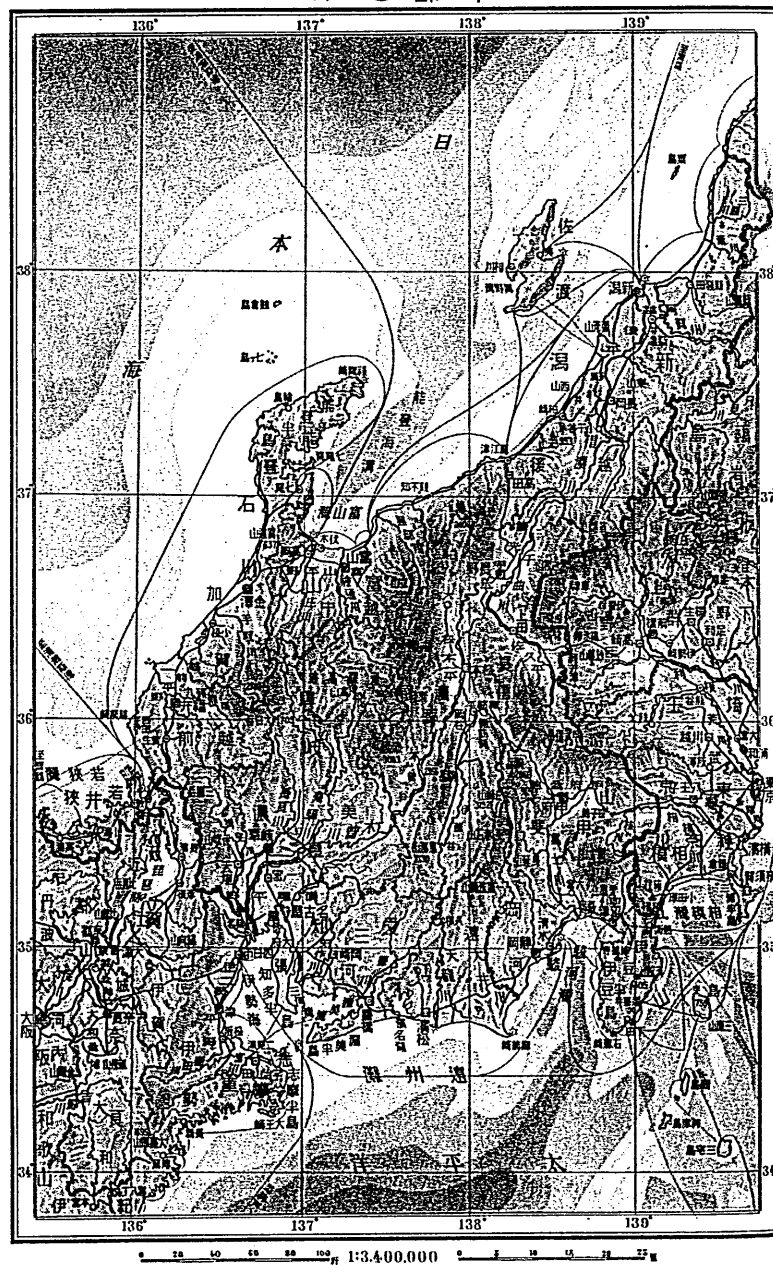
図解 長野県の産物の運搬



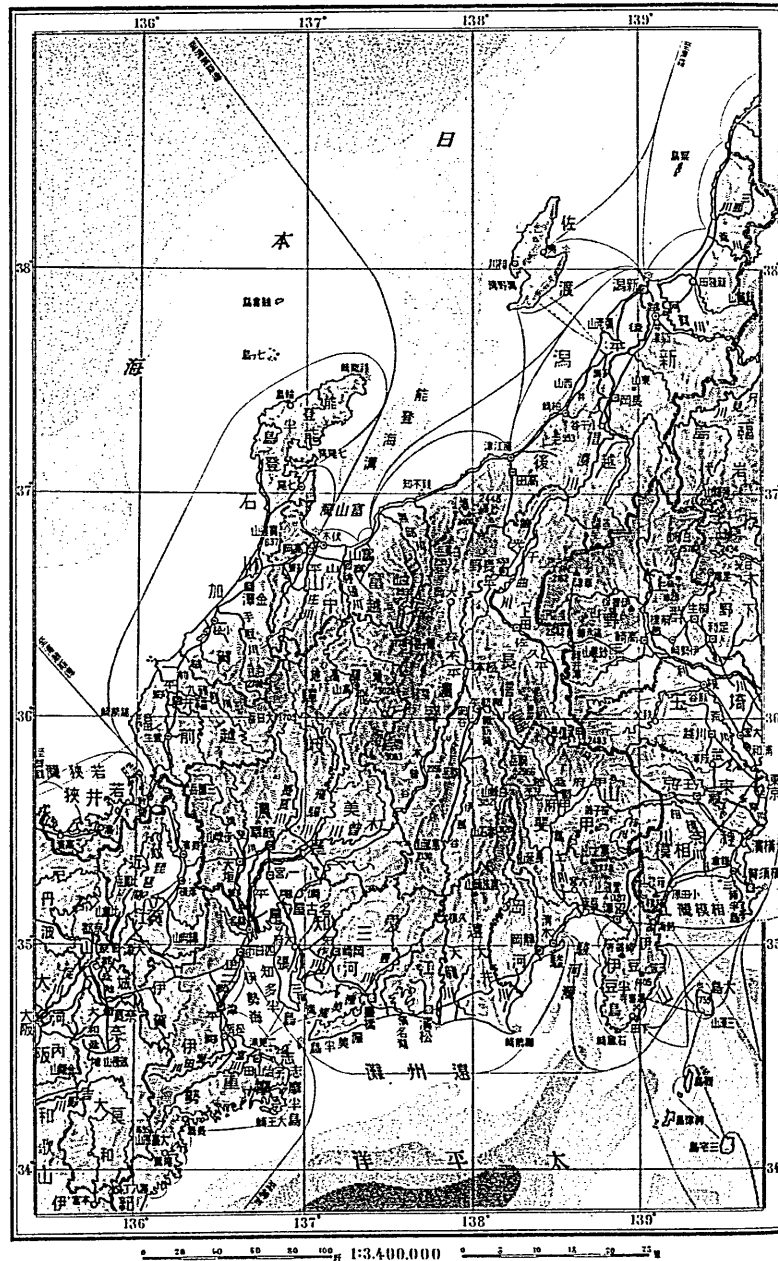
産業 濃尾・越後・越中等の平野は、米産が多く、濃尾平野は、麥・野菜などの産額も亦多い。静岡縣は茶・蜜柑・梨、山梨縣は葡萄、長野縣は大麻を産する。養蠶業は、一般に盛んであつて、殊に長野縣は、繭の産額が著しく多く、我が國第一で、愛知縣も之について多い。養蠶業の盛大につれて、一般に製絲業も發達し、殊に長野縣の生絲の産額は、全國總産額の三割を占め、愛知縣の産額も、他府縣を遙か



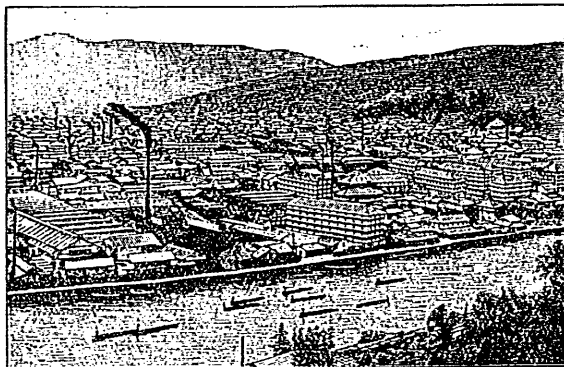
方地部中



中部地方



図解 岡谷の製絲
場全景



に凌いでゐる。日本海の沿岸地方は概して絹織物特に輸出向羽
二重・富士絹の製造が盛んで、福井・金澤及び其の附近は、その主産地
となつてゐる。

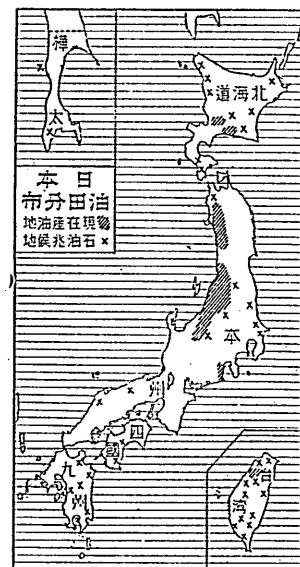
名古屋及び其の附近は、電力を得やすい
のと、交通が便利であるとの爲に、一大工
業區をなして、綿絲・綿織物・絹綿・交織物・毛
織物・陶器・時計及び車輛等、各種の工業が
盛大に行はれてゐる。富士・愛鷹山麓も、
亦一大工業地區をなし、和洋紙・製絲・紡織
等の工業が發達してゐる。その他、濱松
地方の綿織物・樂器、瀬戸・多治見地方及び
金澤地方の磁器、岐阜地方の絹織物、富山
の賣藥、静岡・輪島の漆器、小千谷・十日町・五

泉の絹織物などは、其の産額が多い。主要なる林業地は、木曾川上流の木曾谷で、檜杉などの良材に富んでゐる。天龍川の上流や、天城山の杉も、亦世に名高い。

越後平野には、新津、東山、西山等の廣大な油田があつて、近年有名となつた秋田縣の油田と共に、我が國の原油の主産地となつてゐる。

従つて製油業及び附帶事業も、この地

图解 佐渡の鐵山



西山新田	70万バレル	140	210	250
新田新田	70万バレル	140	210	250
豊川新田	70万バレル	140	210	250
通川新田	70万バレル	140	210	250
豊川新田	70万バレル	140	210	250

内産原油 1250万バレル
原油 1522万バレル

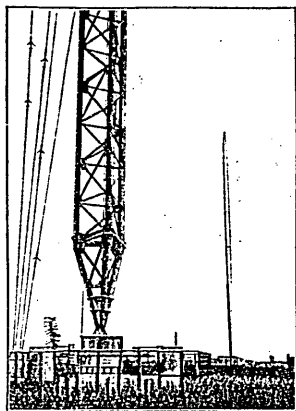
方に發達してゐる。その他の鑛産物には、佐渡の金、銀、尾小屋の銅、神岡の銀、鉛、鋅がある。水産業の最も盛んな地方は、静岡縣で、鰹、鰯、石花菜等の水産高が多い。石川、新潟二縣の鰻は、之につき、愛知縣の水産も亦著しい。本地方の商業を見るに、名古屋は、その商業範圍が甚だ廣く、静岡、福井など、地方的中心地が各平野にある。

交通 東海、中山、甲州、北陸、越後の諸街道は、古來東西交通の重要道路で、鐵道も、略之に沿うて設けられてゐる。東海道線は、太平洋の沿岸を西に向ひ、名古屋にて中央線、關西線に、米原にて北陸線に連絡してゐる。中央部では、中央線が東西に通じ、信越線が南北に通つて、兩鐵道は、篠井線によつて連絡されてゐる。日本海岸では、米原に起る北陸線が、敦賀にて小濱線に、また直江津にて信越線に接続し、津幡にて七尾線に、高岡にて中越線に交はつてゐる。

日本海岸には、敦賀の外、伏木、新潟等の河口港が多いが、海上は、風浪

圖解 名古屋無線
電信局依佐美送
信所

金澤・長野・静岡・
新潟にもラヂオ放
送局が設けられた



が荒いので、交通が困難である。しか
し敦賀は、ウラヂラストクと定期航路
を相通じて、我が國の鐵道とシベリア
鐵道との連絡をとつてゐる。又北朝鮮
の諸港にも、航路を通じてゐる。
太平洋方面は、東西交通の要路に當つ
てゐるので、名古屋清水の二港には、外國航路の汽船も出入する。
名古屋新潟・金澤若狹に無線電信局、篠島に無線電話局、名古屋にラ
ヂオ放送局が置かれてある。
都市 商業の繁榮に伴つて、都邑も相當に發達してゐるが、大都會
は、名古屋だけである。

第三節 處 誌



るた々峨 るあでのため跳りよ近附岳燕を岳ヶ鈴峯雄の脈山屏飛 スプルア本日
いなりま極大堆てし展開くな憾遺を貌地の期年壯はと谷溪の似千と峯連



起を水洪はに期雨が少が水に合割は時平し下流々悠てし蝕侵を地臺起隆 川井大
るあで原ノ牧な名有で増栽の茶で部一の地臺起隆ち即は岸向の景遠 い易し

管轄 伊豆大部・駿河・遠江

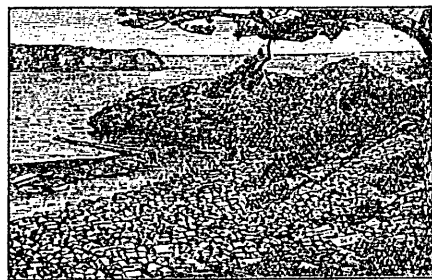
圖解 (下) 下川港 (上) 沼津附近と富士山

×動力に富士の伏流を利用する

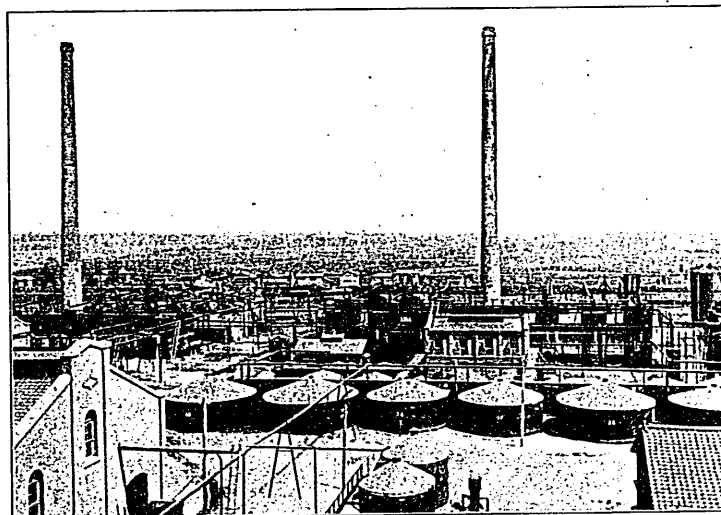
△茶の輸出多き開港



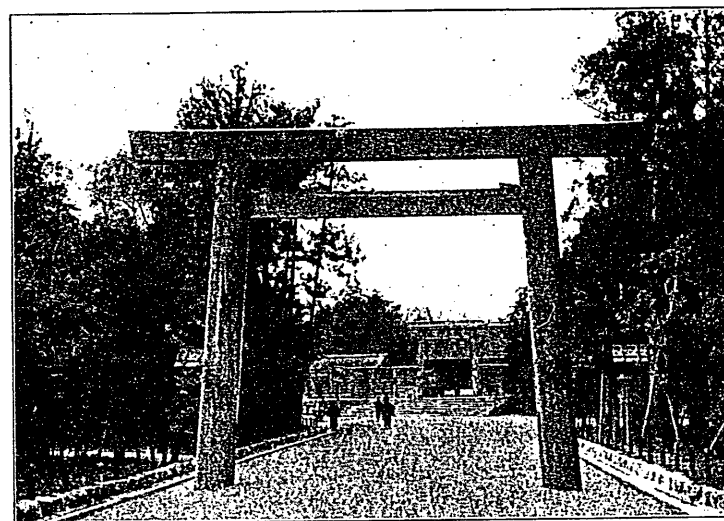
静岡縣 相模灘駿河灣間の伊豆半島には、富士火山脈が通じて、天城山が峙ち、熱海伊東修善寺等の温泉が多く、南端に、名高い下田がある。北東境の富士山は、直立三千七百七十六米、實に世界の名山、缺尖圓錐形の好模型で、其の裾野は、三極の栽培が盛んで、南西方の大宮附近は、洋紙の主要な產地である。



本縣の三大川である富士大井天龍は、概ね急流で、水運に乏しい。しかし、その下流地方は、茶、蜜柑の栽培が盛んである。沼津市、田子浦、興津、清水市、三保松原などのある駿河灣岸一帯



新し併 るあが所油製な大宏はに湯新るゐてへ控を地油産の一國全 所油製の湯新
るあものもるゐて止休はに中くな量油製のどほ前以は所油製の地各内縣め始を津



く普て次に廟大勢伊 るあてつ祀を劍薙草し座鎮に田熱部一の市屋古名 宮神田熱
るめしき正を標ずは思てしと蒼鬱木樹てく廣だ甚は内境 る居てれら知に人

の地は東海の勝區として、何れも避暑避寒に適する保養地である。北東の小山には、絹綿紡織の工場がある。

静岡市は、縣廳のある處で、また茶漆器紙の市場である。此處より濱名湖畔に至る一帯の地（東海道沿線）は、本邦一の製茶地で、又柑橘類の

産も多い。西部の濱松

市は、樂器帽子織物を産出する。

山梨縣 四周は、悉く山

地である。域内は、笹子

峠によつて、甲斐絹（海産）を

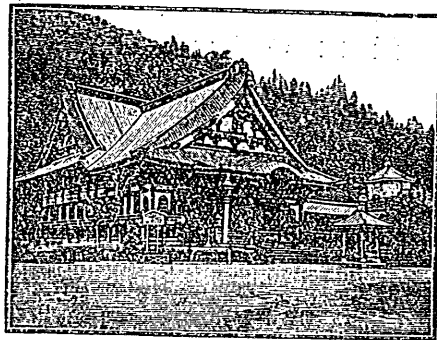
産する郡内地方と、葡萄

を産する甲府盆地とに

分れる。富士の北麓に



管轄 甲斐
圖解（下）身延山
久遠寺（上）勝沼
の葡萄園



×日蓮宗の本山久遠寺がある

甲府市の東北金峯山麓の御岳に昇仙峽の奇勝がある

管轄 三河・尾張
圖解 名古屋城

×北方に豊川稻荷と鳳來寺山（塊狀火山）とがある
△名古屋に電車を通ずる



は、湖沼が多く、山中湖より出る桂川（馬入川の上流）は、猿橋の奇勝を有し、水力電氣を東京市に供給する。富士川は、甲府盆地の諸水を集め、身延山の東を南流して駿河灣に注ぐ。その河畔の鉄澤は、富士川下りの船の起點として、古來知られてゐる。

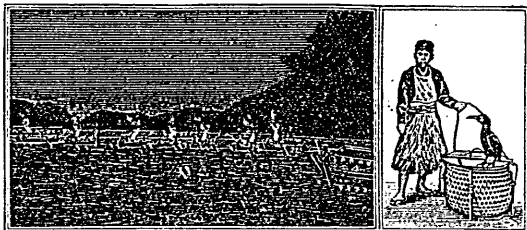
甲府市（縣廳所在地）は、生絲水晶細工を以て名高く、その東方の勝沼附近は、葡萄の産地として名高い。韭崎は、米を集散し、その北方の増富は、我が國屈指のラヂウム温泉地である。

愛知縣 矢作川以東は、山地が稍多く、製絲機業が榮え、その以西は、濃尾平野に屬し、農工商の活潑な地方で、米麥毛織物綿紡織品陶器等を産する。豊橋市は、豊川の下流に跨る大製絲業地である。矢作川中流の岡崎市は、徳川

×東海道線・關西線・中央線

△八高・高工・高商愛知醫大

管轄 岐阜・飛騨
國解(上)長良川
勸業(下)養老池



氏の創業地、綿絲綿織物業の中心である。有松は絞染、瀬戸市は陶器、龜崎(西)半田(西)は醸造を以て知られてゐる。
名古屋市(中)は、三鐵道の會點に立ち、東京・大阪間の大都、新進の開港で、中部地方文化の中心地である。徳川親藩の舊城、地帝國第三の大都市で、東京を距ること約四百軒、工業が甚だ盛んで、縣廳熱田神宮、第三師團司令部、控訴院高等諸學校等がある。一宮市は綿絲毛織物を産する。
岐阜縣 縣の東北部は、飛騨高原である。南西部の濃尾平野は、多く美濃米を産出する。木曾



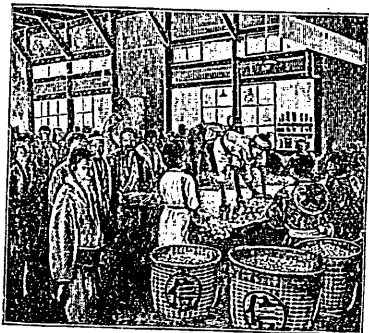
×上流地方は美濃紙の主産地

△南方に養老池のある大公園がある

管轄 信濃

信玄・謙信の戦地
國解 諏訪引場

▲伊那谷・木曾谷
×諏訪平・松本平・善光寺平・佐久平



川は、この平野で、飛騨長良、揖斐等の諸川を容れて南流する。岐阜市(縣座)は、鵜飼と絹織物紙製品(國府等)の産として名高い。大垣市は、綿絲粗布毛織物を産し、米を取引する。關原は、古戦場である。神通川上流の高山は、風景がよく、南に位山(産地)遙かの北に神岡、鑛山を控へ、生絲及び春慶塗を産する。

長野縣

本州の略、中央部を占め、八縣十國と界する高原性の大縣

で、縣境に、日本アルプスの諸山、戸隠、淺間、赤石、八ヶ嶽などの火山が聳えてゐる。信濃川の上流である、犀、千曲の二川は、川中島で會し、天龍、木曾(流域に發)の二川は、木曾山脈を挟んで南流する。

本縣は、地勢上、二の谷と四の平野とに分れる。地味が農桑に、氣候が製絲に適して、繭

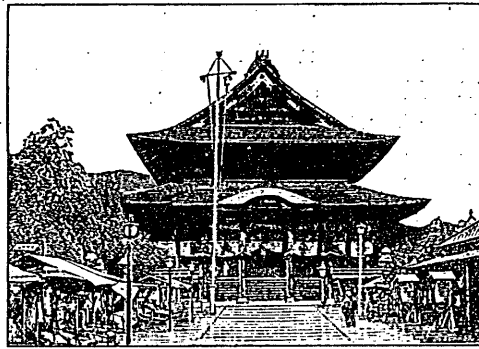
圖解 (上) 輕井澤
(下) 善光寺

輕井澤は土地が高
いから夏は涼しい

× 南方に天龍峽の
勝地がある
△ 南方に姥湯床の
勝地がある



野市(縣在)は善光寺詣での善男善女で賑ひ
米を集散する。飯田は伊那谷福島は木曾
谷の中心である。

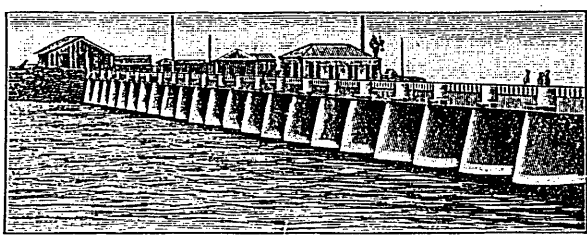


生絲蠶卵紙の産額が、全國無比である。
諏訪湖は、日本一の製絲地岡谷を控へ製氷氷
滑に名高く、木曾川と鐵道中央線とは、木曾山
中の檜材を運搬する
犀河畔の松本市と、千
曲河畔の上田市(絹の田
地及び丸子とは、繭蠶
卵紙の市場である。
浅間山麓にある輕井

管轄 越後・佐渡

信濃川は水量を調
節して下流の氾濫
を防ぐ

圖解 (上) 信濃川
の水量を調節す
る洗堰(下) 高田
郊外のスキ



新潟縣 阿賀・信濃の二川は、越後平野を貫
流し、その越後米は、丘陵から産する石油と
共に共に産額が全國第一
である。

である。

新潟市(縣在)は、信濃川口
に跨りて、米石油の取引が
盛んである。市は、明治初年
の開港であつて、信濃川の
吐出する土砂を防ぐなど、
港の設備を備へてゐるが、

冬季は、北風が烈しいので、佐渡の開港夷を補助港
としてゐる。新津は、三鐵道の會點に位し、石油坑
を控へて、將來有望である。長岡市は、水陸の交通

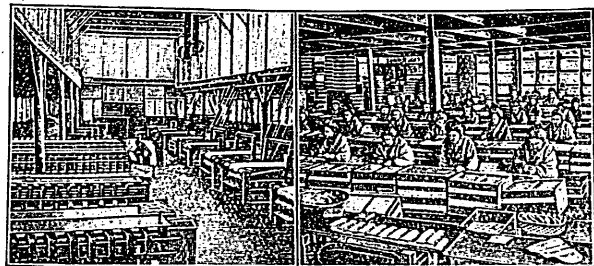


佐渡は鮑・鰯を産し相川の名色がある

管轄 越中

圖解 富山の製藥羽二重の工場

×其の峡谷は本邦一の深谷で受本橋や温泉がある



富山市（所縣在）

は、神通川に跨り、名高い製藥地で、立山連峯を一眸の裡

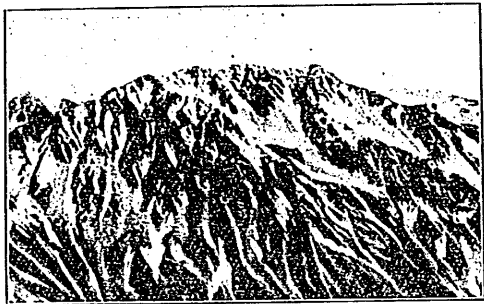
至便なる商工業地であつて、東山油田を控へてゐる。柏崎は、西山油田を控へ、長岡と共に、石油の取引が多い。小千谷十日町（越後縣）、五泉は、機業地である。直江津は、南越北信に對する米、石油等を集散する。高田市は、西部の中心で、深雪とスキートとを以て名高い。

富山縣 三方に山を繞らし、殊に東部の日本アルプスには、立山、大蓮華山、白馬嶽等の高山峻嶽が屹立し、展望が雄大である。中部の丘陵帶は、養蠶が發達し、羽二重織が行はれる。庄水、神通常願寺、黒部の四大川の潤す越中平野は、越中米の産が多い。

各河流は急流で發電に利用さる
中越鐵道の城端附近は機業地、水見は漁業地、魚津・滑川も漁業地、其の近海は盛氣樓が出現し、登島峠を産する管轄 能登・加賀

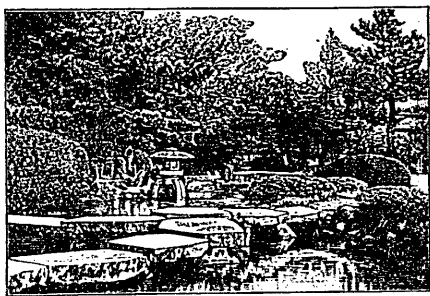
圖解 (上) 白山 (下) 金澤六園

×醫大・四高・高工



第九師團司令部兼六園高等諸學校がある。

に鍾め、風光が最も雄大である。高岡市は、庄川に臨み、開港、伏木を控へて、絹織物、銅器、漆器を産し、水陸交通の要地である。北陸線は、魚津、滑川、富山、高岡等を経て、倶利伽羅峠の隧道に入る。石川縣 南境の山地には、名高い白山がある。手首形の能登半島は、佐渡島を招くが如く、手甲の輪島は、輪島塗を産し、掌中の開港七尾は、日本海の要津で、和倉温泉に近い。金澤市は、前田侯の舊城下、北陸の最大都で、縣廳



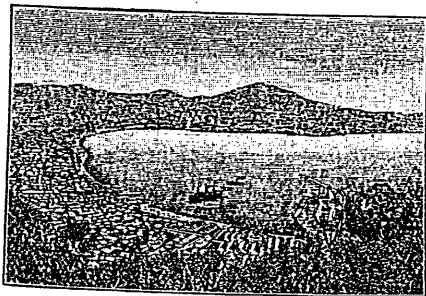
山代・山中は漆器産地である

管轄 若狹・越前

開解 (上) 敦賀港 (下) 藤島神社と永平寺

▲主に羽二重

▲別格官幣社で新田義貞を祀る三國港附近に東尋坊の奇跡がある



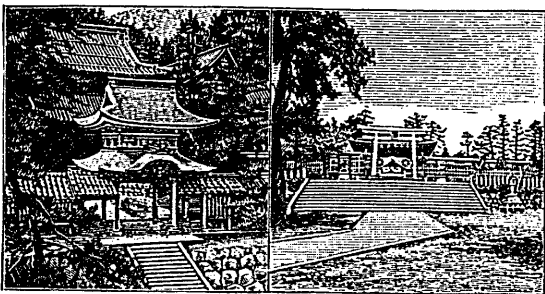
小松大聖寺は何れも羽二重・九谷焼の産出を以て名高い。

福井縣 若狹は出入の多い若狹灣を控へ、鯛・鰯と、小濱附近の若狹塗とを名産とする。九頭龍川本支流の開ける越前平野の福井附近と、山地の大野とは絹織物・武生

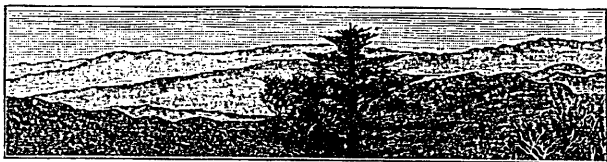
は紙(紙子)・麻蚊帳を産する。

福井市は縣廳や藤島神社の所在地で、東方に曹洞宗の本山として名高い永平寺がある。

敦賀は敦賀灣に臨み、金崎宮と氣比神宮とがある。又日本海岸第一



開解 大森原山より見たる大和連峰



の開港で、北陸線・小濱線の會點に立ち、浦潮斯德に定期船を通じ、歐亞兩大陸交通上の一門戸をなしてゐる。

第四章 近畿地方

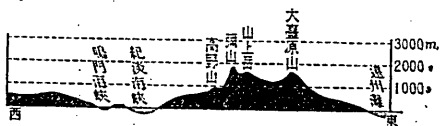
第一節 地文誌

地域 本地方は、もと帝國の中心であつた畿内と、其の隣接地とを含んでゐる。

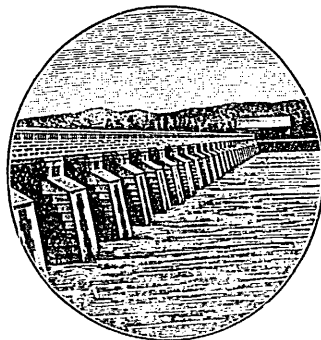
行政上、京都・大阪の二府と、滋賀・三重・和歌山・奈良・兵庫の五縣とに分れ、各府縣とも、面積は狭小であるが人口稠密の點が、關東地方に似てゐる。

地勢 南部の紀伊和泉の二山脈と東西に

面断西東脈山伊紀



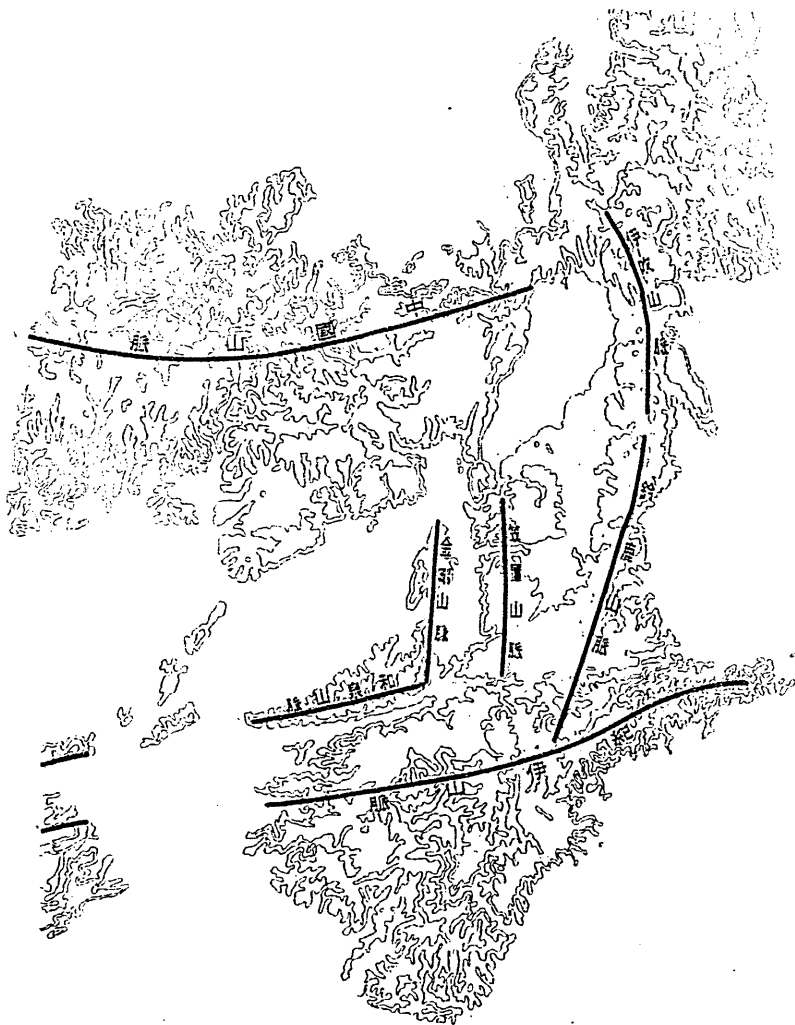
圖解（上）琵琶湖
の水量を調節す
る洗堰（下）鳴門
海峡で遠きは飛
鳥近きは探鳥



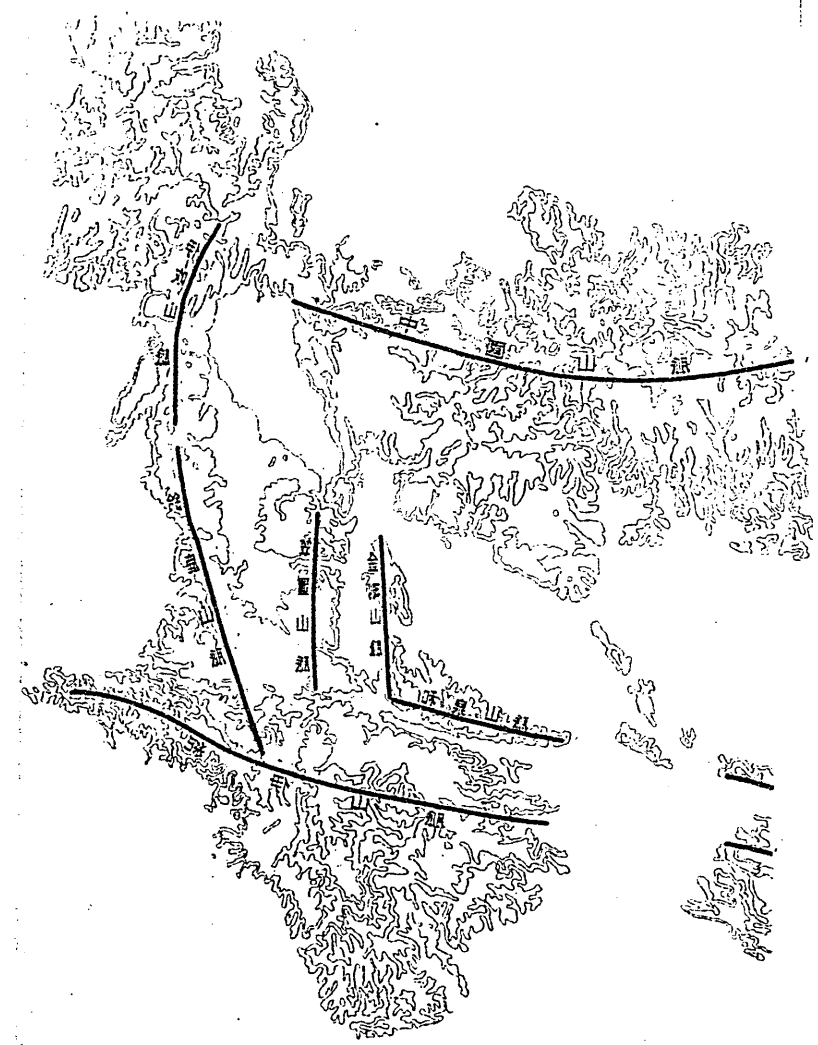
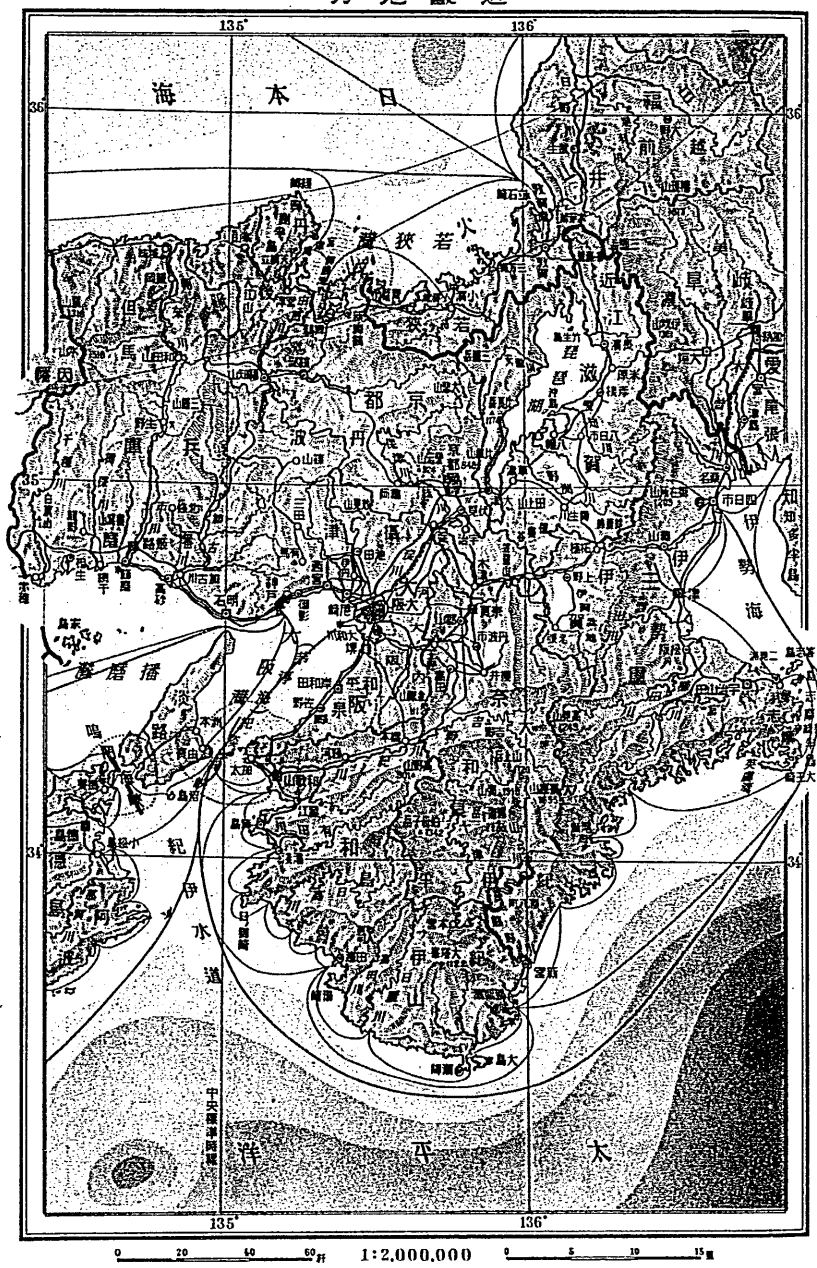
亘る北部の中國山脈・白山火山脈との間を、
伊吹・鈴鹿・比叡・笠置・金剛の五小山脈が、略、南
北に走つてゐる。其の間に、四個の盆地（近
大和・城）と三個の平野（阪・伊勢・大
山・伊賀）とがある。

本支流とて水を調節する洗堰がある。

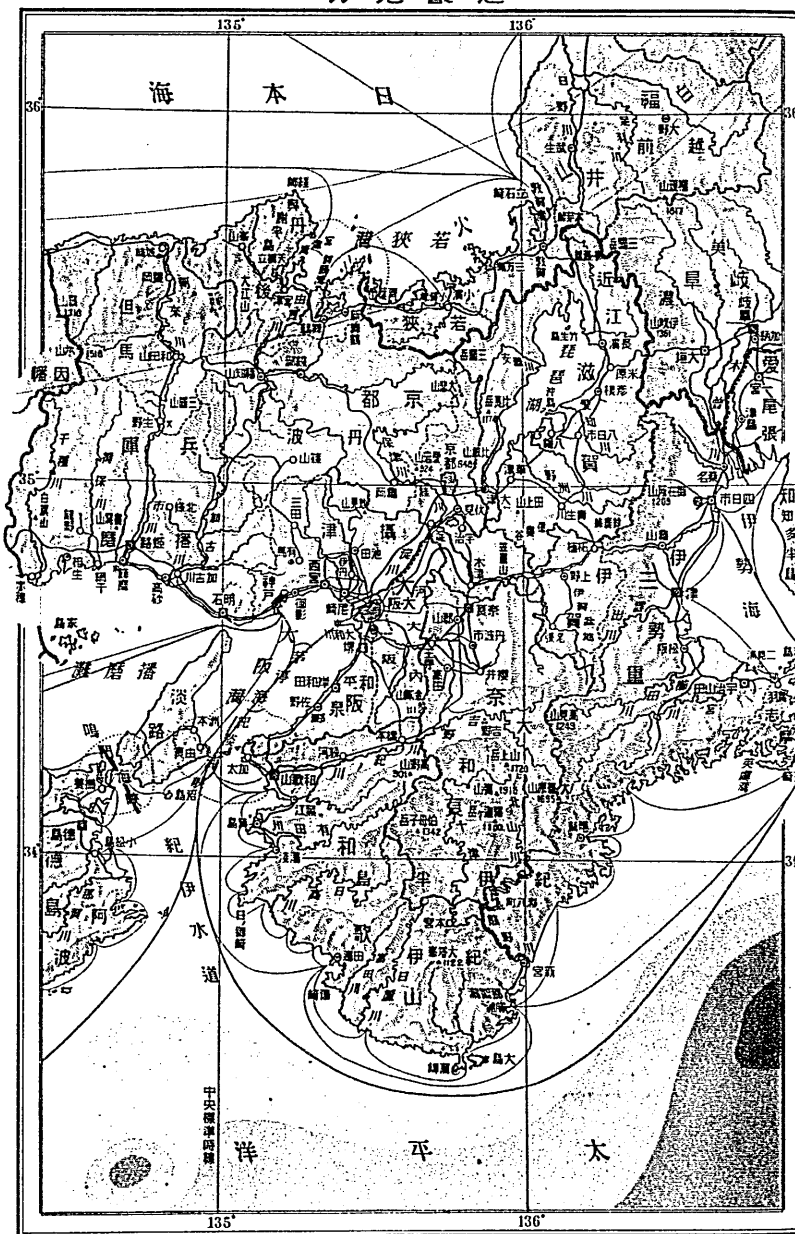
海岸は、日本海に與謝半島が斗出して、舞鶴・宮津の二
小灣を抱き、太平洋面には、紀伊半島の外に、熊野灘と
伊勢海とを分ける志摩半島がある。西面は、大阪灣
と播磨灘とに沿ひ、其の海岸には、須磨・舞子・明石など
の勝地と、赤穂などの漁鹽の利に富む處とがある。



近畿地方



方地畿近

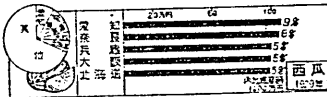


0 20 40 60 1:2,000,000 0 5 10 15 km



第二節 人文誌

る處に二毛作が行はれるので、一般に麥を産する。又菜種は、滋賀、三重、二縣を主産地とする。

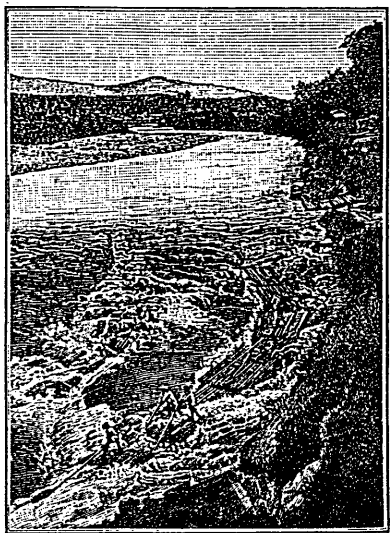


圖解 近畿地方の
水田

熊野川支流の北山
川に瀕八丁の深潭
がある

名高い。

吉野山塊・高野山などの紀川流域では、熊野川の流域と共に、杉の造林が盛んで、數多の良材が伐出されてゐる。紀伊半島の近海は、鯷、鰯など、が群集するので、沿岸地方には、漁業に従事する者が甚だ多い。瀬戸内海は、鯛、鱈、日本海は、鰯、烏賊の漁獲が多い。また赤穂

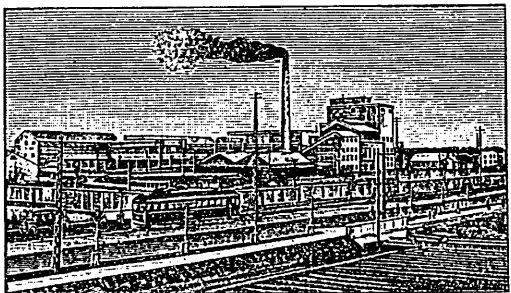
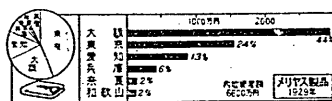
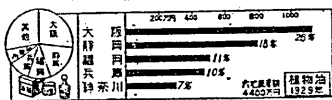
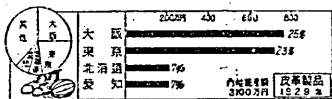
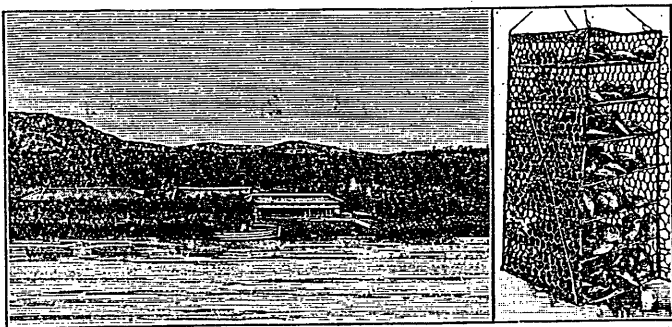


では、鹽を製し、志摩半島の英虞灣五ヶ所灣は、眞珠の養殖地である。鑛産中生野の銀銅と明延の錫とは名高く、加茂(三)の滿庵も注目される。この地方の主業たる工業は、大いに中央部の諸平野に發達し、殊に我が國第一の大工

圖解 吉野川杉筏

眞珠は東京にて細工を施し、歐米各國にも多く輸出する

圖解 (上) 志摩半島の眞珠養殖場の全景 (右) の金網に入れたものは海中に沈下せしむる養殖眞珠具 (下) 兵庫縣工業地の西宮

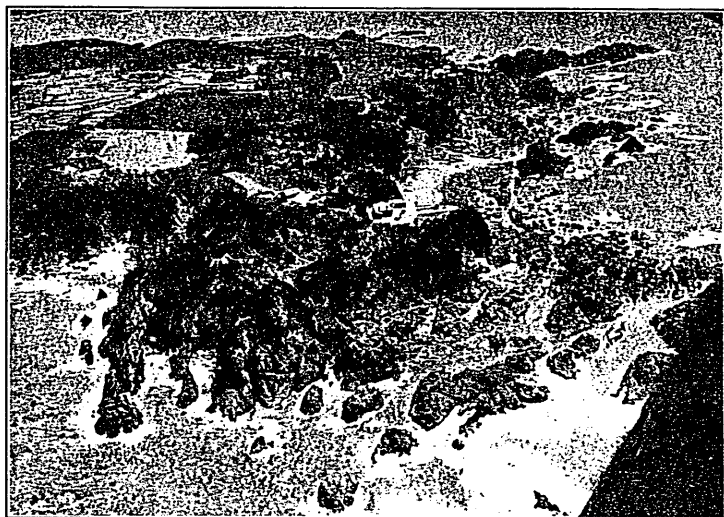


業地區といはれる大阪灣沿岸には、大阪神戸・尼崎堺を始め、幾つもの工業市が相接して、西は姫路、南は岸和田までも連なつてゐる。就中大阪は、全市に互つて、大規模の工場が設けられ、所謂煙

の都となつてゐる。

この沿岸地方の主要工業品は、綿絲布(大阪神戸・尼崎・和歌山)、船舶(神戸・大阪)、毛織物、機械藥品肥料メリヤス皮革(大阪・神戸・和歌山)、燐寸護謄麥粉(神戸)等であつて、共に莫大な産額に達する。又京都では綴錦朱珍を主とする西陣織、友禪染刺繡粟田焼清水焼蒔繪等、品質優秀な美術工藝品が製造される。四日市津和歌山高田等は、多く綿絲綿織物を産し、黒江は漆器、長濱峯山は絹織物灘地方は清酒を産する。大阪は、近畿以西の商業の大中心をなし、京都神戸和歌山四日市及び姫路も、亦商況が活潑である。外國貿易は、神戸大阪の二大港に於いて行はれ、四日市港がこれに次ぐ。

交通 鐵道は、大阪京都を中心として、四方に通じてゐる。東海道線は、米原で北陸線に連絡した後、京都大阪を經、神崎にて福知山線を分ち、又神戸にて、山陽線に接續する。山陽線は、姫路で播但線を



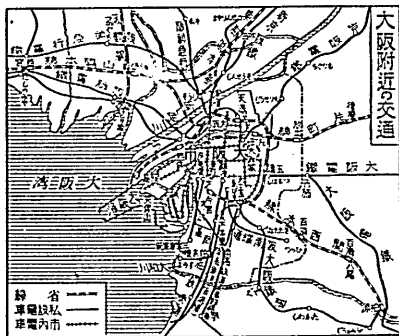
燈く近に崖斷 るあで處る散け碎濤怒の洋平太端南州本た見りよ上機行飛 岬 潮
るゐてつなと針指の二無の者海航てつあが局信電線無はに側向の其りあが来



絶一の下天てふ蔽を之松青軒二ところは横てし劃を海ノ謝與りよ灣津宮 立橋の天
るあでのため眺りよ近附松傘の方北は眞寫 るれらへ數に一の景三本日しなを景

大阪・神戸間には
電車が三線あつて
全国中最も交通の
頻繁な部分である

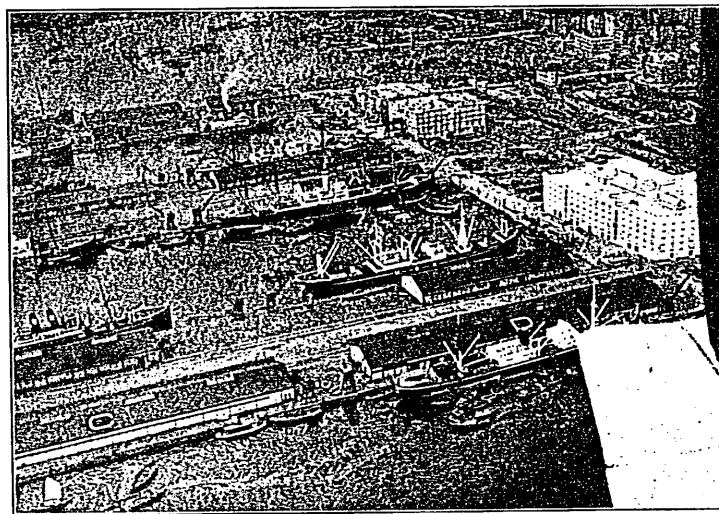
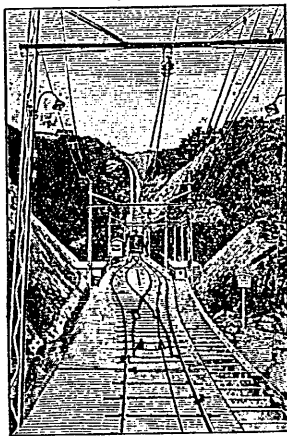
耶麻山・比叡山等
にはケーブルカー
がある
図解 摩耶山登山
用ケーブルカー



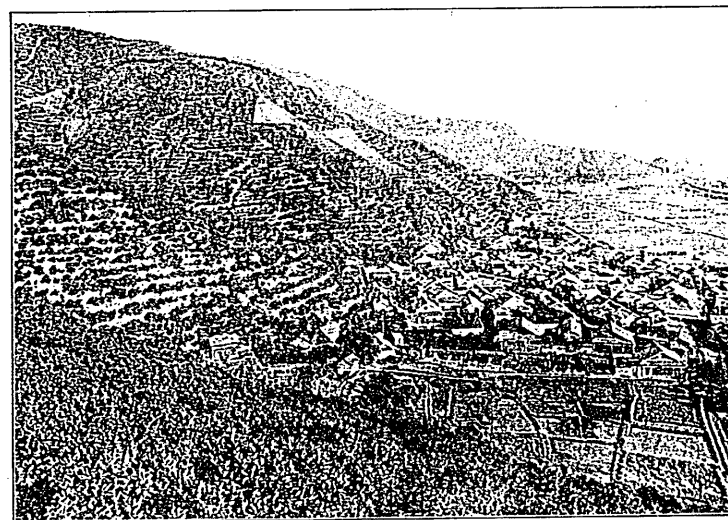
大阪附近の交通

分ち、舟坂山の隧道に入る。關西線
は、大阪に起り奈良木津を経て名古
屋に至り、途中、王寺にて和歌山線、奈
良にて櫻井線を分ち、木津にて片町
線、奈良線と連絡し、龜山にて參宮線
を分ける。

又紀勢東線は、參宮線相可口から西に向ひ、
紀勢西線は、和歌山より海岸に沿つて南行
してゐる。山陰線は、京都に起り、大堰川由
良川朝來川の溪谷を過ぎり、日本海岸に沿
つて西方に向つてゐる。この線は、中途綾部
にて舞鶴線を分ち、和田山にて播但線に連
絡してゐる。京都・大阪間、大阪・神戸間、大阪・



神戸港頭 飛行機よ眺めため神戶港の区域の景観を
第三・四の突堤が並ぶ之に航洋の船は留まり様は其の暇をふに足る



有田川流域の柑蜜畑 紀州蜜柑は有田川下流の帯丘陵を地本と葉緑に間の黄
果累累として顔るを呈するは産額・質品に他は比に名實共に第一の第一

奈良間には、電車が頻繁に往來して、交通が極めて便利である。
神戸・大阪は内外各地の諸港に航路を通じ、神戸を起點とする外國航路は、支那・印度・南米・北米に通じてゐる。大阪に起る航路は、名古屋・基隆間の各地の諸港を主とし、北は、朝鮮の仁川・清津に、南は、南洋諸島の各港に達してゐる。電信電話は、よく發達して、大阪・神戸と東京との間には、各十數回線も設けられ、大阪・潮岬・四日市に、無線電信局があり、又大阪に、ラヂオ放送局が置かれてゐる。
都市 本地方は、古來、長く帝都のあつた所であるから、由緒のある都邑が多い。大都市は、大阪・京都・神戸の三である。

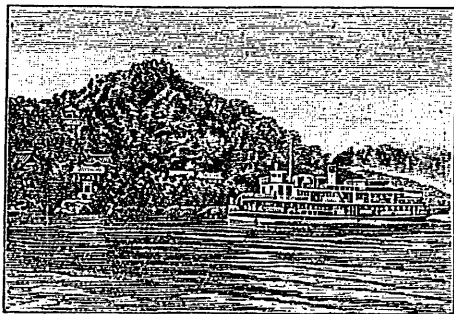
第三節 處誌

滋賀縣 山地で圍まれて、其の中央に、帝國最大の琵琶湖を湛へ、湖畔の平野は、近江米を産する。琵琶湖は、周回二百四十軒で、名高い

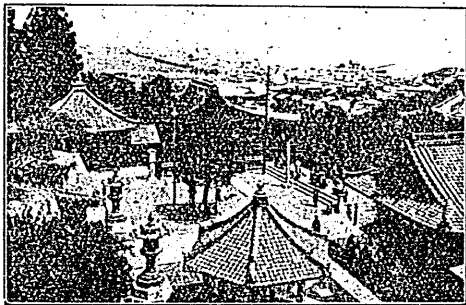
管轄 近江
×北部に竹生島がある。

△瀬田夕照・粟津晴嵐・矢走歸帆・唐崎夜雨・堅田落雁・石山秋月・三井晚鐘・比良暮雪
八日市に飛行機隊がある

圖解 (上)琵琶湖と竹生島 (下)三井寺より琵琶湖を望む



近江八景を控へて、廻遊汽船さへ備はり、舟運灌漑の便が多い。湖水は、疏水と勢多川との二吐口によつて、末は大阪灣に注ぐ。長濱は、養蠶・製絲・絹織業の中心で、彦根・八幡^{ハチマン}は、湖東の名邑である。大津市は、湖の南西隅にあつて、風光に富み、縣廳及び麻人造絹絲の工場がある。市の北部に起る疏水^{スヅミ}は、長^{ナガ}等^{ナガ}山の隧道をくゞり、京都市に至つて賀茂川に入る。この又水は、京都の發電水道に利用され、又小舟を通じてゐる。長等山麓に三井寺、一名園城寺がある。比叡山上の延暦



管轄 山城・丹波
大部・丹後

圖解 (上)天橋立
(下)京都帝國大
學附近

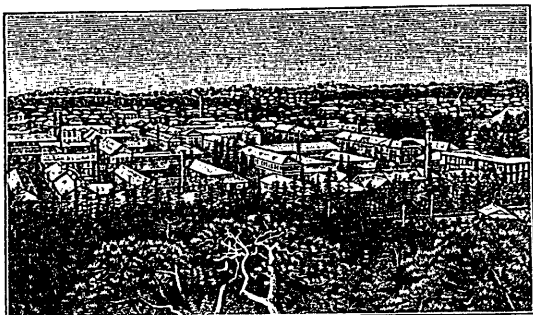
×上流を大堰川と
いふ

寺は、天台宗の巨刹である。

京都府 由良川は丹波山地の諸水を聚めて、舞鶴灣に注ぐ。其の吐口附近は要塞地帯に属する。西方の宮津灣には、白砂青松で名高い

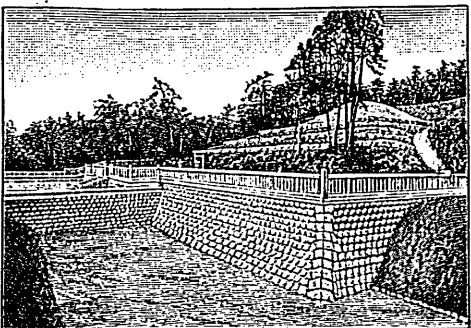


天橋立と、開港の宮津とがあり、東方の要港舞鶴(舞鶴中舞鶴)には、海軍機關學校がある。與謝半島の峯山は、著名なる縮緬産地である。南東部は、山河襟帶の山城盆地で、宇治賀茂桂の三川と、笠置山麓を流れる木津川とは、巨椋池附近に會して淀川



×石清水八幡宮の
所在地

△二條・桂・修學院
の三離宮・三十三
間堂・豐國神社・清
水寺・八坂神社・圓
山公園・知恩院・銀
閣寺・北野神社・嵐
山・京大・三高・醫
大・高等工藝・高等
登錄・繪畫專門・同
志社大學等
圖解 桃山御陵

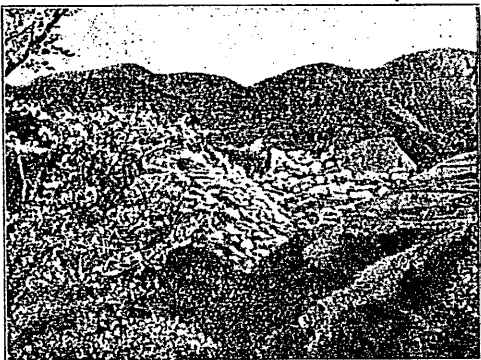


となり八幡山崎の隘路を経て大阪灣に注ぐ。

京都市(帝國第三)は、賀茂川に跨り、東京を距ること五百六十軒、町筋正しく、桓武天皇以來の帝都で、即位の大禮大嘗祭は、永くこの地で行ふことに定められ、名所舊蹟神社佛閣に富むこと、他に比類なく、御所府廳帝室博物館第十六師團司令部平安神宮賀茂神社金閣寺東西本願寺高等諸學校などがある。市の美術工藝品は、世界的に著名である。又春秋の二季には、遊覽者團體參拜者が全市に滿つる有様である。市の南部をなしてゐる伏見は、水陸の便がよく、清酒醸造が榮え、伏見人形を名産とする。その東郊の桃山(豐臣秀吉の城址)には、明治天皇

圖解 奈良の全景
管轄 大和
×大和アルプスともいはれる

△これは「とば
かり花の吉野山
(安原貞室



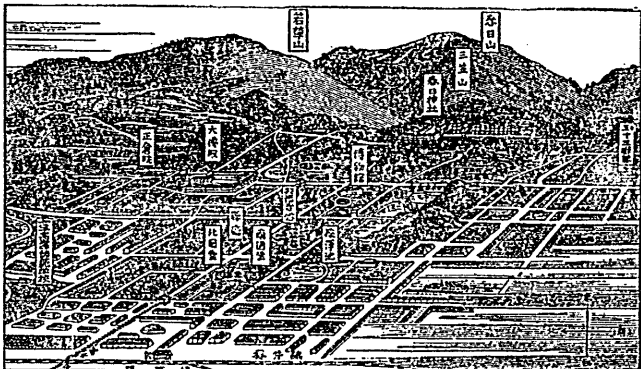
川南岸の吉野は、吉野朝廷の由緒地で、春は、櫻花満山を飾り、観客が多い。

大和川流域の大和盆地は、神武天皇以來、永く皇居のあつた處で、御歴代の陵墓や、社寺舊蹟が多い。奈良市(縣廳所在地)は、七代の舊都地

×春日神社・東大寺・正倉院・興福寺・嵯峨山がある
奈良名産：筆・墨・根來室・鹿角細工・奈良人形・奈良漬
縣の東北隅に月瀬の梅林がある

圖解 (上)吉野の機(下)英虞湖の眞珠貝採取

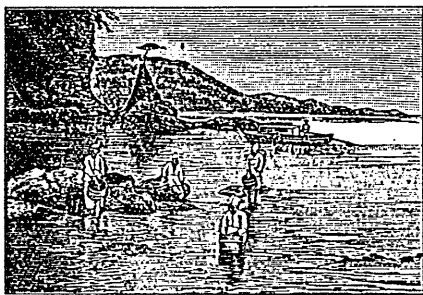
△祭神藤原鎌足
管轄 伊賀・伊勢・志摩・紀伊小部



方で、昔時を偲ぶべき史蹟が多く、全市は、一の公園の如く、我が國の代表的遊覽地である。

郡山は、綿紡織が行はれ、金魚の養殖で名高い。法隆寺には、有名な古建築物がある。櫻井線上の櫻井附近は、綿紡織地で、その南方の多武峯に、關西の日光といはれる談山神社がある。

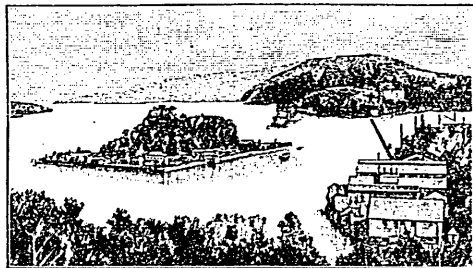
三重縣 西境の山地は杉材を、伊勢平



松阪は本居宣長富
豪三井の故地
明野に陸軍航空學
校がある

團解 鳥羽港
管轄 紀伊大部

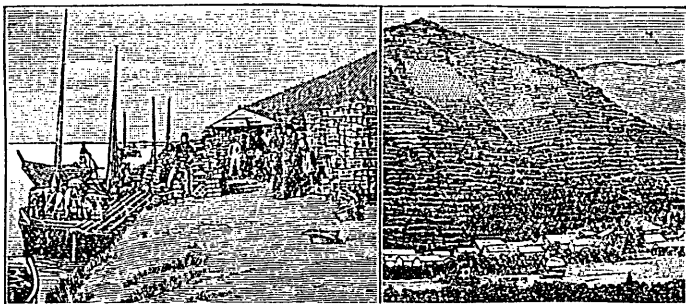
和歌山の除蟲菊
は國內第一である
平地が少ないので海
外出稼が多い



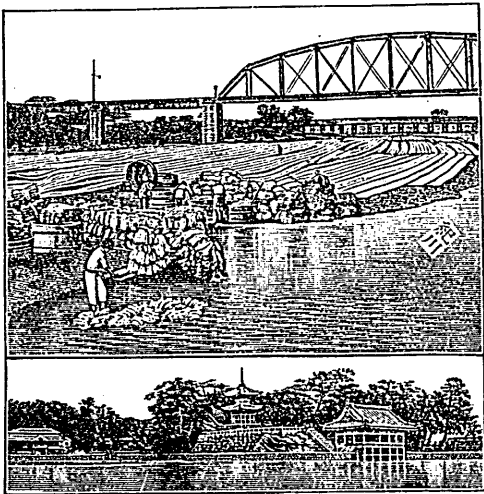
野は米茶桑種を産し、屈曲の多い熊野灘には、鱈眞珠及び鯨などを
掛斐川口の桑名は、米の取引地で、時雨蛤を名産とする。帝國屈指
の開港四日市市は、萬古燒綿絲綿織物、電球植物性油を産する。津
市(縣廳)は綿絲綿織物、人造絹絲、漁網、松阪は綿織
物を産出する。宇治山田市は、伊勢神宮を奉祀
する所で、宇治に内宮、山田に外宮がある。また綿
絲、春慶塗を産し、二見浦と朝熊山との勝地に近
い。鳥羽は避難港、漁港として名高い。
和歌山縣 紀伊半島の大部分を占め、本州最南
の潮岬(無線電信局所在地)が斗出してゐる。黒潮(海流)の
影響を受けて温暖多雨、従つて森林に富み、有田
川の流域は紀州蜜柑の本場で、箕島はその集散
地として發達してゐる。熊野川口の新宮は、熊

×瀑布多く俗那
智四十八滝といふ

團解 (上) 其島の
蜜柑園と蜜柑積
出し(下) 紀川の
木綿晒しと和歌
浦



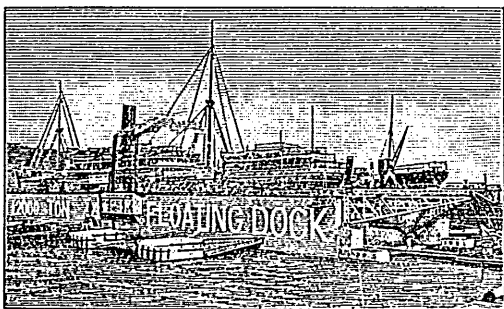
野川下しの
木材取引地
で、那智山中
には名高い
那智瀧があ
る。高野山
は、僧空海の
開いた金剛
峰寺がある
處で、參詣者
が多い。和歌山市(縣廳)は、徳川親藩の舊城下
で、和歌浦の名勝地がある。綿フランネル莫大
小清酒の大産地で、又木材の大市場である。



管轄 播磨・淡路
丹波小部、但馬、
播磨・淡路

図解 神戸造船所
浮船渠（入渠修
理中のものは一
萬噸の宮崎丸）

× 平野水の産地



吹田は麥酒、池田は清酒の醸造地である。

兵庫縣 日本海斜面は、京都府の西北部と共に、所謂神戸半の主産地である。播磨灘に面する南斜面は、加古川市川等の下流に播磨

平野が開けて、米麥を産し、牧牛も行はれる。

明石紀淡鳴門（以上要）の三海峡は、大阪灣紀伊

水道播磨灘を限る。その中に横はる淡路島

は、人口が密で農漁が行はれる。洲本は、淡路

鐵道の起點で、淡路燒綿絲を産し、由良は、要塞

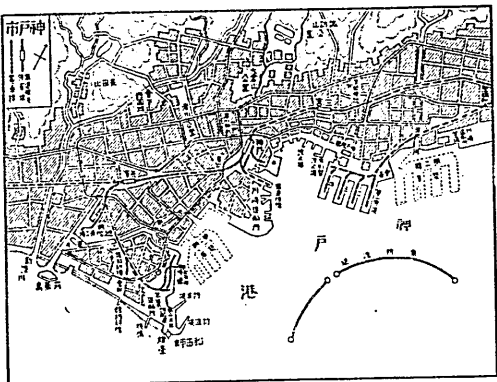
のある所である。

尼崎市は、急速に發達した工業都市、西宮市附

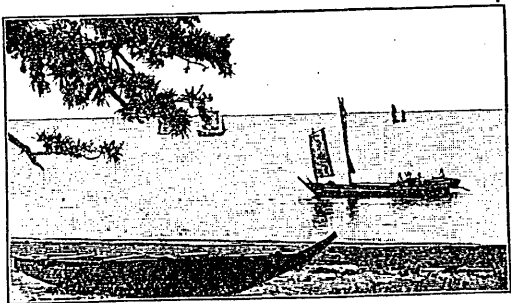
近（通稱）伊丹は、清酒の産地である。六甲山の

北より東に點在する有馬寶塚平野には、炭酸
泉が湧出する。

圖解 明石海岸



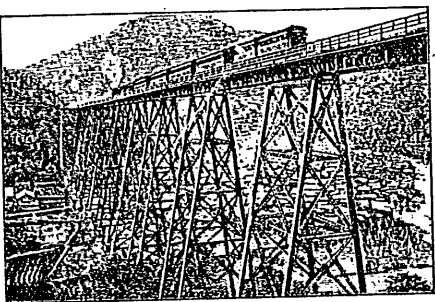
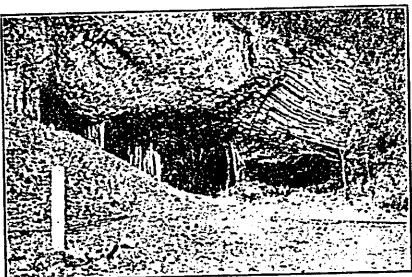
明石市は、風光がよく、綿絲燐寸を、加古川は毛織物を、高砂は綿織物・洋紙を産する。
姫路市は、第十師團司令部の所在地で、米の取



生野鐵山の北西の
明延鐵山は本邦第
一の錫鐵產地

圖解 (上)玄武洞
(下)餘部の陸橋

引が多く、トップ・毛絲革細工を産する。龍野は醬油、赤穂は鹽の產地である。豊岡は、柳行李を産し、玄武洞の奇勝に近い。城崎は溫泉地で、餘部は名高い陸橋のある所である。出石は、出石焼を産する。

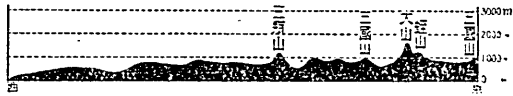


第五章 中國地方

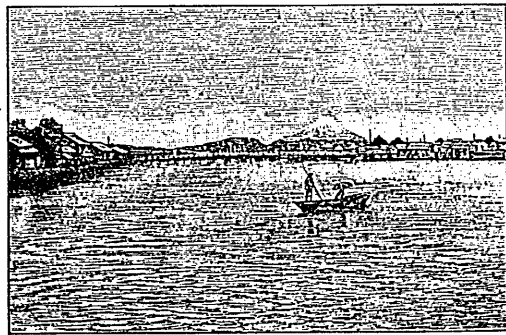
第一節 地文誌

地域 中國地方は、本州の最南西部を占めてゐる。行政上、鳥取島

圖解 尖道湖より見た大山



根山口・廣島・岡山の五縣に分れる。地勢 高原狀の中國山脈が東より西に連なつて、幅の狭い本地方の大部分を占め、白山・火山脈（大山が）が、その北側を通つてゐる。平地は岡山・平野、河川は江、川の外は、著しいものがない。海岸中、瀬戸内海方面は、屈曲・島嶼に富み、風景も勝れてゐる。また遠淺で砂濱が多いから、到る處に鹽田が設けられてゐる。之に反して、日本海方面は、中央に島根・夜見の兩半島が突出し、中海・尖道湖を圍んでゐる外には、著しい屈曲がなく、港では境・島では隱岐が名あるだけである。



氣候 日本海方面は、冬に雨雪が多く、瀬戸内海方面は、溫和で晴天が続く。

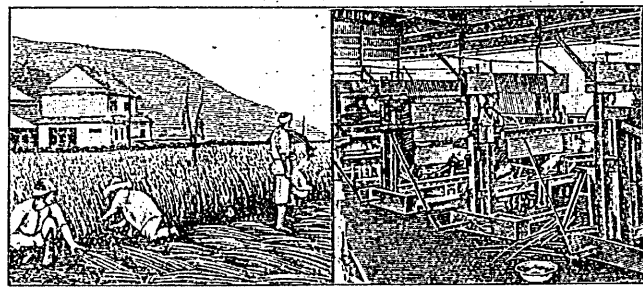
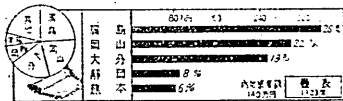
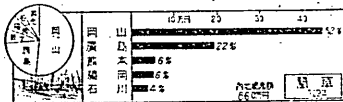
第二節 人文誌

産業 農業と牧畜とが、主なる産業であつて、瀬戸内海方面に、最も盛んに行はれる。

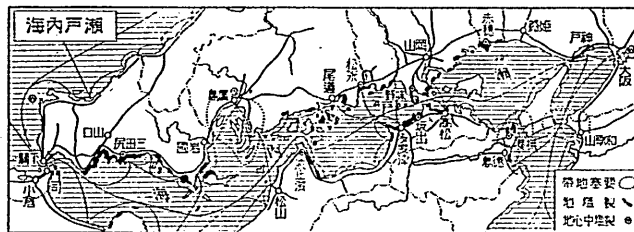
×瀬戸内海の沿岸地方、島嶼もよく開墾されてゐる。圖解 農表の製織と蘭田

備前米と防長米とは良質である

農耕がよく普及し、灌漑排水の設備が整ひ、栽培方法も進歩して、概ね二毛作（所三毛作）が行はれる。作物は、米を主とし、麥類が之につき、産額は、何れも岡山・廣島二縣が多い。蘭草は岡山・廣島二縣、眞田用



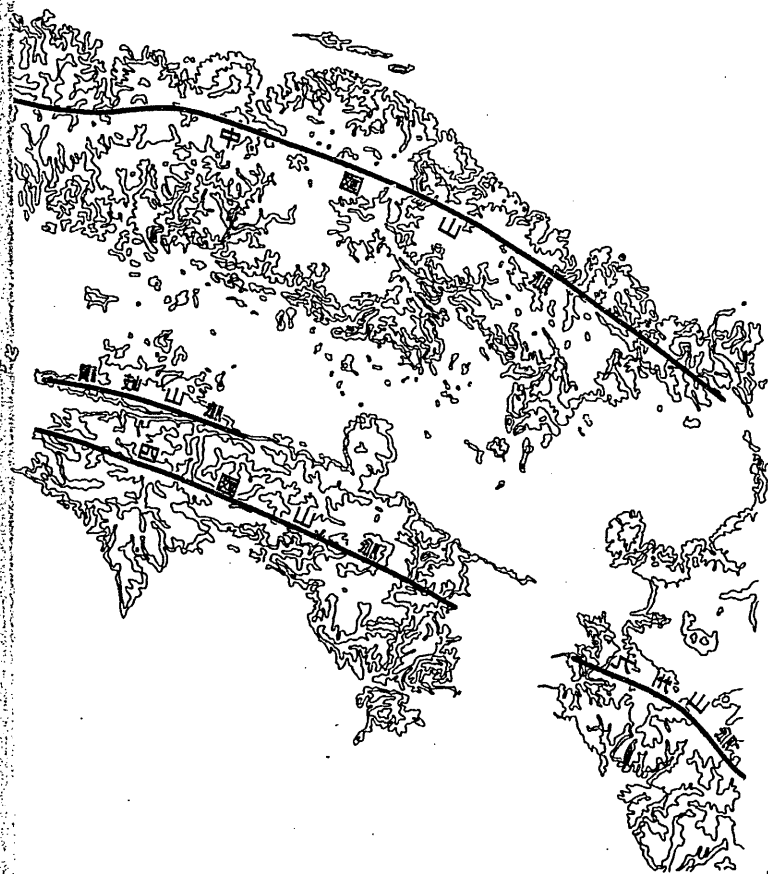
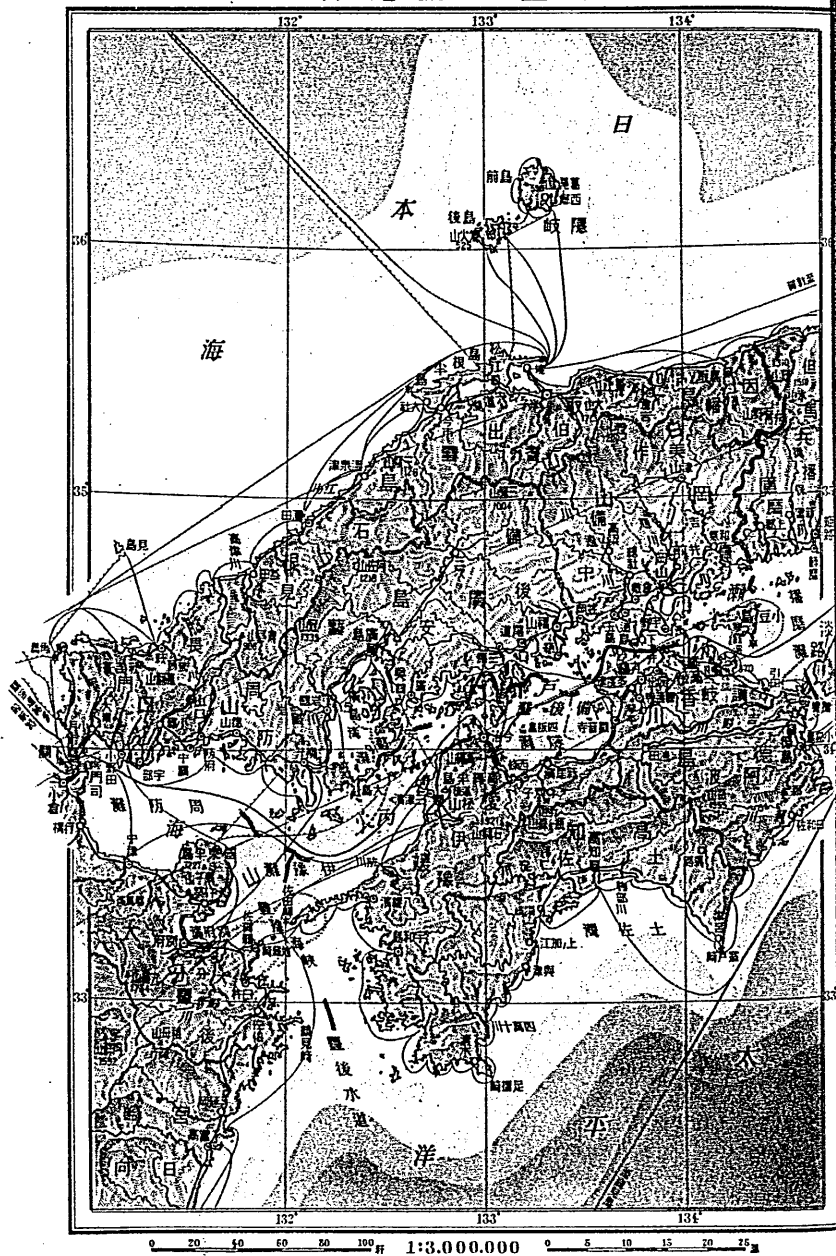
中國山脈は高原的であるから牧畜に適する



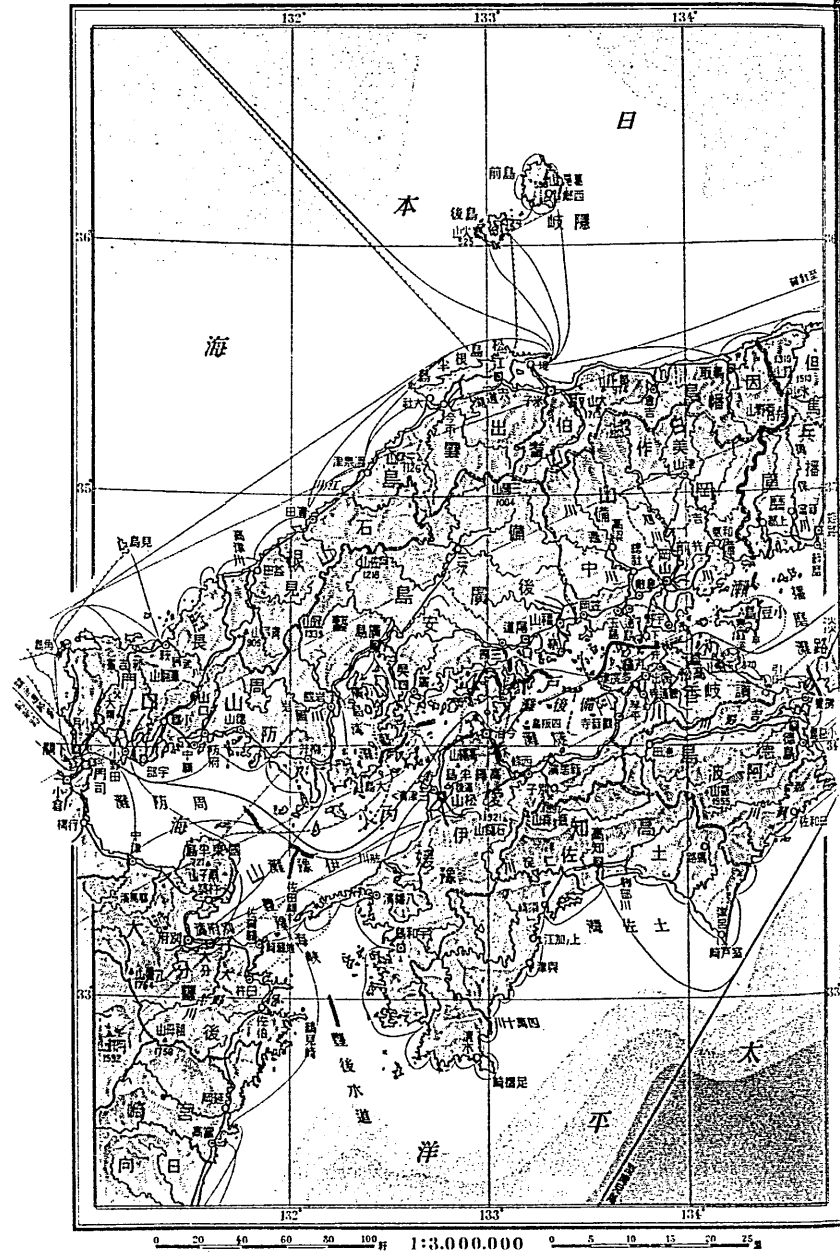
大麥は岡山縣の特産で、瀬戸内海岸には、蜜柑、梨、桃の栽培が榮えてゐる。牧畜は牛を主とし、盛んに行はれ特に廣島、岡山の二縣が盛んである。鑛産物は、宇部、大嶺の石炭、各地の花崗岩などが著しい。その中で、大嶺の無煙炭は、主に徳山の海軍燃料廠に使用されてゐる。岡山、福山間の各地では、次第に工業が發達して、綿絲、綿織物及び疊、表花、筵、麥稈、眞田を多く産する。水産業は、頗る盛んで、山口縣及び島根縣の鯛、烏賊は、漁獲高が多く、岡山、廣島二縣の鯛、鱈は、美味によつて名高い。近年、是等の各縣より、朝鮮近海に出漁するものが、次第に多くなつて來て、その漁獲物は、主に下關で集散さ

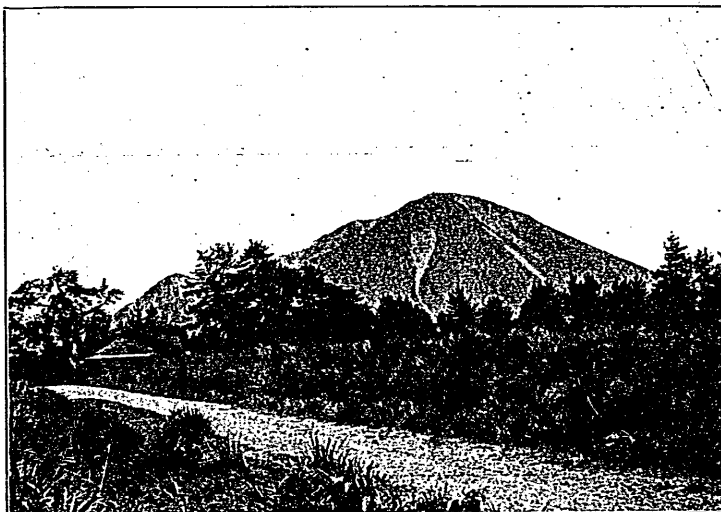


方 地 國 四 · 國 中

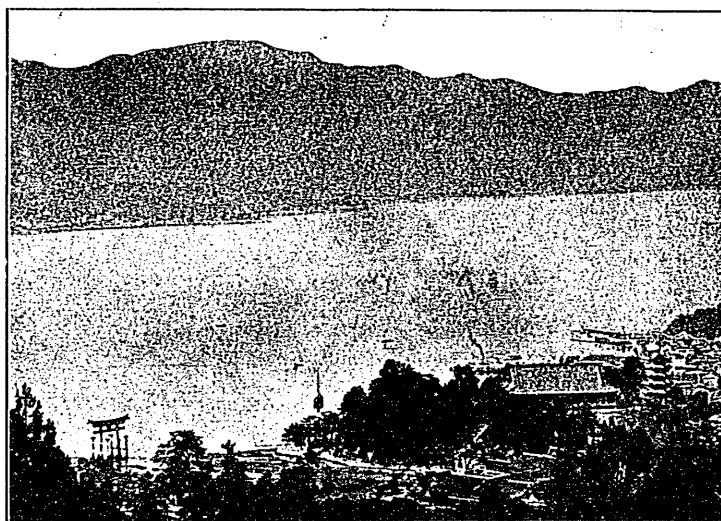


方地國四・國中





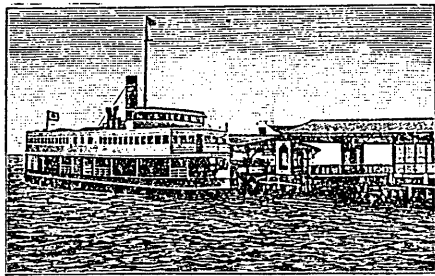
富者伯は又土富雲出で峰高の一第國中るす屬に脈山火山白米三一七一高標 山 大
るあでのため眺りよ野掘の方北は園 るあが寺山大に腹中郡北 るれば呼と士



閣樓ぶ浮に上海 るあで社中幣官る祀を命姫島市は社神れば呼もと島宮 島 殿
るみてれらへ敷に一の景三本日来古てつ俟相はと美の光風の然自と美工人の

瀬戸内海沿岸は遠
浅で鹽田を設け易
いこと、晴天が続
いて作業時間が長
いこと、花崗岩の
砂は鹽分を吸収し
易いこと等がこの
地方の製鹽の盛ん
な理由である

圖解 關門連絡船



れる。製鹽は、味野松永三田尻を中心として盛んに行はれ、我が國
での鹽の主産地となつてゐる。

開港場は、瀬戸内海の沿岸に、下關尾道系・崎徳山・日本海の沿岸に、濱
田・境・萩がある。下關・廣島・岡山は山陽、鳥取・米子・松江は山陰の商業
地である。

交通 山陽では、山陽線が、岡山・福山・廣島などを
通つて下關に終つてゐる。其の下關で、鐵道連
絡船によつて、九州・朝鮮の各幹線鐵道と連絡を
取つてゐる。また此の鐵道は、岡山にて宇野線
海田市にて吳線を分ち、四國の鐵道と連絡を取
つてゐる。山陰では、山陰線が、鳥取・米子・松江等
を経て、益田に至り、山口線を分つて、山陽線と小
郡にて連絡し、本線は下關を起點とする小串線

厚狹より北上する美禰線と、會せんとしてゐる。その他、南北に通ずるものに、中國鐵道線、伯備線、藝備鐵道線等があるも、山口線、伯備線を除けば、南北横斷は、まだ不便である。

岡山・松江にも放送局が設けられた

瀬戸内海は、古來、我が國に於ける海上交通の要路に當つた所で、沿岸に良港があつて、四國九州の對岸諸港と航路を通じ、且つ外國航路も多く、こゝを通じてゐて、内外國の汽船が、絶えず來往してゐる。日本海方面は、良港に乏しく、風波も荒く、又、冬は雨雪が多いので、船舶の往來が少く、海上の交通は、まだ不便である。下津井、角島に、無線電信局があり、廣島に、ラヂオ放送局がある。

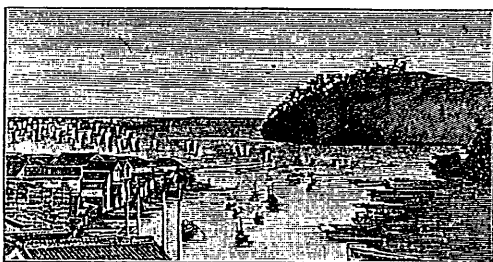
都市 山陽方面は、文化がよく開け、人口が密で、都市も亦著しく多いが、之に反して、山陰方面は、土地が一方に偏つてゐて、山地が多く、且つ交通が不便であつたため、文化が遅れて、人口が少く、従つて都市も亦少い。

第三節 處 誌

管轄 四縣・伯耆
×伯耆富士又は出雲富士ともいって其の裾野には牛馬の牧養が盛んである

圖解 西郷の鳥賊
(錫原料)漁船

管轄 出雲・石見・隱岐

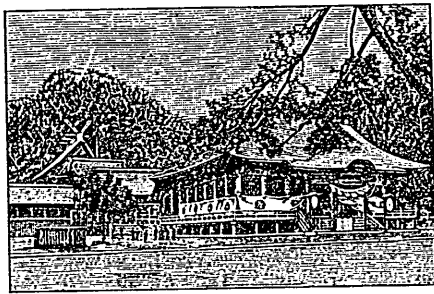


鳥取縣 三國山塊と本地方第一の高峰である大山及び史上に名高い船上山とがあつて、縣内は自ら千代、天神、日野の三川の流域に分れ、以てそれ〴〵地方的に發達してゐる。

鳥取市(鐵道會所)は、千代川の下流に跨り、賀露を外港とする。倉吉は、生絲・緋の産地で、南東に三朝のラヂウム温泉がある。日野河畔の米子市は、夜見濱(名大)北端の開港境に、鐵道の支線を分ち、米の取引が多い。

島根縣 島根半島の尖端に美保關があり、西端に日御崎の勝地がある。隱岐諸島(島前・島後)は、後鳥羽後醍醐二帝の遷幸(遷跡)された處で、良質の

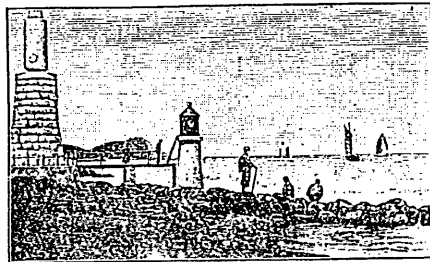
關解(上)出雲大
社(下)下關海峽



鯛を産する。
松江市(縣廳所在地)は、宍道湖口に跨り、遠く大山三瓶山を望んで風光がよろしく、山陰の最大都府である。

神代史に關係の深い斐伊川の下流に、出雲平野がある。名高い出雲大社は、その西端の大社にある。濱田は、開港場で石見半紙薪炭等を取引する。

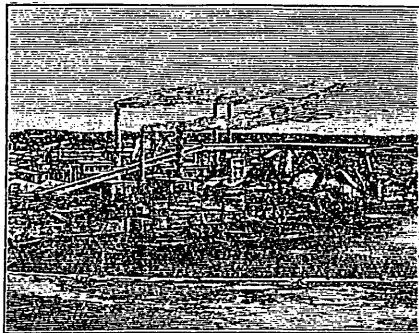
山口縣 本州の南西端(半島を占め、日本海瀬戸内海に臨んで、九州及び四國地方に對する。日本海岸の萩市は、開港で、阿武川(上流に長門峽に跨り、毛利氏の舊城地で、夏橙萩焼を産出する。山



管轄 周防・長門
日本海上の見島附
近は日露海戦地

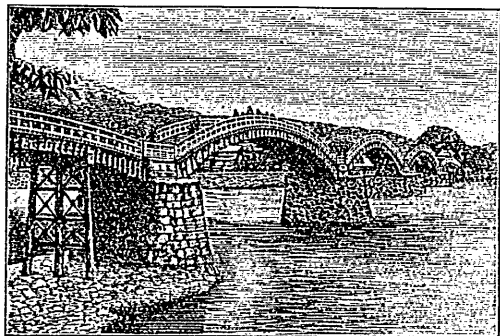
下關・東京間急行
列車行程約二十時
間

圖解(上)小野田
セメント工場(下)
錦帶橋



口市は、縣廳、高商高校の所在地、室町時代の名都で附近に、湯田温泉がある。
開港下關市(名は、下關海峽(瀬戸内海)に臨み、關門關釜の二連絡船發着して、魚類肥料などの取引が多く、附近に、壇浦古戰場と要塞とがある。

る。大嶺は無煙炭、秋吉は大理石、石灰岩、厚狹は火藥、小野田はセメント、宇部市は石炭、セメント綿絲を産出する。三田尻(一部)は、製鹽地である。
開港徳山は、工業地である。錦帶橋を有す

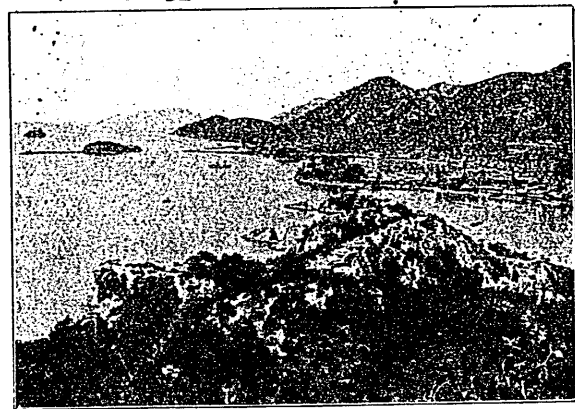
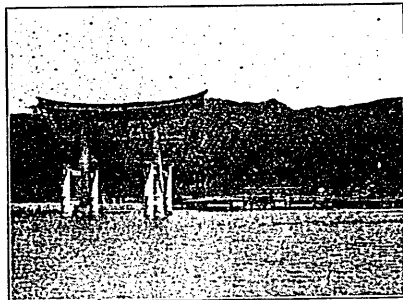


管轄 備後・安藝

圖解 (上) 嚴島
(下) 稻の風景

△金・ペンを産する

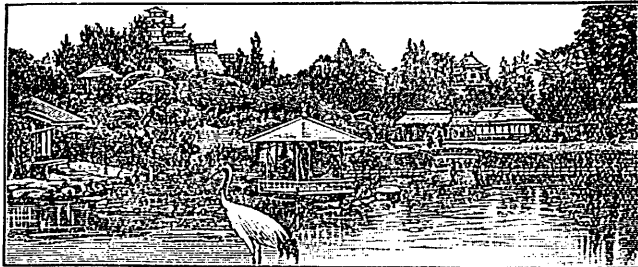
る岩國は、蚊帳・半紙を集散する。
廣島縣 瀬戸内海に面し、島嶼が頗る多い。就中、江田島は海軍兵
學校、嚴島(通稱)は嚴島神社があるので名
高い。廣島市(縣廳・第五師團司令部)は、大田川
の三角洲に跨り、軍事・交通上の要地で、綿
紡織品・人造絹絲・針
罐詰等を産し、牡蠣
を名産とする。
軍港・吳市は第二海
軍鎮守府のある處
で、廣とともに、東洋
屈指の海軍工廠が
ある。蘆田河畔の



×保命酒を産し附
近に仙酔島・阿伏
見岬の勝がある
竹原は瀬山陽の生
地 管轄 美作・備前・
備中
高梁の西に吉岡鎮
山東に家溪の奇勝
がある

圖解 後樂園

△經濟の中心で蘭
草・花筵・桑・麥
稈眞田を集散する



ある。三石は、耐火煉瓦の製造が盛んで、蠟石を産出する。津山市

福山市(三鐵道)は、機業の中心で、尾道市(Xミ)と共に、
疊表を集散し、共に良港である。絲崎は、交通の
要地で、尾道と合せて開港場である。
岡山縣 兒島半島は、北に干拓中の兒島灣、南に
四國との連絡港・宇野・津井(無線電信局所在地)を控へて、
綿織物を産出し、味野に鹽田が多い。吉井・旭高
梁(三川)の下流地方の岡山平野には、米・蕎麥・草桃
などの栽培と、疊表・花筵・麥稈眞田の製造とが盛
んである。

岡山市は、旭川に跨り、交通上の要地で、縣廳・後樂
園醫科大學がある。市以西の倉敷市(伯備南・絲起點)・玉
島笠岡の方面は、綿・絲・花筵・眞田(經木)の大産地で

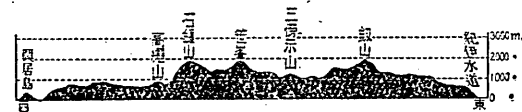
は交通の一中心である。

第六章 四國地方

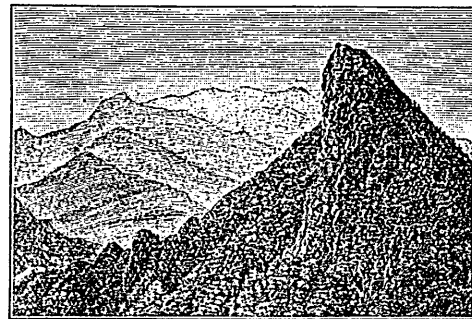
第一節 地文誌

地域 北は瀬戸内海を隔て、中國に接し東は、紀伊水道によつて紀伊半島と相對し、西は、豊後水道を隔て、九州と相望み、南は太平洋に面してゐる。行政上、徳島香川愛媛高知の四縣に分れる。

地勢 山地は、主に四國山脈より成り、石鎚讃岐劍山の三山脈に分



圖解 (上) 石鎚山
(下) 四國山脈の
概面



れる。主脈の石鎚山脈は、徳島附近より佐田岬にかけて、一直線に連る。大分水嶺で、中に石鎚山等の高山がある。讃岐山脈は、徳島香川の二縣界を東西に走る低い山脈で、劍山山脈は、石鎚山脈に續き、劍山を主峯とする。河川は、四斜面を流れ、吉野川が最も大きい。

平野には、徳島平野高松平野がある。海岸は、瀬戸内海及び豊後水道の兩方面に、灣が多く、島嶼も多い。

氣候 瀬戸内海方面は雨が少く、太平洋方面は雨が多い。太平洋岸には、米作が年二回に及ぶ所があり、又熱帶植物の茂る所もある。

第二節 人文誌

産業 農業は、米麥を産出する外、地味につれて、特殊の作物を栽培してゐる。即ち香川縣の中部以西は、眞田用大麥を栽培して麥稈眞田を製し、愛媛縣の三島附近、肱川流域、高知縣の仁淀川流域では、

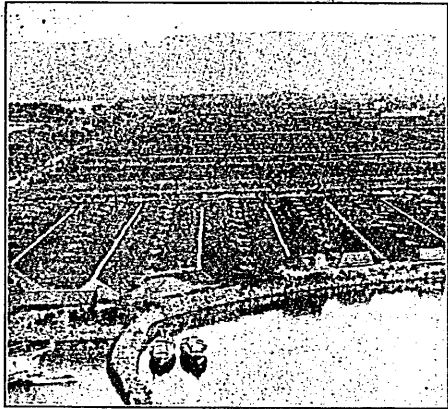
土佐はよい國南を
うけて年にお米が
二度とれる 俚語

高知縣の半紙の産
額は全國第一であ
る

三桎楮を栽培して、和紙を製造してゐる。徳島縣の吉野川流域は、
煙草・桑・藍を栽培する。太平洋方面は溫暖多雨のために、森林が繁

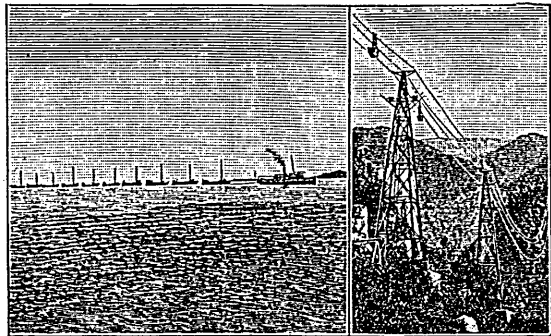
茂して、木材の産
額が頗る多い。

國解（下）別子の
運送・四國と新居
の運送（上）坂出
の運送

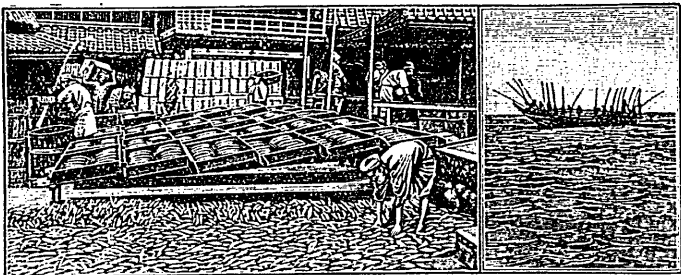


鳴門海峡岸の撫養が之につき、高繩半島の波
止濱でも行はれる。内海は、魚族に富んでゐる

別子銅山は、我が
國屈指の鑛山で、
その鑛石は、四阪
島に送られて製
煉される。

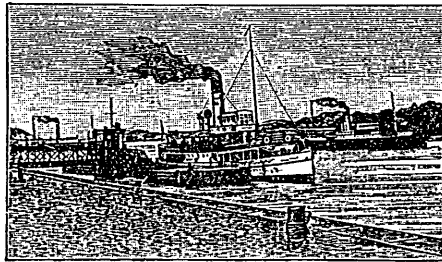


國解（上）鯉魚船
と鯉魚製造（下）
宇野・高松間の
連絡船



故漁業が盛んで、鯛・鯖・鰯の漁
獲が多い。太平洋方面の近
海では、多く、鯉・鰯を漁獲し、高
知縣の海岸地方では、鯉節製
造業が行はれてゐる。工産
は、高知・愛媛二縣の和紙・香川
縣の麥稈・眞田の外、松山・今治
坂出・高松・徳島地方の綿・絲・綿
織物が有名である。

交通 地形の影響が著しい。主要平野は、鐵道・
電車を通じてゐるも、讃豫線の外は、主要都會を
連絡することが困難であつた。最近徳島縣に
連るに至つた。豫讃線は、四國地方の主要鐵道



て、高松に起り、多度津にて支線を阿波池田に分ち、松山に達する。高德線は、高松に起つて引田に至り、徳島線は徳島より小松島阿波池田に至る。又高知線は高知を中心として安藝及び須崎を連ねてゐる。沿岸の高松、多度津、今治、高濱等は、大阪、神戸及び對岸の諸港と航路を相通じ、船舶の出入が頻繁で、商業も盛んである。徳島は、小松島を外港とし、高知、宇和島、中浦と共に、大阪、神戸に航路を開いてゐる。

都市 徳島、高松、松山、高知は、各、その地方の中心都市で、その他には、著しい都市がない。

第三節 處誌

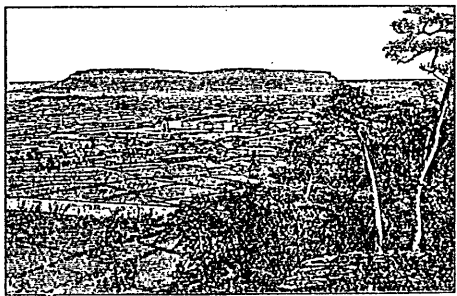
徳島縣 那賀川、祖谷川は、劔山に發源する。四國の最大河吉野川（三郎）は、高知縣より來る。其の上流は、池田附近の煙草、中流の脇町

管轄 阿波

圖解（上）徳島市
の全景、下、高松
市街と屋島
管轄 讃岐
×醬油の産と寒霞
溪の勝とで名高い
本縣には灌溉用の
池沼が多い

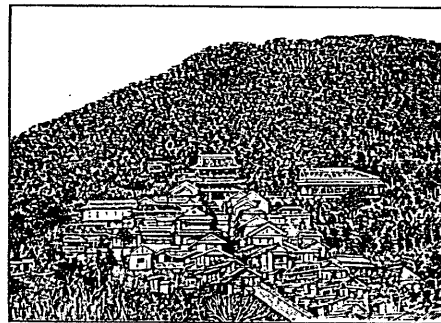


附近は藍の栽培地である。徳島市（縣在）は、紀伊水道に臨み、綿織物を産出する。鳴門海峡は、潮流で名高く、附近の撫養（阿波電軌の起點）は、齋田鹽の産地である。香川縣 讃岐半島の地で、小豆島、鹽飽、諸島などの屬島に富み、五、劍飯野（讃岐）の二名山が、東西に對峙してゐる。面積は狭いが、人口は密で、土地がよく開け、鹽、麥稈、眞田などを産する。高松市は、屋島（半）の勝地に近く、對岸の宇野と共に、四國山陽を連絡する交通上の要地



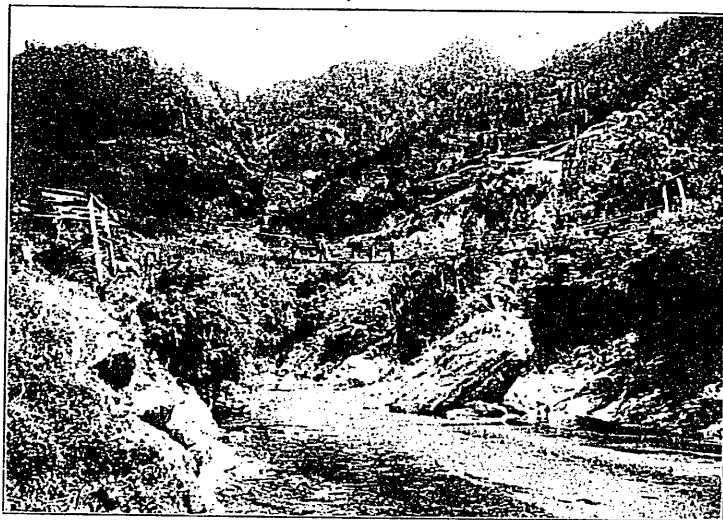
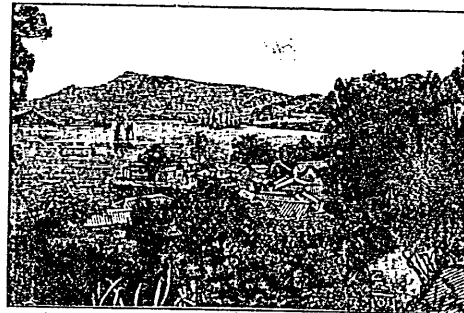
图解 (上) 象頭山の金刀比羅宮
(下) 來島海峽

管轄 伊豫

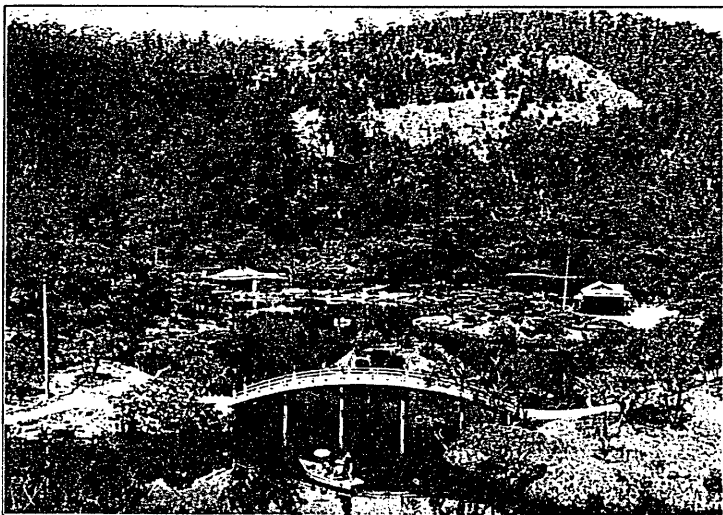


宇和島市の良港がある。東部の別子は銅鑛を産し、四阪島に製煉所がある。高縄半島東岸の今治市は、綿ネル製造が盛んで、附近に鹽田が多い。來島海峽は、鳴門に次いで潮流の

て、紡績製紙が行はれ、縣廳栗林公園がある。坂出には、製鹽と紡織とが行はれる。丸龜市は、本縣西部の中心で、多度津は瀬戸内海の一商港である。善通寺は第十一師團司令部の所在地で、琴平は、金刀比羅宮のために繁昌してゐる。愛媛縣 豊後水道岸は、出入が多く、八幡濱



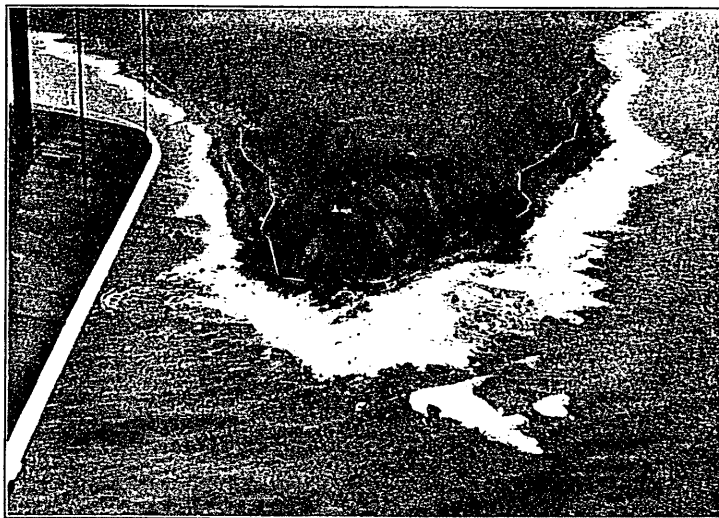
比谷と史歴が説傳や習奇爲たつあで地の便不通交し位に隅西南の縣島徳 方地谷組
い高に世が美谷峽は今 るあで處たれはいと地住の者殘敗の家平らか般一てつ合



大宏の模規でのるゐてし用利、まの其を山の後背てつあに方南の市松高 園公林栗
るあで地縣大二るす有が市松高に共と島屋 いな見を比の其に他はとこるな

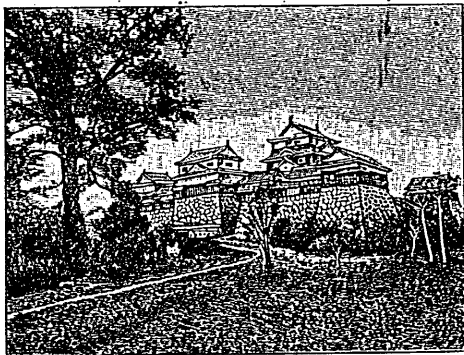


も船汽大つ且くよが絡連道鐵のと地背後がるゐてつ迫が地山にち直は岸海 港濱高
るあでん盛が通交のと方地神阪・國中てしと戸門の野平山松でのる得し泊碇



堆の浪怒ふ狂れ荒に角岩 るあで岬戸室端東南の縣知愛るた見りよ機行飛 岬戸室
るあが稱の一第國が我とこるたれ勝の光風てしと岸海く難し盡に舌筆はさ大

圖解 松山城
宇和島市は交通の
要點漁業の中心地
である
管轄 土佐



急な處である。

松山市は、縣廳のある處で、伊豫絋綿ネルを産し、鐵道によつて、三津濱・高濱道後（溫地）等と連絡し、商業も盛んである。

肱川流域には、和紙・木蠟を産し、大洲（大洲）は、其の集散地である。

高知縣 愛媛縣と相背き、一望萬里の太平洋に面する。室戸足摺（足摺）二岬間にある土佐灣では、鯉（土佐の原料）の漁獲が多く、南

西海上の沖島附近も、漁獲が甚だ多い。高知市は、縣廳のある處で、木材・土佐節の取引が多い。伊野は、製紙の中心、須崎（高知の起點）は、漁港で、清水は、鯉節製造及び紅珊瑚取引の中心地である。

第七章 九州地方

第一節 地文誌

地域 本地方は下關海峡と豊豫海峡とによつて、中國地方と四國地方とに相對し、北は朝鮮海峡によつて、朝鮮半島に對してゐる。南西には薩南琉球の二列島があつて、臺灣との連鎖をなしてゐる。これ等の列島は、また太平洋と東支那海との境となつてゐる。行政上、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島及び沖縄の八縣に分れてゐる。

地勢 丘陵性の筑紫山脈と、高峻な九州山脈との間に、阿蘇火山脈があつて、本地方を南北に分ける。別に霧島火山脈は、霧島山より南西方に、櫻島、開聞嶽を起し、尙遠く薩南諸島に連つてゐる。

阿蘇山は複式火山で、舊火山口は周囲一百二十軒即ち世界一の火山口で、噴出物に埋められ、阿蘇谷（北）南郷谷（南）となり、新火山口丘は根子岳・高岳・中岳・杵島岳・烏帽

子岳が著しいが、中岳の火山口原に第二の火山口が出來た。その間に五個の新火山口があつて、何れも活動してゐる。阿蘇谷・南郷谷には三町十一箇村の部落約四萬の住民が農牧を營んでゐる。圖解（上）阿蘇山（下）九州地方南

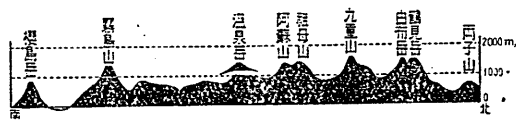
×潮汐干満の差内地第一位（約六米）



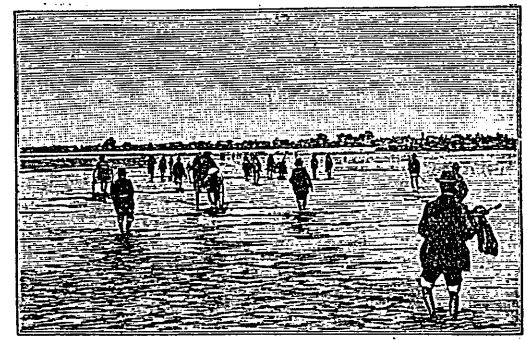
河流には、筑後球磨川、内遠賀など、著名なものが多いが、就中筑後川は、其の下流に、本邦屈指の筑紫平野を開き、その南に肥後平野がある。

海岸は、南東の日向灘方面は概ね平直で、後に高山を負ひ、文化の發達が、他の三方面に比して、大いに後れてゐる。東部には、屈曲の多い豊後水道があつて、其の北に、風光明媚なる別府灣が凹入してゐる。北西部は、

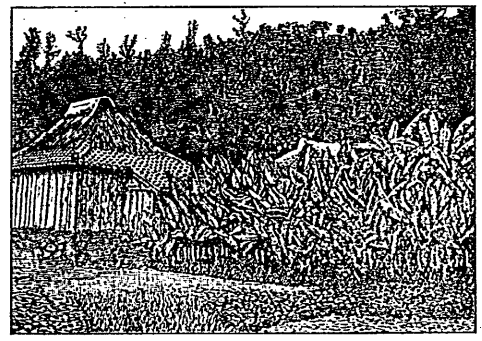
最もよく發達して、大半島や屬島が頗る多い。殊に出入に富める肥前半島は、北に唐津灣（北東に芥屋大門）、伊萬里灣、西に大村灣を入れ、東に有明海を控へてゐる。



圖解 (上) 干湖時
の有明海 (下) 沖
繩縣の芭蕉栽培

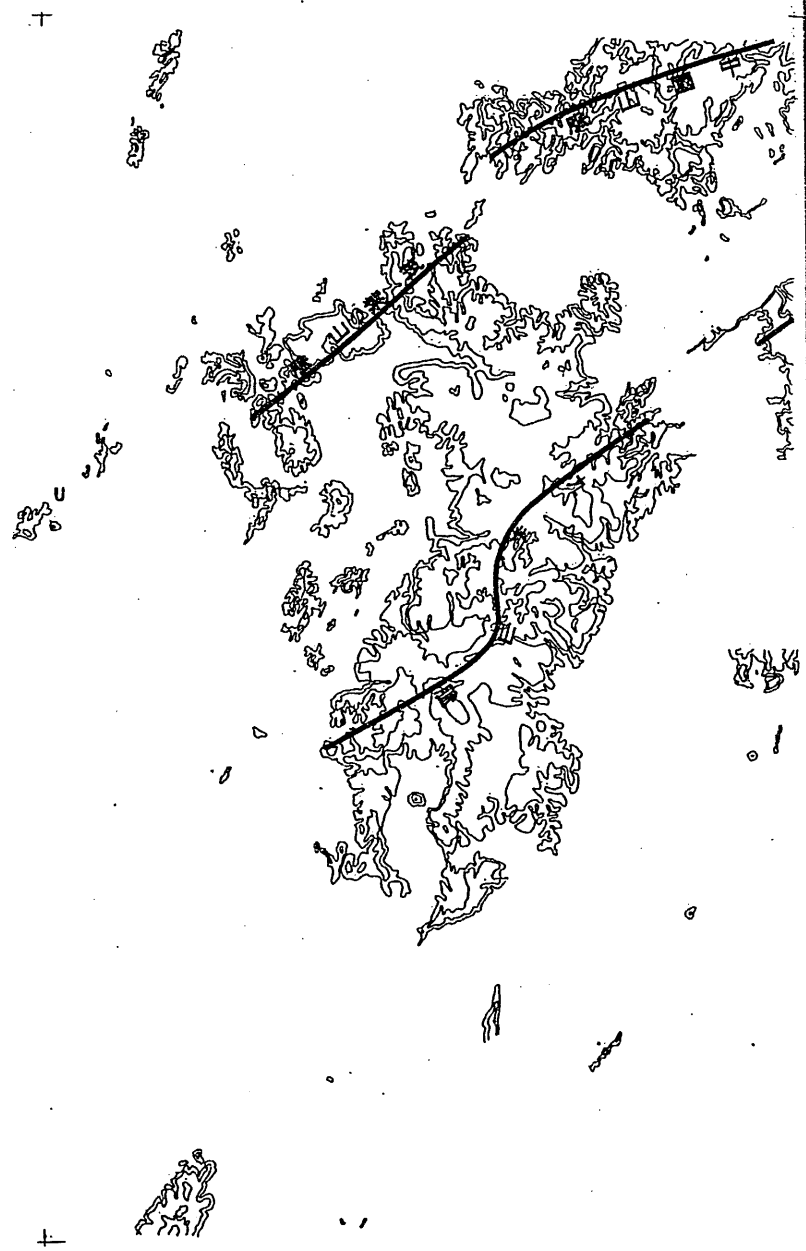


宇土半島と天草島
とは八代海を南部
の薩摩大隅二半島
は鹿兒島灣を抱い
てゐる。
氣候 北部は、山陰
北陸の氣候に似て
ゐるが、南部は、溫暖
多雨である。殊に
沖繩縣は、霜雪を知らぬ程で、終年、農業が行

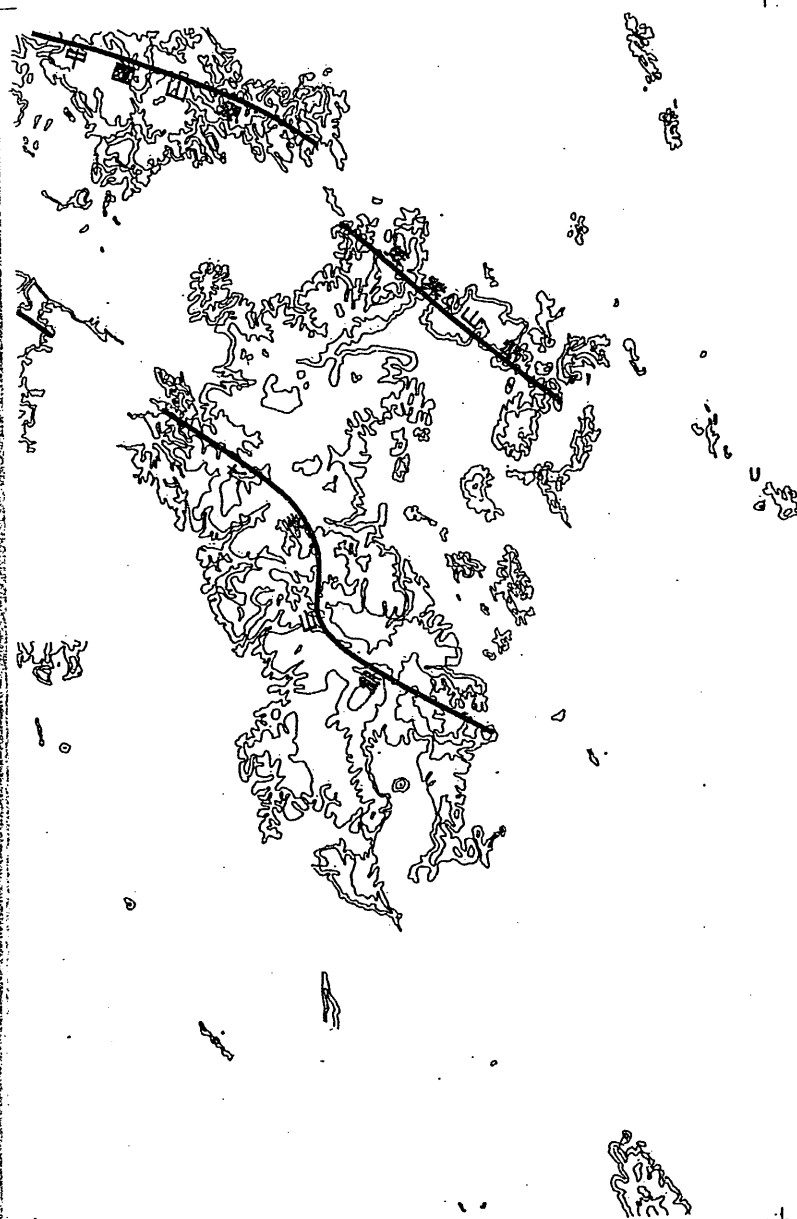
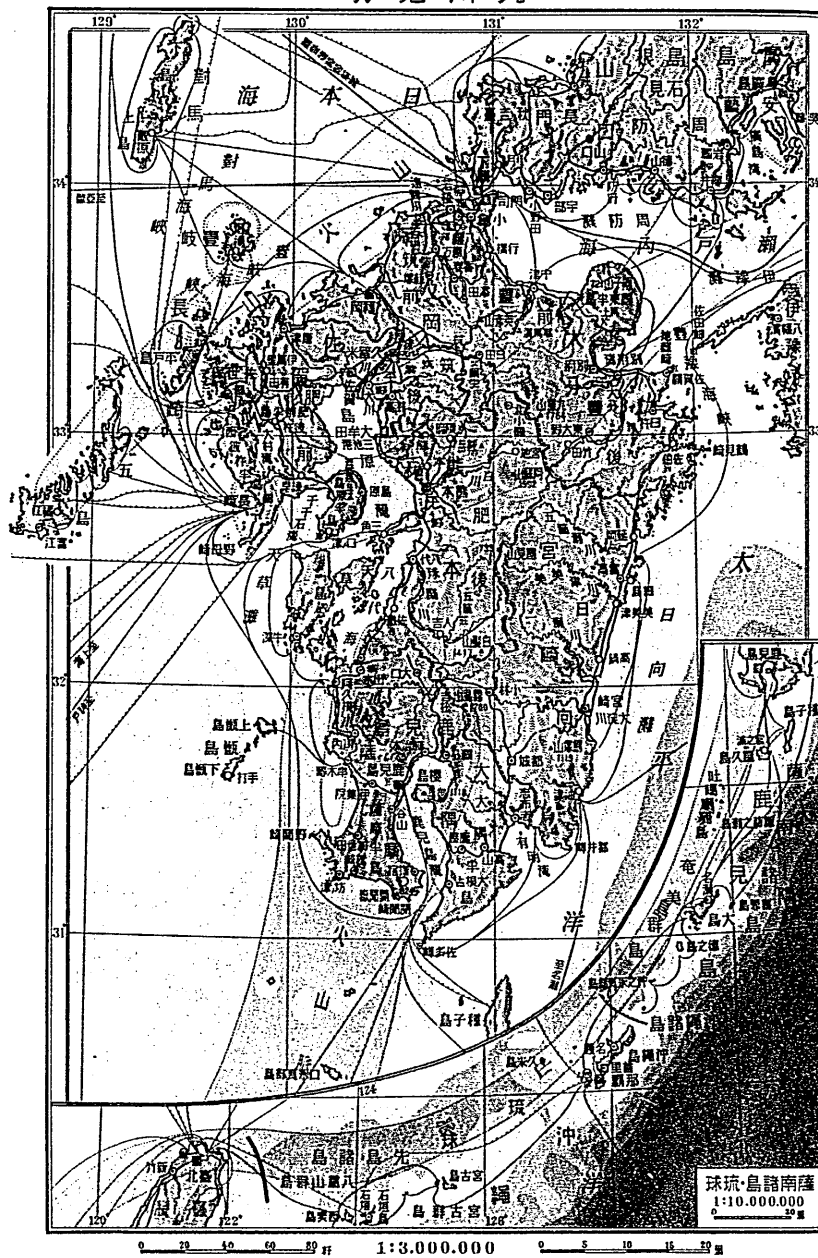


第二節 人文誌

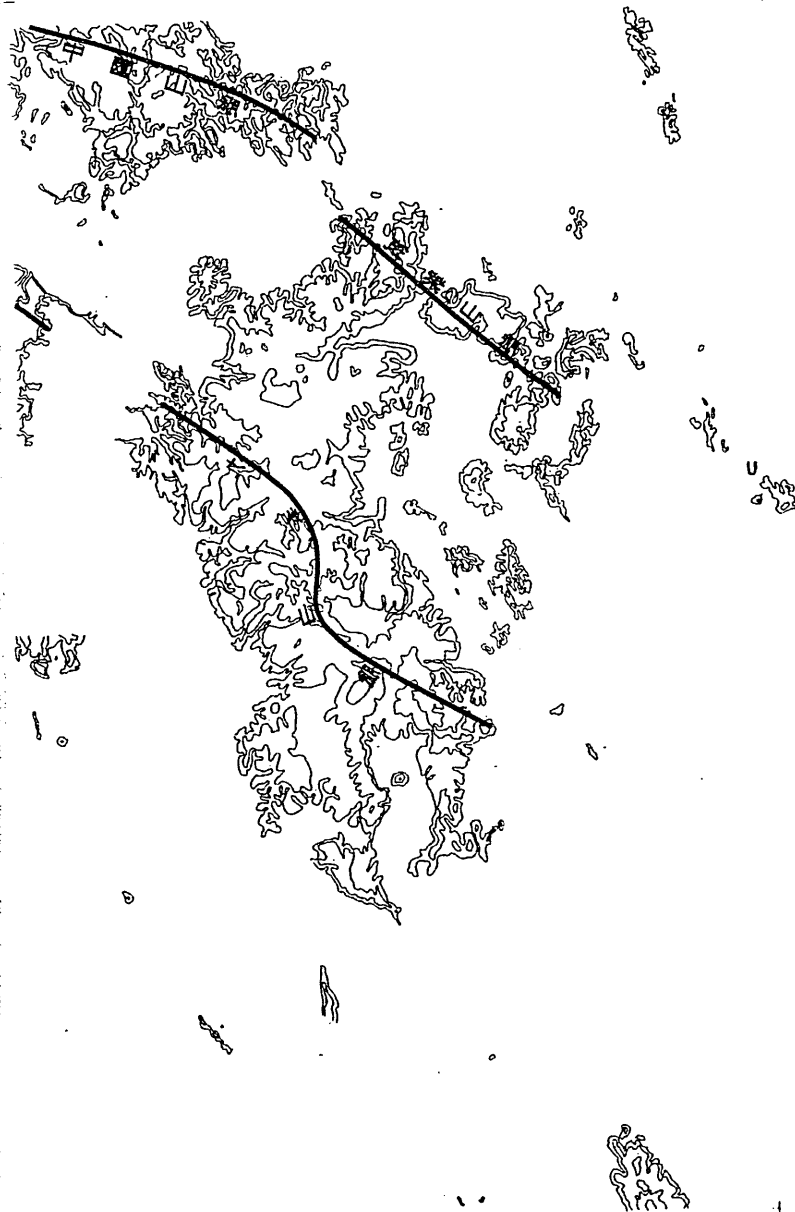
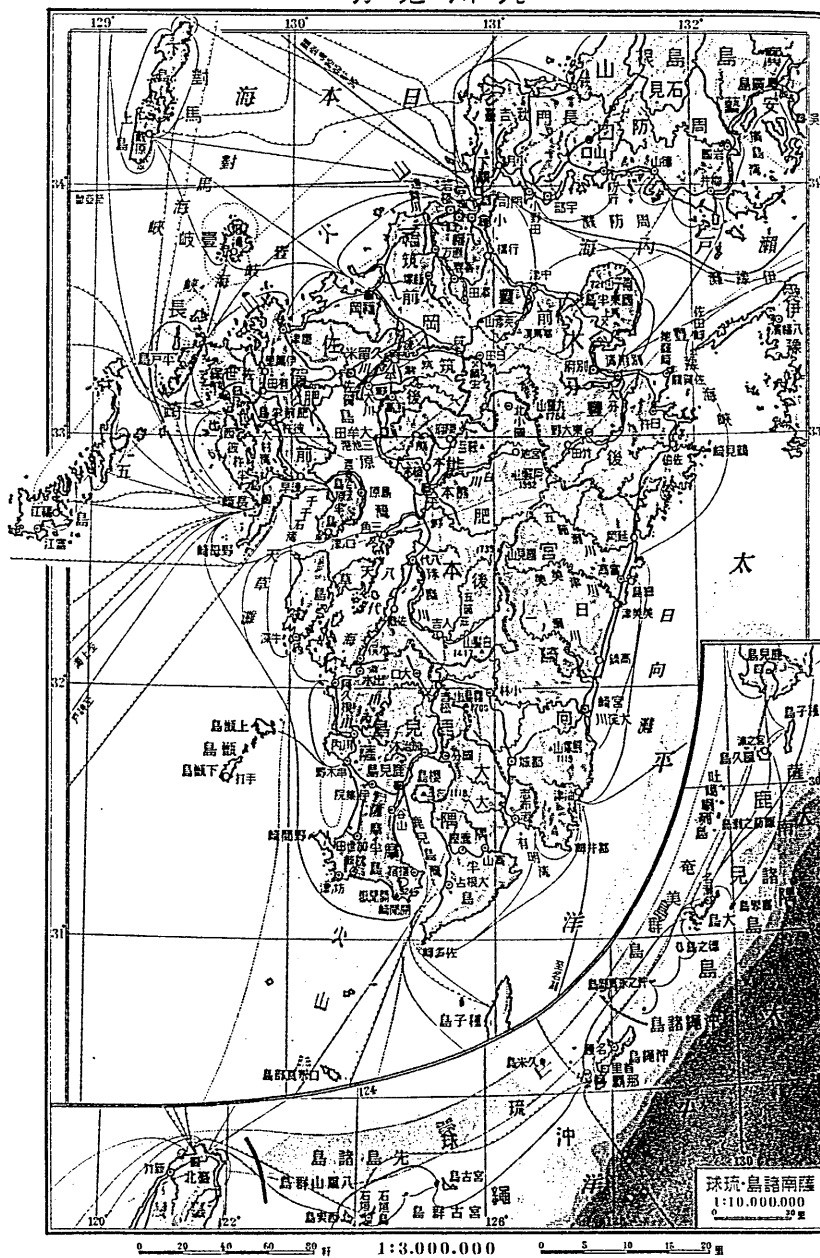
はれ芭蕉其の他の熱帶性植物がある。



九州地方

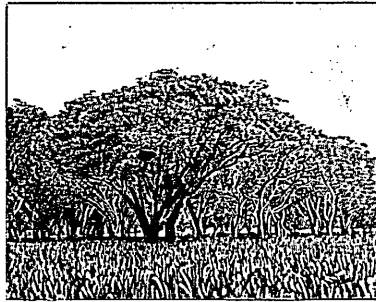


九州地方



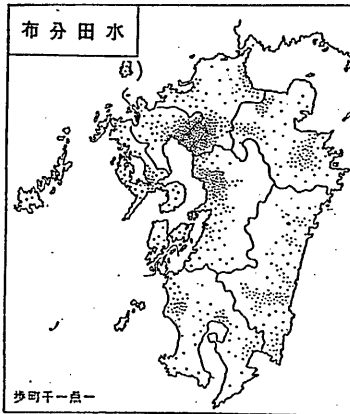
沖繩・鹿児島二縣は豚の飼養が多い

図解 植樹



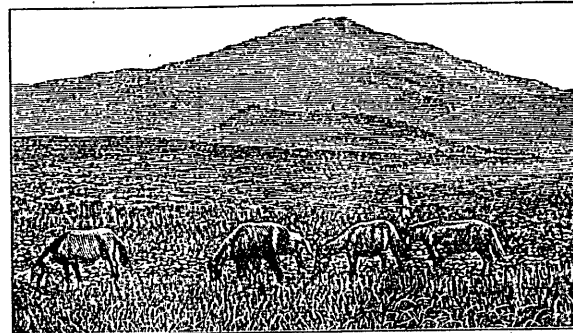
産業 九州地方は、暖地であるから、農作物を多量に産する。北部平野と筑紫平野と、熊本平野とは、耕地の面積に比して、米の收穫が多く、其の米は、良質を以て聞えてゐる。筑紫平野は、菜種と榎^{いも}の實とを、鹿児島灣沿岸は、煙草を多く産する。

甘藷は、全國中産額が最も多く、殊に沖繩・鹿児島二縣は、食料にする外、焼酎を醸す爲に、盛んに栽培してゐる。九州島は、一般に馬を飼養し、熊本・鹿児島二縣は、頭数が最も多い。九



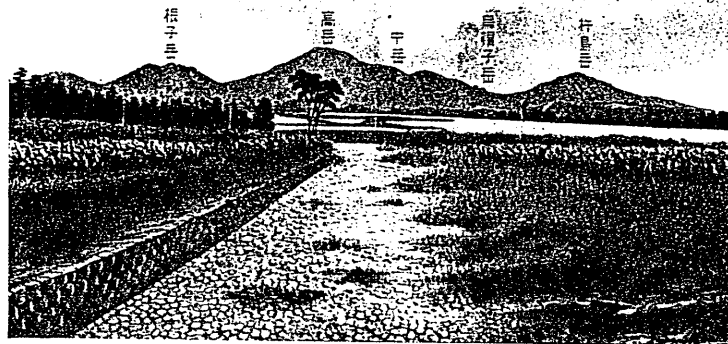
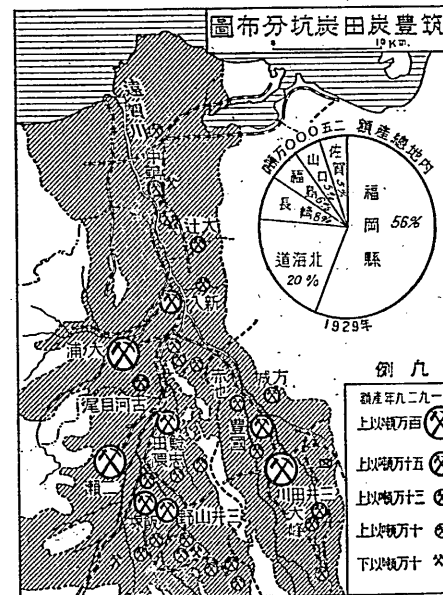
沖	11	四万	八万	十二万
鹿	7			10%
千	4			5%
島	4			5%
内	4			5%
地	70万			

阿蘇火口原の牧馬



鑛産は、割合に多く、中にも石炭が最も多く、之に次ぐは金である。石炭は、主に福岡佐賀長崎の三縣に産し、その産額を合計すると、全

川山脈には、處々に森林があつて、大分宮崎熊本の三縣は、木材薪炭を産出する。



阿蘇山 規模大なところ世第一といはれる火口原の一部に立つて中央火口丘
たつた阿蘇五岳を望むのもだるあで 眞實の景は左の煙るあ

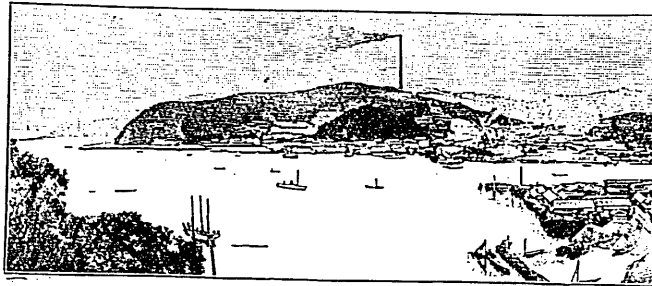


別府市の市大観 南方の上り眺めのためのもだるあで 市の外に温泉が湧き出でし
市街の宛も湯の上の浮ぶ感があ 眞實の汽船を往復する客が船あで

△三井田川・大浦・宮浦・萬田

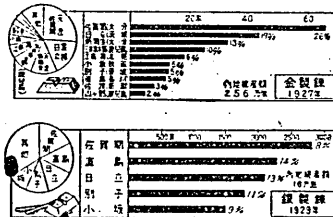
圖解 佐賀關製煉所の全景

×京濱・阪神・北九州は我國の三大工業地帯である



國石炭總産額の七割を占め、福岡縣のみでも六割に及んでゐる。福岡縣には、筑豊三池などの大炭田があつて、この兩炭田には國內屈指の大炭坑がある。大分・鹿兒島の二縣は、我が國での金の主産地で、金鑛は、鹿兒島縣が最も多いが、製煉高の最も多いのは、佐賀關と鯛生とである。

水産業は、頗る盛んで、長崎縣の烏賊・鯛、鹿兒島縣の鰹、福岡縣の鰯は、その漁獲高が頗る多く、鰯(長崎縣)の製造も盛んである。また、有明海の牡蠣、鯉(鹿兒島縣)の紅珊瑚、大村灣及び八重山諸島の

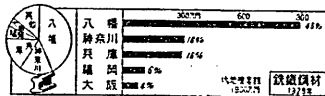


▲門司・若松・博多
△長崎・佐賀・大分
△長崎・佐賀・大分
ノ津・三池・三角

眞珠養殖も名高い。北部は工業市が相連なつて一大工業地帯をなし、主な製品は、鐵、砂糖、セメント、肥料、硝子である。就中八幡製鐵所の製鐵は、全國製鐵の總産額の約八割を占める。原料の鐵礦は、一部は支那より、一部は朝鮮及び海峽植民地より運ばれるのである。この外有田の磁器、長崎の船舶、久留米の緋足袋、大分縣の疊表、八代及び佐伯のセメントの生産も、亦有名な工業である。

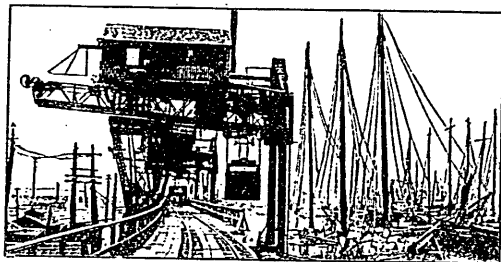
開港場は、主に北部と西部とに多く、石炭を輸出し、南部の鹿兒島那覇二港は、臺灣支那に對する開港である。東北及び東部には開港場がない。福岡は、熊本、鹿兒島と共に、地方商業の中心である。

交通 九州の幹線鐵道は、鹿兒島線と長崎線とで、鹿兒島線は門司に起り、福岡、鳥栖、熊本、八代、川内を過ぎて鹿兒島に至る。其の數條の支線の中に、豐肥線は、熊本より阿蘇山中を経て大分に至り、肥



×九州山脈の矢岳
峠に登る處は地形
が急峻で適當の勾
配がつけられぬ故
大畑附近で隧道を
利用して一回旋轉
して登つて行く之
をループ線といふ

圖解 若松港



薩線は、八代より人吉、吉松を経て鹿兒島に至る。長崎線は、鳥栖より西の方佐賀、早岐を過ぎて長崎に至る。この外主な鐵道は、日豐、筑豐線である。日豐線は、小倉より東海岸地方を通り、宮崎より西に向ひ、山地を横ぎつて吉松に出て、肥薩線に連絡してゐる。支線が數條あつて、その中の志布志線は、都城より有明灣岸に達してゐる。筑豐線は、若松に起り、南の方上山田に達し、數條の支線と共に、筑豐炭田地方の運輸にあたつてゐる。北部海岸は、その位置が、世界交通の要路に當つてゐるので、内外國の汽船が多く往來する。海上の交通は、陸上の交通と共に甚だ便利で、門司、若松、長崎の諸港を始め、有明海内にある三池港にも、外國汽船の出入が次第に多くなる。海底

電線は、長崎よりウラヂアストク・大連・青島・上海に、那覇より南洋のヤップ島に通ずる。無線電信局は佐世保・大瀬崎・鹿兒島・那覇・大東島・ラサ島に、ラヂオ放送局は熊本・福岡に置かれてゐる。都市 福岡・佐賀・二縣をはじめ長崎縣は人口が多くて、長崎・福岡・熊本・八幡は人口十萬以上を有する都市をなしてゐるが、南部は人口が稍少く、鹿兒島の外、著しい都市がない。

第三節 處誌

管轄 筑前・筑後・豊前・半部
×下流地方では樹を植ゑて木蠟を採る
筑豊炭田地方には直方市・飯塚市・後藤寺・伊田などを始め急速に發達した都市が多い

福岡縣 玄海灘・周防灘・有明海に面し、平野が散在してゐる。筑後川（筑紫）は九州の最大河で、大分縣より來て、佐賀縣との境を流れ、筑平野を開いて有明海に注いでゐる。筑紫平野は、米・菜種の産出額が多く、筑豊炭田及び三池炭田の石炭と共に、頗る重要な物産である。本縣は、一般に人口が甚だ多く、市

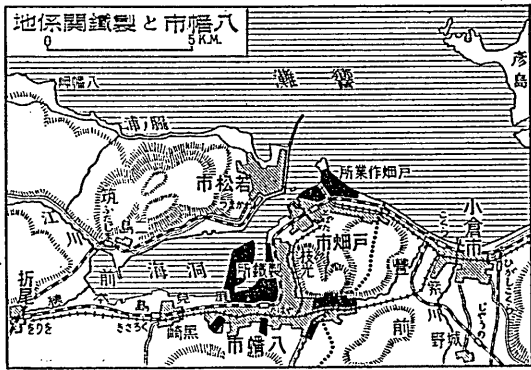
圖解 門司

△附近は九州北部工業地帯である



が十箇あり、又開港場も多く、かつ軍都があつて、其の發達を示してゐる。

門司市は帝國第四の開港で、内外航路の要地で、石炭の移出が甚だ多い。小倉市は日豊・鹿兒島二線の分岐點で、工業が盛んに行はれる。若松市は開港で、石炭の輸出を以て名高。く、洞海を隔て、工業地の戸畑市と、製鐵所のある八幡市とに對して、多量の鐵礦を移輸入し、工業も行はれる。福岡市は、



▲北東の太刀洗に
陸軍航空隊がある

管轄 肥前東部
園解 有田燒工場

唐津・福岡は電車
によつて連る



博多(港)福岡を要部とし、縣廳九州帝國大學の所在地で、博多織を産し、市の内外に、名勝舊蹟が多い。筑後川下流の久留米市は、筑紫平野の中心を占め、軍事上(第二十師團司令部所在地)交通上の要地で、久留米絣を産する。大牟田市は、炭坑と三池港とを控へた工業市で、紡織、化學工業が盛んである。

佐賀縣 有明海(海)方面は、筑紫平野の一部で、開港の住、江がある。北部の筑紫山脈に石炭平野に米、有明海に牡蠣を産する。唐津伊萬里二灣間の東松浦半島は、史蹟名護屋のある處で、東方の唐津市(港)は石炭を輸出し、又西の伊萬里は磁器を積出す。佐賀市(縣)は、米の取引が盛んで、綿紡織も行はれる。

△有田燒と稱す

管轄 肥前西部・
登岐・對馬

X 海軍航空隊所在
園解 (上)長崎の
石炭積込み(下)
長崎造船所の船渠



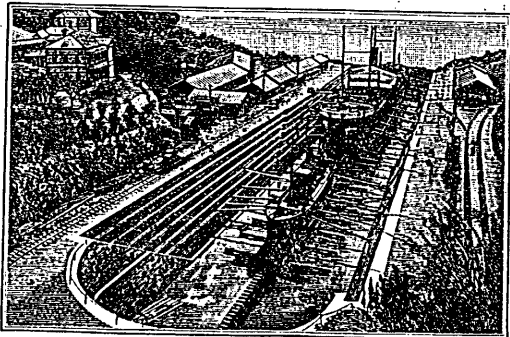
有田は、唐津炭田の西方に位し、磁器製造が盛んである。

長崎縣 大部は、島嶼と半島とで、海岸線が長く、商業が盛んに行はれる。

X 大村灣口附近の
佐世保市は、第三
海軍鎮守府海軍
工廠の所在地で

軍事上、極めて重要な所である。

開港長崎市は、縣廳控訴院造船所及び醫科大學等の所在地で、海産物の輸出が多く、高島等の炭坑が近くて、石炭の積出も盛んで



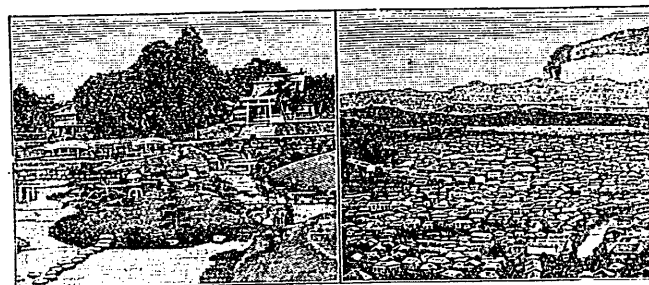
×福江島の大瀬崎
は無線電信局所在
地

壹岐に勝本・郷浦
の名邑がある

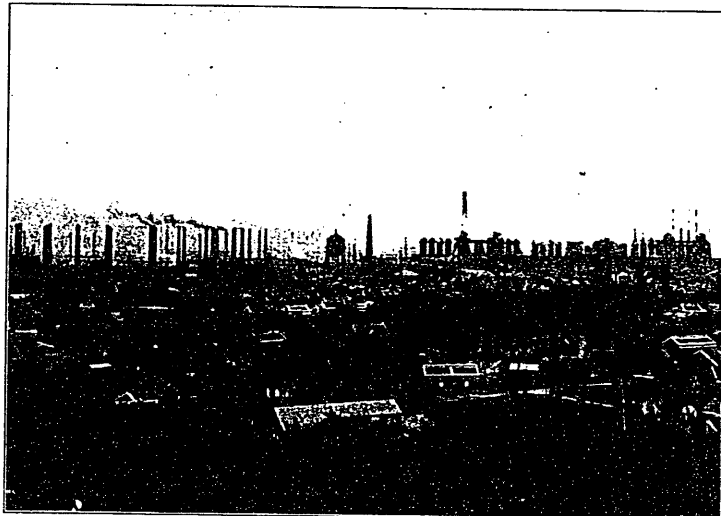
圖解 熊本市と水
前寺

管轄 肥後

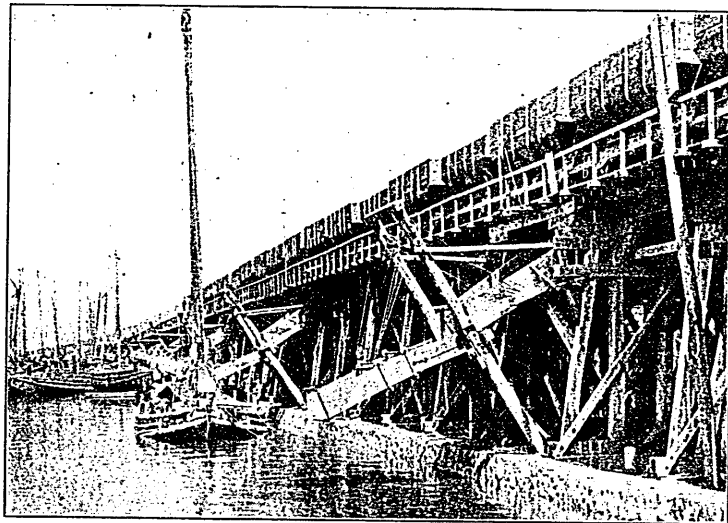
△北方の隈府は南
朝の忠臣菊池氏の
故地、山鹿は温泉
地



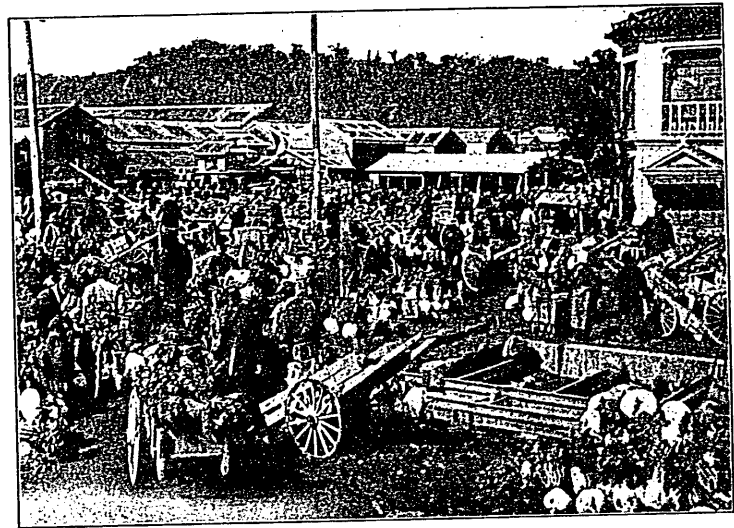
ある。島原半島には、中央に温泉(雲仙)岳が聳え、東岸に島原、南岸に開港口、津がある。五島は、五島錫を産し、平戸島と共に、漁業が盛んである。壹岐對馬(其に要)は、日本海の西門に横たはつて、朝鮮に渡る飛石の如く、對馬海峡東方の沖ノ島(福下)近海は、日本海々戰の開始地として名高い。對馬は、開港場の嚴原を控へ、錫を産する。熊本縣 南東部は土地が高く、阿蘇火山地方は、栗作牧馬が盛んである。菊池川、白川、緑川の下流には、肥後米の産で名高い肥後平野があつて、熊本は、その中央にある。熊本(四鐵道)は、縣廳高等諸學校(醫大五高)第六師團司令部のある處、北方の植木、田原坂と共に、



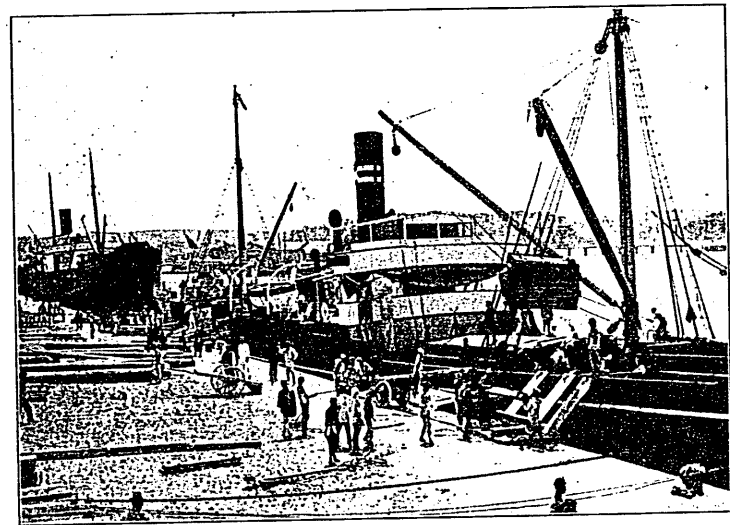
八幡製鐵所の鐵製所 當つて突立林のありて鐵製所 八幡製鐵所の鐵製所 當つて突立林のありて鐵製所



若松炭積場 松若炭積場 松若炭積場 松若炭積場 松若炭積場 松若炭積場 松若炭積場 松若炭積場 松若炭積場 松若炭積場

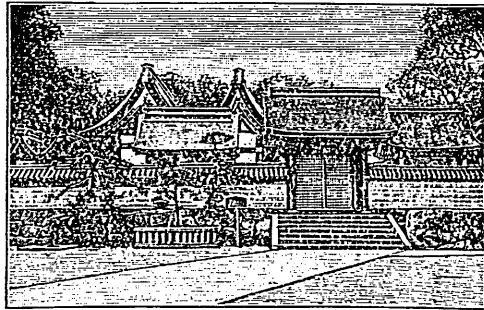


あものもい近に延十二量重櫃十五徑直はのもいき大で産特の島櫻 場市の根大島櫻
るあで觀景の場市根大るけ於に島兒鹿は圖 るあで味美つ且く軟だ甚は内り

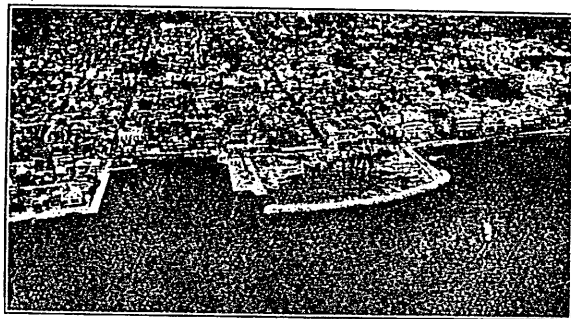


る然 たつあで難困が泊碇の船大で難困が海航りあが礁珊瑚に々處の岸沿 港蕪那
たつなにうやる得し泊碇に由自が船汽大く如の圖てし成完が部一の港築年近に

圖解（七字佐神
宮（丁別府



西南役で名高く、近郊に、
九州一の名園水前寺（名
園）がある。南西の宇
土半島は、開港三角を控
へ、無煙炭、陶土を産する
天草島と共に、八代海（不
測火を抱いてゐる。
八代は、セメントを産し、
木材を集散する。水俣
は肥料・セメントの産地



管轄 豊前半部・
豊後
日田は日田盆地の
中心其の南方の鯛

として著はれ、人吉は、肥薩線上の名邑である。
大分縣 大部は、九重山（ジエウ）由布岳（ユフ）鶴見岳などの山地である。山國川
の上流には、奇岩清流の耶馬溪があつて、河口の中津市は、綿紡織が

生は金産地
△佐田岬地方と共に
要塞地帯である
日田・大分・杵築・
臼杵は盛衰の集散
地

管轄 日向

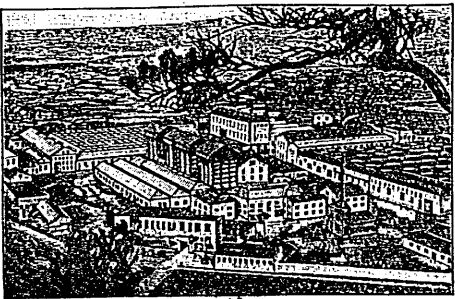
國解 延岡の窒素
肥料工場

日向灘の青島・大
島に熱帯植物が繁
茂する

榮え、其の南東の宇佐に、名高い八幡宮がある。國東半島は、七島表^{シチクラオモテ}を産し、佐賀關半島と共に別府灣を抱く。別府市は温泉で繁榮し、大阪神戸等との間に商業が盛んで、又交通が便利である。大分市は、縣廳の所在地で、綿絲紡績業が榮え、生絲和紙をも産する。

宮崎縣 我が建國の靈地として、當時の史蹟がある。面積の廣い割合に、人口が少く、未墾地が多くて、産業が振はない。

九州山脈を初め山地が多くて、林産に富み、日向灘には、黒潮に伴ひて魚族が集中する。海岸には、出入が少く、細島内海、油津^{ウラツ}及び福島などの漁港が散點する。延岡^{ノボロ}は、五箇^カ瀬川口の名邑で、窒素肥料の製造が盛んである。その

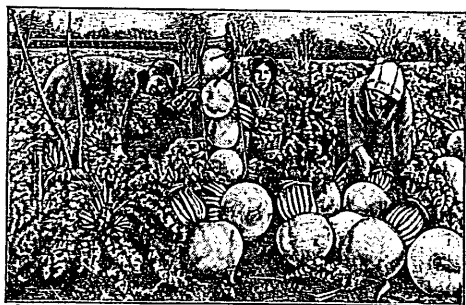


管轄 大隅・薩摩
△東側の有明海は
海軍の演習地であ
る

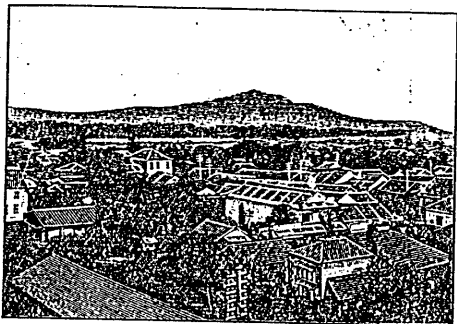
國解 (上)櫻島大
根(下)都城(遠
きは)霧島山

×西郷隆盛最期の
地

上流に、槇峯^(銅山)高千穂がある。大淀川口の宮崎市^(縣在)は、生絲を産する。宮崎神宮は、高千穂宮址と傳へられる。都城市は、製絲・製茶が盛んである。



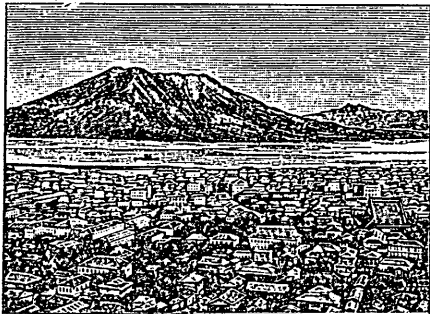
鹿兒島縣 薩摩・大隅の二大半島が斗出して鹿兒島灣を抱き、灣内の櫻島半島は大根、沿岸の國分・加治木は、葉煙草を産する。河流は、川内川^{カウダイ}のみが有名で、平野は少いが、薩摩節金を産し、牧馬も亦盛んである。開港鹿兒島市^(縣廳・七高)は、背後に名高き城山^{キヤウ}を負ひ、前に火山の櫻島を望みて、



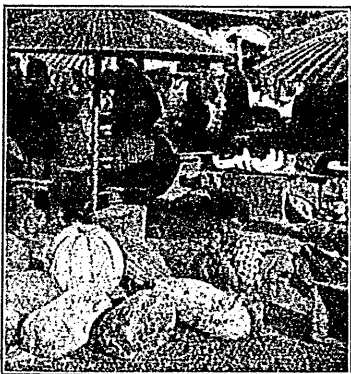
谷山は錫、指宿附近は煙草、阿久根は焼酎を産する

國解 (上) 鹿兒島市 (下) 沖繩の市場

× 住民の主食物
支那の如く墳墓を
壯大にする
本縣には大村が多い



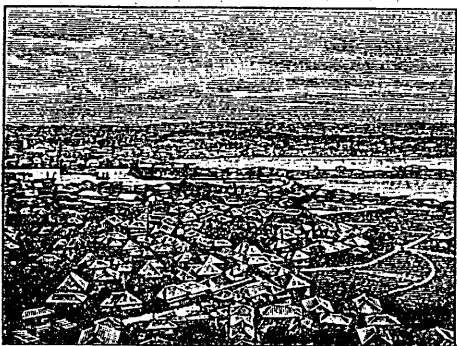
風光がよい。薩摩緋・薩摩焼・錫器を産し、鰹節を集散する。霧島山麓は臺地が廣くて、かつ温泉が多い。薩南諸島の種子ヶ島(傳説の地)は、甘蔗を産し、また屋久島は杉・鰹節を、大島は大島紬・黒砂糖を産する。沖繩縣 薩南諸島の南西方に連る五十餘の島嶼



て、臺灣に渡る飛石のやうである。温暖多雨で、甘蔗・甘藷・芭蕉等の熱帶性植物がよく生育し、養豚が盛んである。暴風が屢、襲來するので、住宅は、概ね石垣を繞らしてゐる。

△ ヤップ島に海底電線を通じ又無線電信局がある
國解 那覇市街
× 東經一二〇度の西部標準時による

今は内地との交通が開け、教育も日に進んで、言語・風俗が殆ど内地と異らない。開港那覇市(縣廳)は、琉球絋及び芭蕉布を、舊王都の首里市は、泡盛を産する。先島諸島の時刻は、臺灣と共に、内地よりも一時間後れる。南東海上のラサ島(沖大)は、多く燐礦を産し、無線電信局がある。

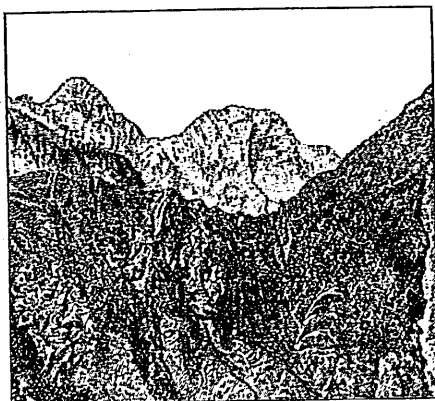


第七章 臺灣地方

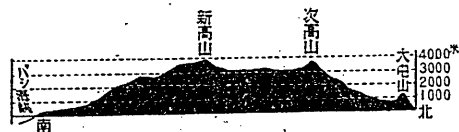
第一節 地文誌

地域 帝國の南西端にあつて、南半は熱帶に入り、支那や比律賓群島(米)に近い。行政上、臺北・新竹・臺中・臺南・高雄の五州と、臺東・花蓮港

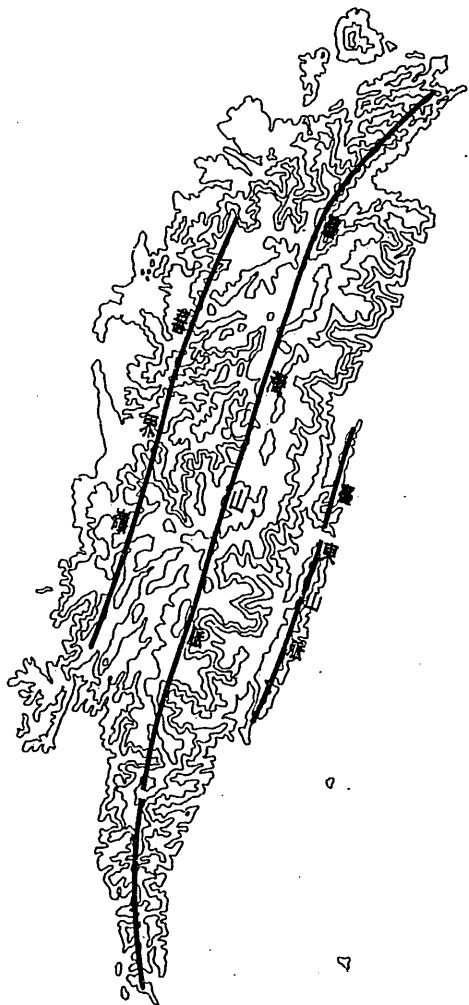
△三九五〇米
 圓解（上）新高山
 （下）臺灣地方南
 北斷面



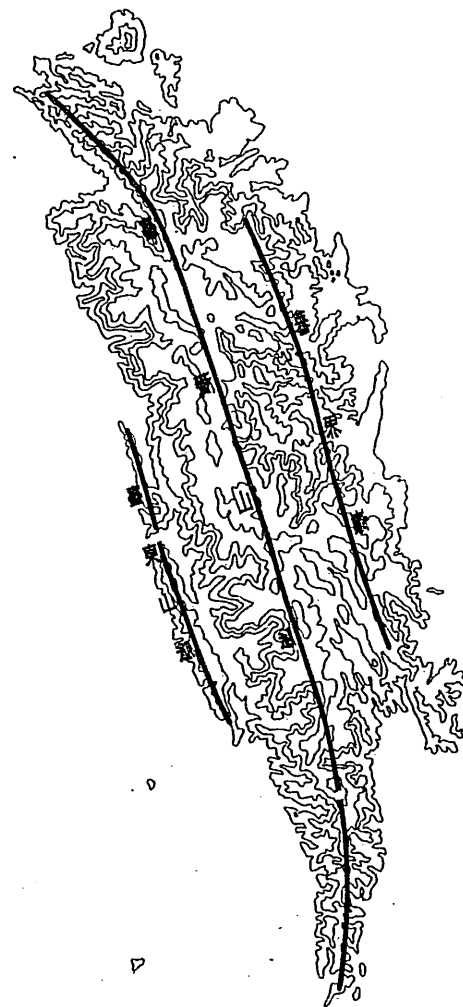
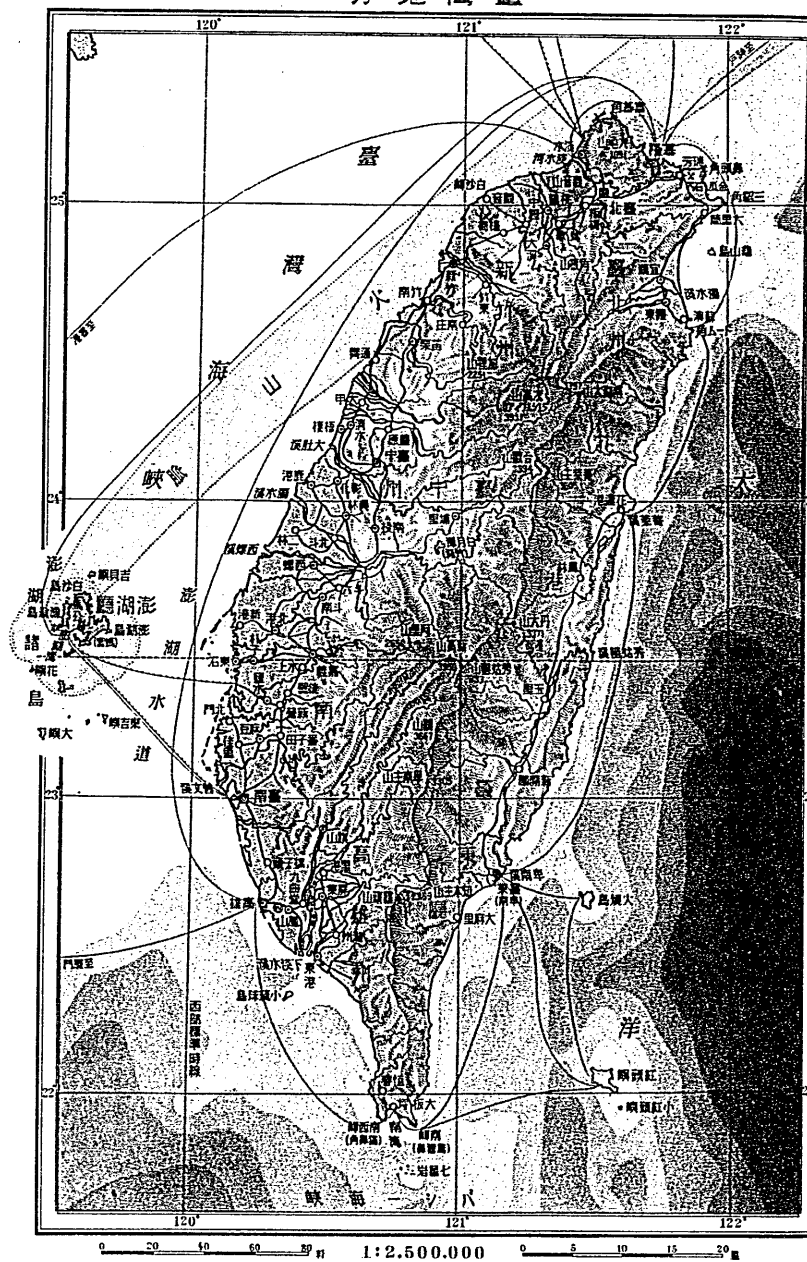
澎湖の三應とに分たれてゐる。
 地勢 帝國中、最も雄大な
 臺灣山脈が、東に偏して南
 北に連り、脈中の新高山は、
 帝國の最高山で、次高山な
 ども、亦富士山より高い。山
 脈の東側は急斜し、西側は
 緩斜してゐる。その西の
 廣い臺灣平野には、淡水河、



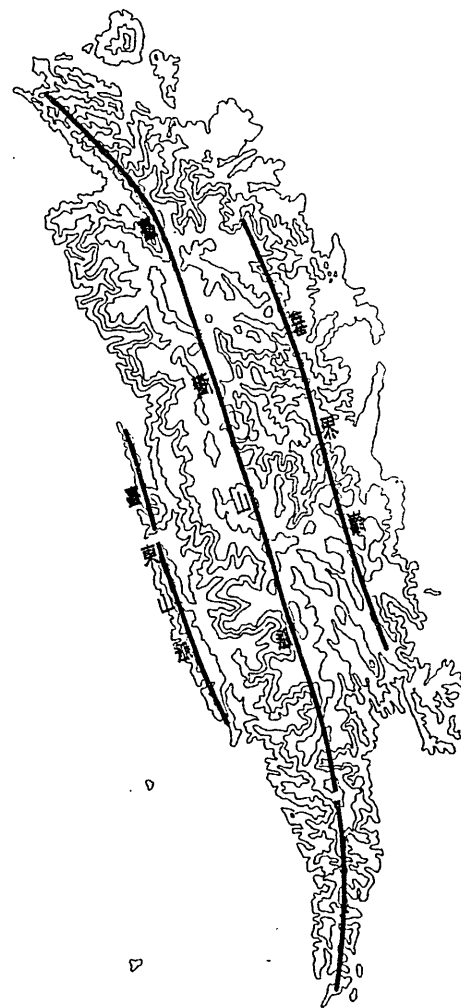
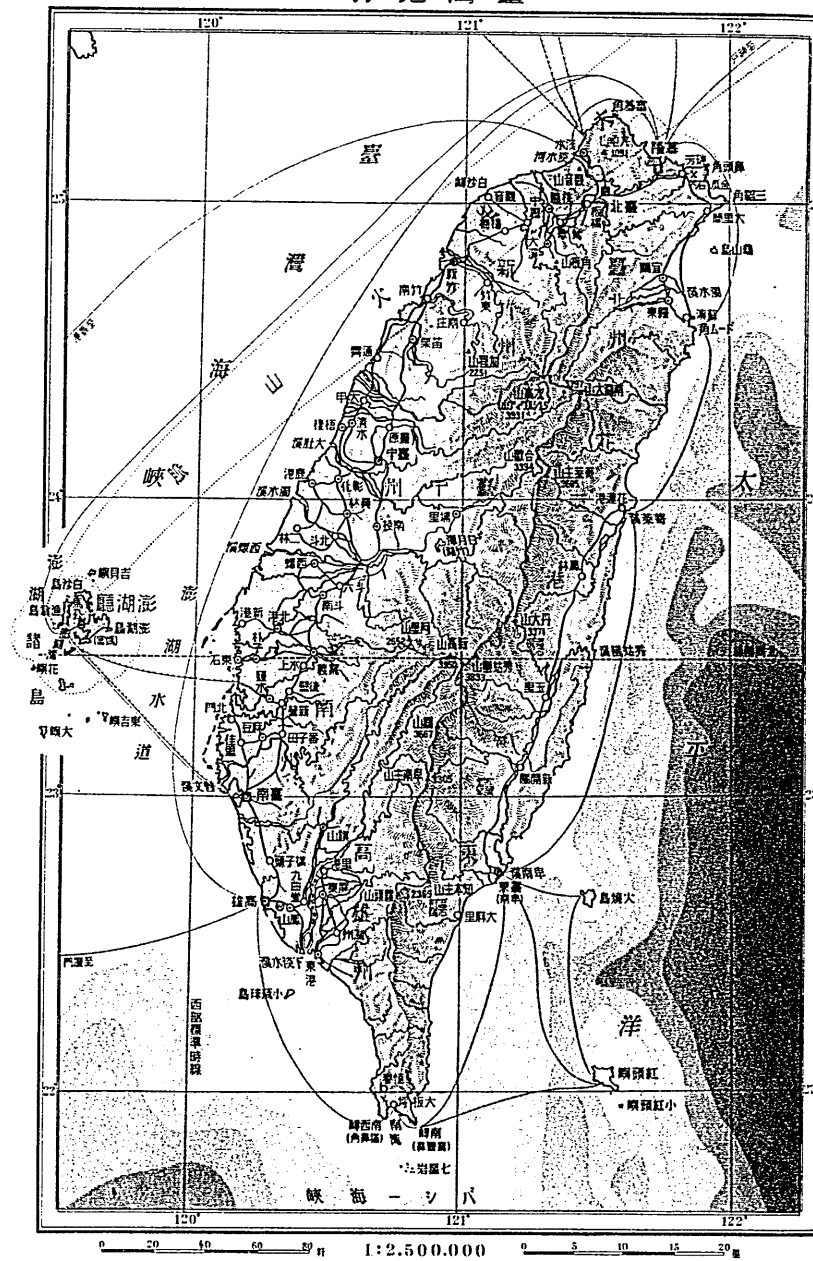
濁水溪、淡水溪などが流れてゐるが、何れも水運の便
 が少い。海岸は、出入が少く、東岸には、約千米の斷崖、西岸には遠淺
 の砂濱が多い。屬島は、臺灣海峡の澎湖群島のみが著しい。
 氣候 高温多雨で、一年は雨季と乾季とに分れ、竹、檳榔、樹榕、樹芭蕉



臺灣地方



方地灣臺



等が繁茂してゐる。

第二節 人文誌

檳榔・文旦などの
柑橘類は西部平地
で栽培される
園解 本島人の稻
我ぎ

屏東平野にも米を
栽培する一般に一
年二回收穫してゐ
る
宜蘭平野では苧
麻・黄麻の栽培が
盛んである

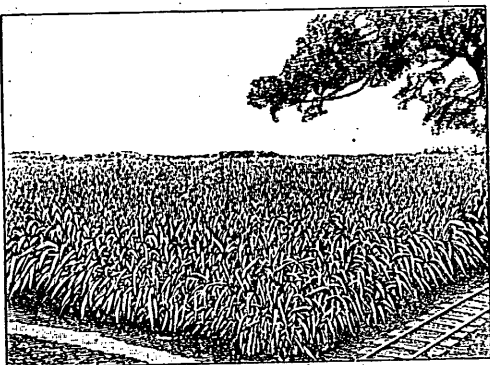
産業 農業は殆ど全島に行はれ、住
民の五割は農業者で、米・甘蔗・香蕉・鳳梨
・落花生等を産する。米は、臺北・新
竹・臺中・宜蘭の四平野に産し、在來種
(臺灣米)と内地種(米達萊)との二種類があ
る。在來種は品質が粗悪であるが、内
地種は、殆ど内地米と異ならない故、
多く内地に移出される。臺中平野の
米は、特に良質を以て聞えてゐる。近年培養法を改良し、水田を増設
し、灌漑を便利にしたので、著しく増收を見るやうになつた。



茶は、主として臺北平野と、新竹州の丘陵や、臺地とに栽培され、中にも桃園附近が、最も有名である。而して、臺北桃園に於ては、茶の精製が、頗る盛んに行はれてゐる。

圖解 (上) 甘蔗園
(下) 阿里山の檜

△一部は内地に輸送せられる



甘蔗の主
要なる産
地は、臺南
高雄の二
州の平地である。屏東嘉義を始めとし、臺中・臺南・鹽水・港鳳山その他各地に工場が設けられ、粗糖・精糖に製せられる。豚・黄牛・水牛は、農家の一般(部に中)に飼養され、豚の頭数が最も多い。また家鴨も多く飼は

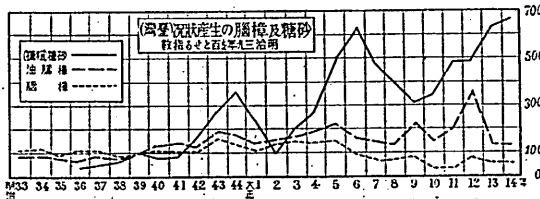


○阿片・食鹽・煙草と共に總督府の專賣で世界需要高の半以上を供給する

△鹿港・新港・東石・布袋・北門

れてゐる。臺灣山脈には、檜・樟・樺・杉の巨大な良材が多く、阿里山にては、盛んに檜を伐出して、嘉義其の他の各製材所に送る。樟・大山・八仙山・宜蘭濁水溪流域にも、大規模の森林がある。臺灣島の特産物たる樟腦は、樟腦油と共に、中部北部の山地にかけて、樟樹より製せられ、基隆より、内外各地に積出される。香蕉は其の産が多く、臺中州が、主産地である。鳳梨は、高雄・臺南・臺中の三州に産し、鳳山附近が、多産地である。落花生は、臺北・高雄兩市間に互つて、廣く栽培され、臺南・高雄・臺中の三市で、其の集散をする。

水産業は、近年急に發達し、基隆と高雄とを根據地として、多く、鯉・鯛を漁獲してゐる。魚介養殖も、また盛んである。西海岸では、砂濱を利用し、天日により、製



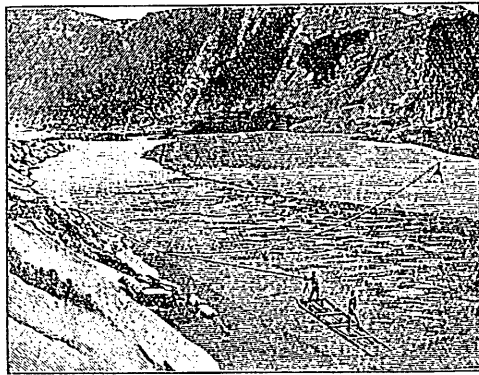
陸の臺車と河海の竹筏とは臺灣特有の交通機關である

圖解 秀姑巒溪と竹筏

住民
内地人 一八萬人
本島人 一四萬人
高砂人 八萬人

基隆に起り、臺北、臺中、臺南などの主要都會を連絡し、略、平地の東部を通つて、高雄に終つてゐる。その支線は、四條あつて、その中の宜蘭線は、蘇澳に至り、本島唯一の東西線となつてゐる。又中部以南には、製糖會社建設の鐵道線路が十數條あつて、製糖工場専用の線路と共に、網狀をなしてゐる。海上交通は、基隆、高雄を主とし、内地の各港を始め、香港、天津、馬來群島の各港との間に、航路を開いてゐる。海底電線は、淡水より那霸、長崎、支那の福州に通じ、無線電信局は、臺北、基隆、宜蘭、鳳山、鵝鑾鼻及び馬公等に置かれてゐる。

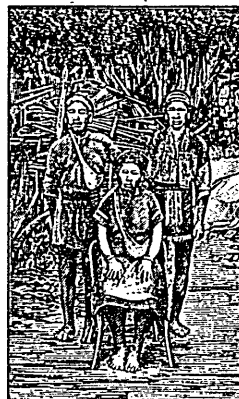
住民 高砂族内地人は、各十萬内外で、その外は、悉く支那人の系統に屬し、概ね平



圖解 (上) 高砂族
中のパイワン人
(下) 基隆港

△無線電信局所在

○大學・高等學校・
高商・高等農林



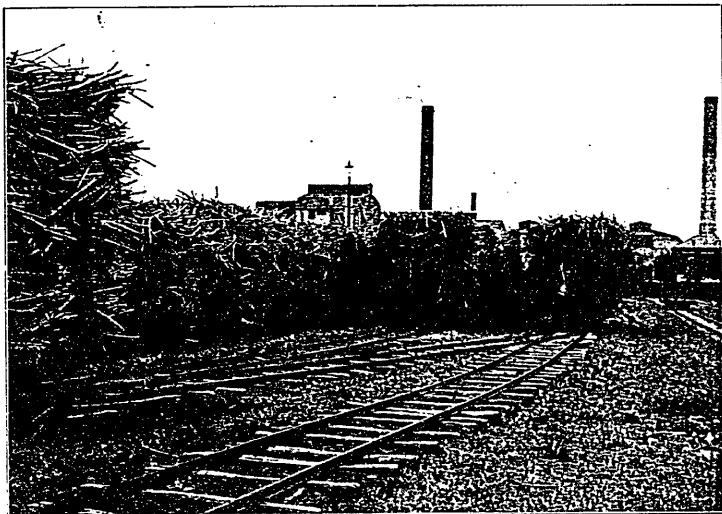
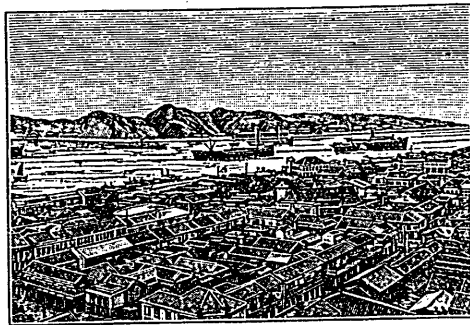
今は聖代の皇恩に浴して、悉く歸服した。

野に住んでゐて、農商等を営む。高砂族の中には、山地に據つて、兇暴を逞しうした者もあるが、

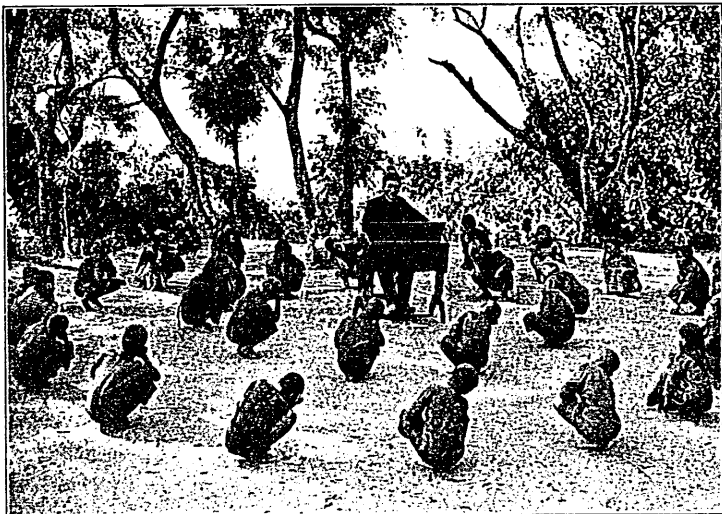
第三節 處誌

北東岸に位する基隆^{（縱貫線起點）}は、内地との交通・商業の要門で、船舶の出入が多く、貿易も盛んである。その附近に、金石炭の産地がある。

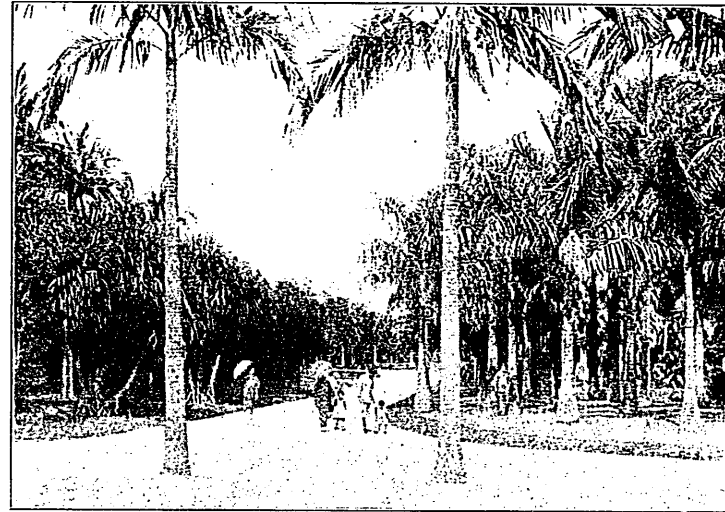
臺北市は、本地方の最大都で淡水河畔に位し、臺灣神社^{（圓山公園）}總督府高等法院高等諸學校等がある。製茶製糖が盛んに行はれ、商業も



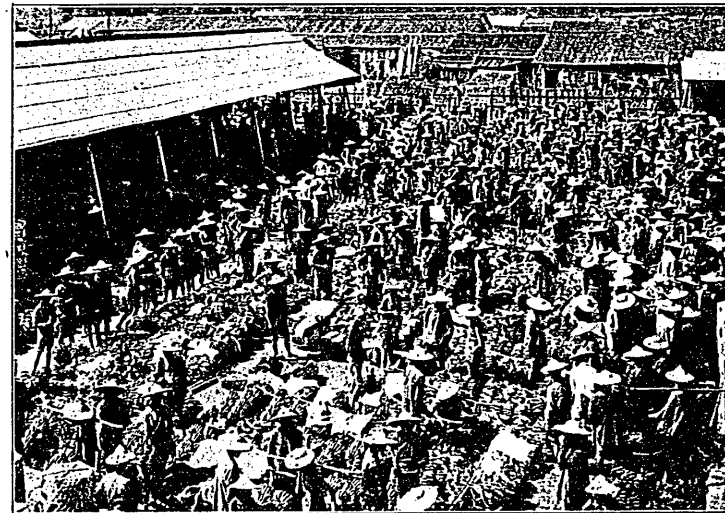
格價品產生潤臺全は在現で品易貿要重のらか代時領占の人蘭和は糖砂 穫收の蔗甘
るあで蔗甘たれさ積集に内構場工糖製尾虎の市義嘉は眞寫 るめ占を%十三約の



を意に業事審理るよに化教ら専は今てぎ過に既に代時の審理るよに力武 育教童蕃
るゐでんし親に育教化文てしと々格に様同と校學小の地内も童蕃 るゐでい注



臺北植物園 面積八ヘ一アル主りて島本に於ける有用植物と熱帯植物

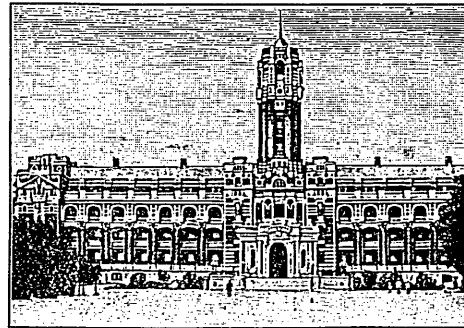


臺中 臺中のナハ市場 全島のナハ移輸出高は年々一千一百萬圓を超る 於ける其の市場最も大なるもの一二年五千斤の取引が行はる

×附近に北回歸線標がある

圖解 (上)臺灣總督府(下)嘉義附近の北回歸線標
○鳳梨の大産地である取引も多い

亦活潑である。淡水は、淡水線の終點淡水河口にある開港で、主に

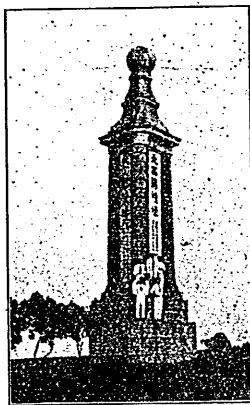


對支貿易が行はれ、附近は海水浴で賑ふ。臺中市、彰化は米作、嘉義は製材、製糖の中心である。

臺南市は、鄭氏三代の都城、全島の首府であつた地で、赤嵌樓、開山神社、關帝廟などがある。鳳山および屏東は製糖地である。高雄市(港門)は、基隆と南北相對する前途有望な開港で、米、砂糖の積出が

頗る多い。恒春は、我が國最南の都邑である。

澎湖群島の馬公(海軍要港所在)は、帝國南門



近年東部平野に移住して農村經營をなす内地人が多し。古野・豊田・林田・蘇・瑞穂・大和等がそれである。

圖解 砂糖俵の山

積

× 渡島・後志・石狩・天鹽・北見・釧路・日高・十勝・釧路・根室・千島の十二國

▲ 渡島・檜山・後志・釧路・石狩・空知・上川・留萌・宗谷・

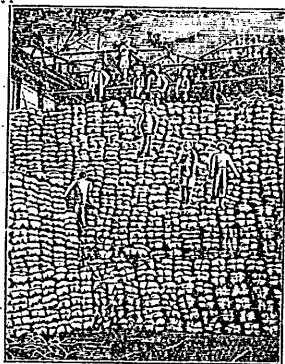
の鎮である。宜蘭は、宜蘭平野の中心で、蘇澳を外港とする。花蓮港は、臺東平野の門戸である。臺東は、臺東線の南起點で、附近に、臺東耶馬溪の奇勝がある。

第九章 北海道地方

第一節 地文誌

地域 太平洋・オホーツク海を限れる千島諸島は、露領勘察加半島に向つて、魚列のやうに連つてゐる。

赤鯉形の北海道本島(島十州)は、帝國第二の大島で、津輕海峡を挟んで本州に、宗谷海峡を挟んで樺太に對する。行政上、六市(函館・小樽・札幌・旭川・室蘭・釧路)と十四支廳とに分れる。

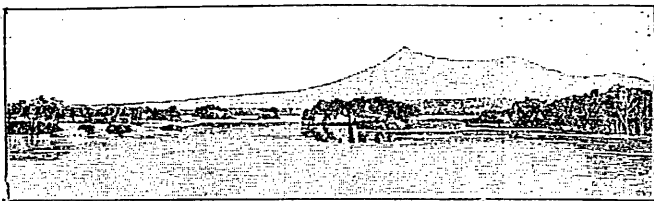


網走・根室・釧路國河内・浦河

○ 大雪山ともいふ

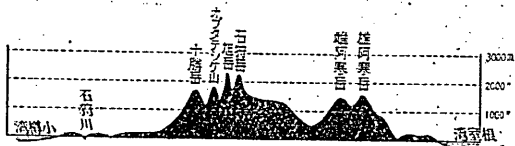
圖解 (上) 大沼と駒岳(下)北海道地方東西斷面

湖沼に支笏湖(最深部三六二米・洞爺湖(最深部一九二米)等がある
△ 定山溪・登別・湯川



地勢 縦走する北見・日高・三山脈と、横走する千島火山脈とは、本島の中中部で相交はり、そこに旭岳・石狩岳等の高山が峙つ。石狩・天鹽・十勝・釧路の四大川はこの交叉點附近に發源し、各主要農産地たる廣い平野を開いてゐる。就中石狩川は、帝國屈指の長流で、その流域にある廣大な石狩平野は、最もよく開拓されてゐる。南西の半島部は、樺前・マッカリ(山羊蹄)・有珠・駒岳等の火山や温泉が多い。海岸は、出入が少い。宗谷・襟裳・二岬は、赤鯉の兩鰭をなし、尾部(半島)に、内浦・函館の二灣が凹入してゐる。

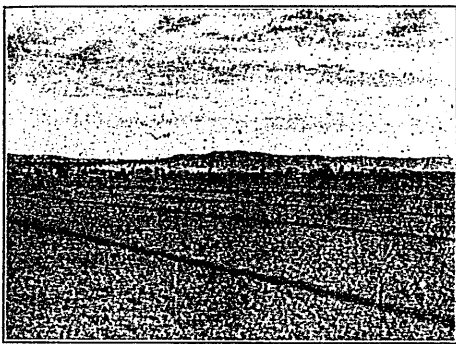
氣候 中部は、寒暑の差が稍大である。海流の關係



上、南東岸よりも北西岸が暖い。寒氣は強いが、雨雪の量は少い。

第二節 人文誌

圖解 (一) 旭川附近の水田 (下) 北海道の雪

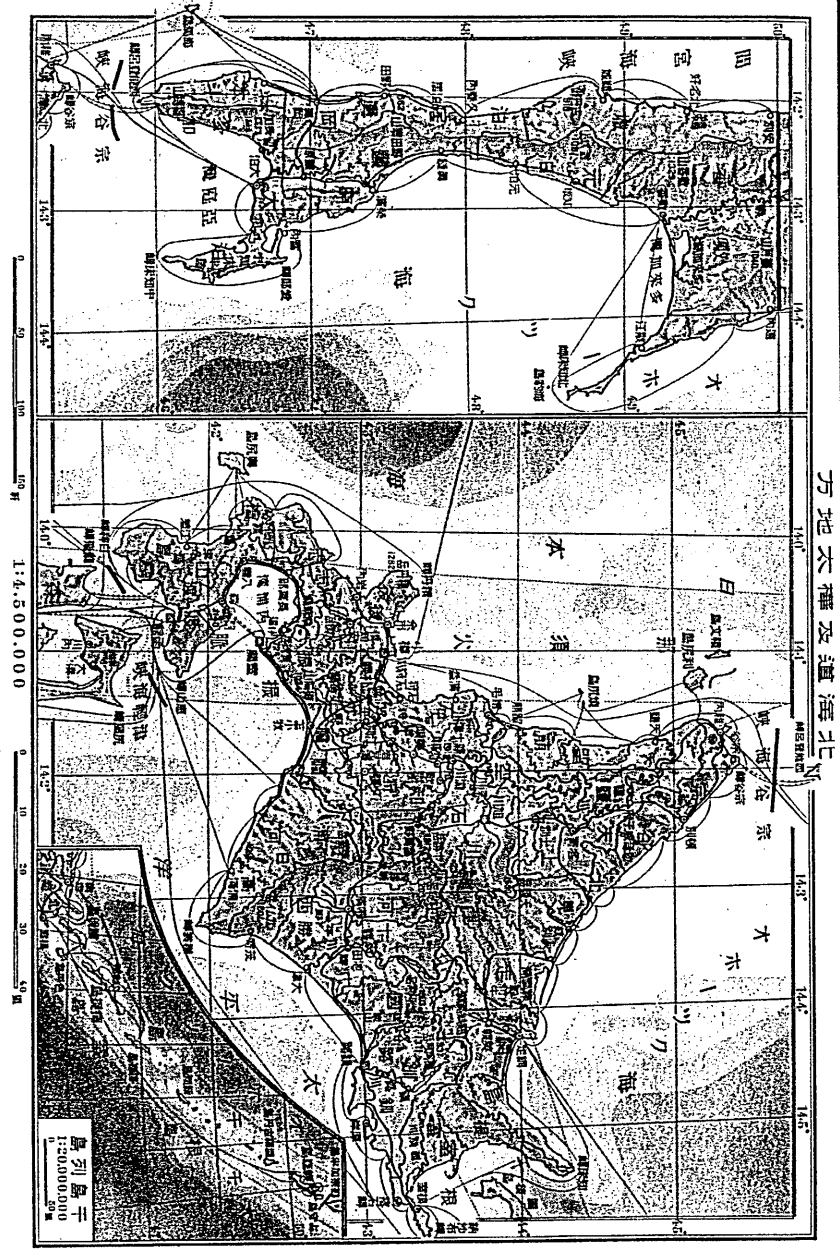


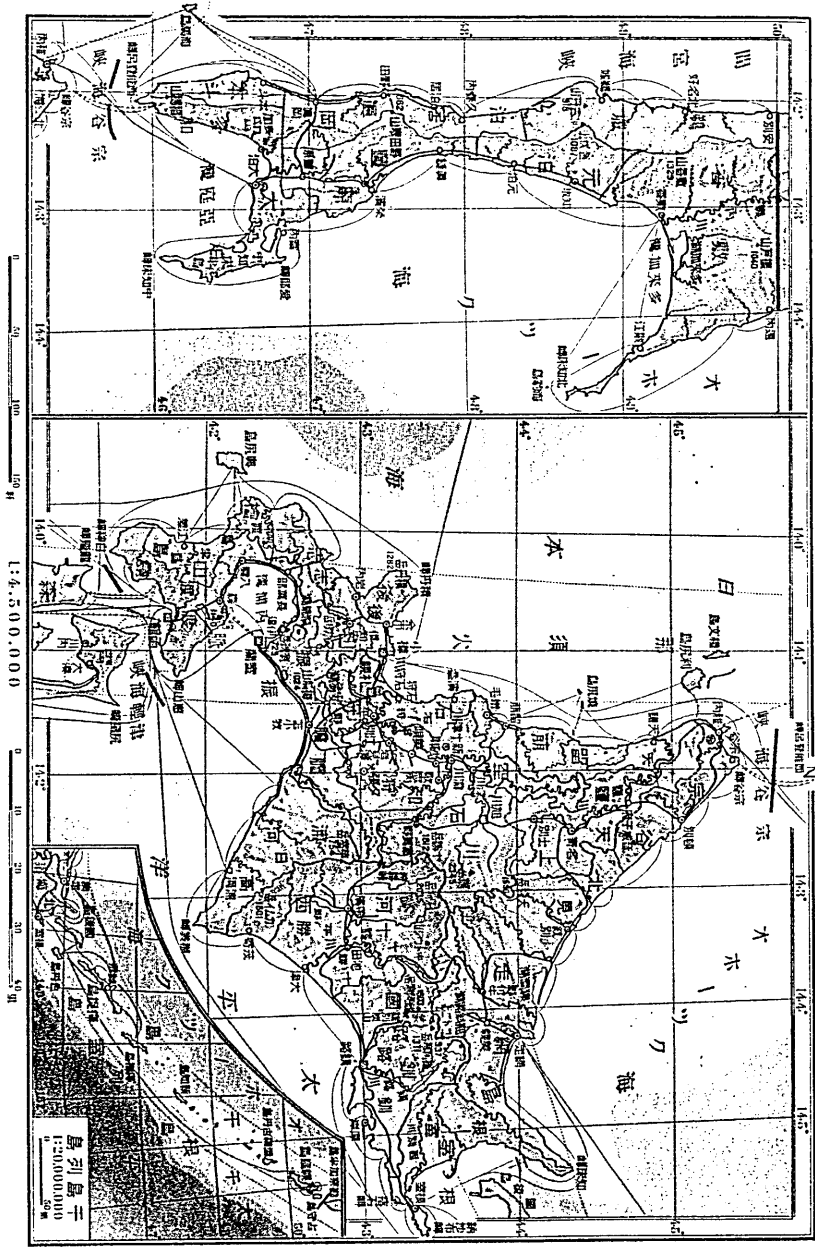
産業 本地方は、農・林・水産を主産業としてゐる。農業は、人口が増加し、交通が便利になり、開墾が進行するに従つて發達し、耕地産額が増加して、從來



本島第一の産業といはれた水産業を凌ぐまでになつた。主な作物は、米・燕麥・裸麥・馬鈴薯・大豆・小豆・主蜀黍・甘藍・主葱・亞麻・薄荷・甜菜・菜果等で、特に石狩平野・上川盆地・十勝平野に産し、札幌・旭川は、その大

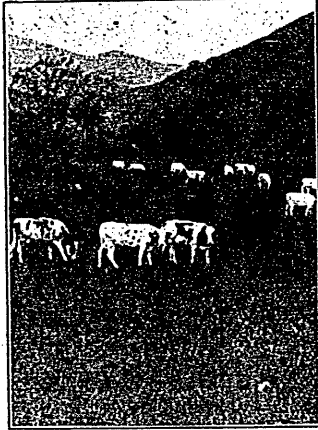
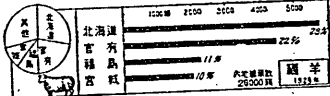
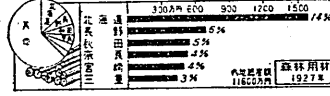
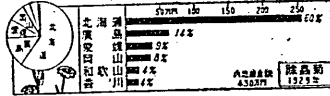
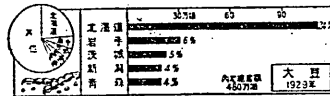
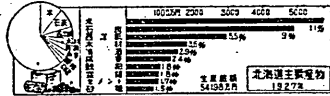






圖解
牛
北海道の牧

内浦灣西岸の長萬部も名高い牧場である



集散地である。亞麻は上川盆地、苹果は渡島半島、薄荷は網走附近に多い。

石狩平野・十勝平野及び日高の海岸平地は、牧畜に適し、殊に牧馬が盛んで、豊平・新冠・白糠・浦河・音更・川上等の牧場がある。山地は、森林が廣く亘りて、檜・刺楸・樺などの溫帶林、蝦夷松・榎松などの寒帶林が繁茂してゐる。蝦夷松・榎松は、主に製紙原料であるバルブに用ゐる。

近來人工造林が石狩平野・上川盆地・富良野盆地等に盛んに行はれる

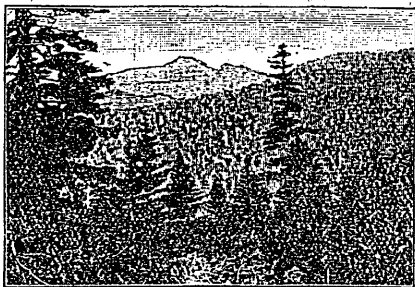
圖解 北見の自然林

× 釧路・後志石狩川・西別川の鮭は美味を以て知られる

られ、樫は、鐵道枕木として多く輸出される。刺楸は器具材として廣く使用され、櫨の皮よりは、鞣皮用のタンニン劑を採取してゐる。

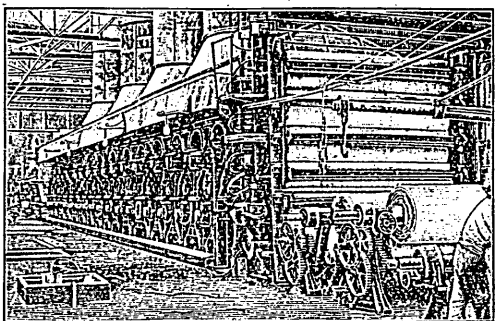
鑛産は、石炭を主とし、硫黄、金、鐵が之につぐ。

石炭は、夕張山脈の西側なる石狩炭田が主産地で、この炭田には、夕張三井、美唄新夕張三井、砂川空知など、十箇の炭坑があつて、その總産額は、筑豊炭田に次ぎ、將來益有望といはれてゐる。硫黄は、幌別岩雄登、金は、鴻ノ舞、國富等に産する。近海は、世界で有名な漁場で、その區域が頗る廣く、到處漁港があつて、漁民が多く出漁する。鯨漁を主とし、昆布、鮭、鱈、鰯、鰺、鰯等の漁獲高が極めて多い。これ等の漁獲物の大部は、

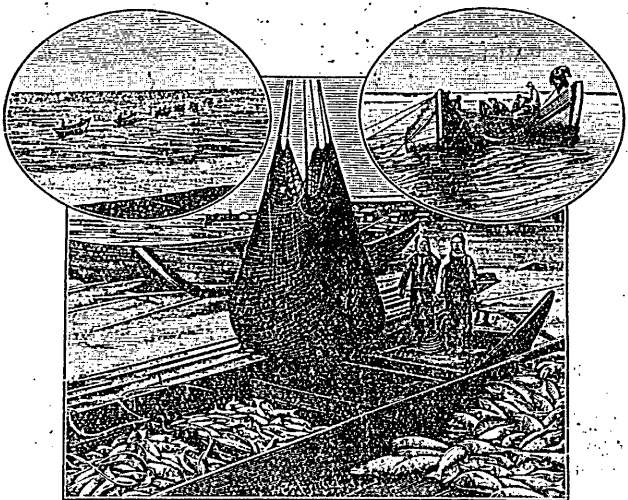


漁港附近で、直に乾物、鹽漬、罐詰等に製造され、函館小樽の二港より、

圖解 (上) 苫小牧製紙工場新聞用紙巻取(下) 鮭を通船より甲板へ曳き揚げる處(右) 網起し(左) 出漁



發達に従つて益、大量製造が行はれて、近時、噸に工産額が増加し、苫小牧江別の製紙、札幌の麥酒醸造、



亞麻・製乳・罐詰、旭川の清酒醸造、室蘭の製鋼製鐵、八雲等の澱粉製造、帶廣の甜菜糖製造を主なものとし、その總産額は、農産總額を凌駕するまでになつた。

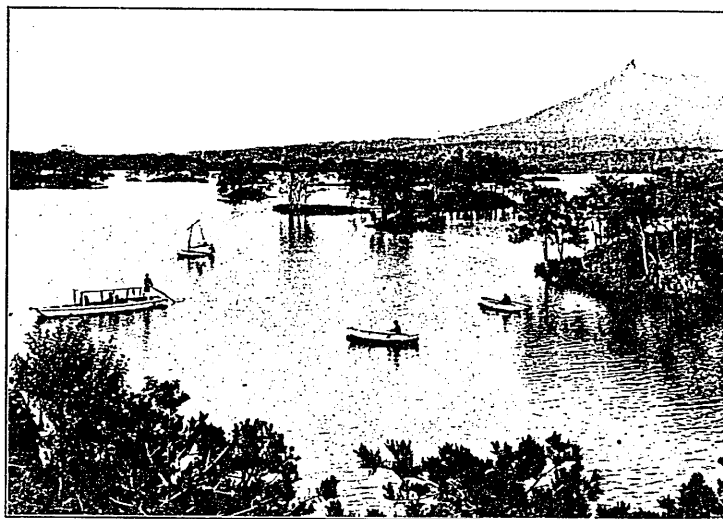
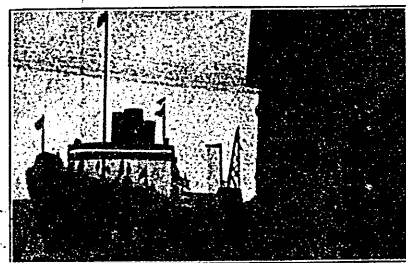
内地商業は、東京と大阪との取引が多く、小樽・函館が最も盛んである。外國貿易は、小樽・函館を主とし、室蘭・釧路・根室がこれに次ぐ。

道路は開拓の初よりよく開けて、主要都會を連絡し、今も驛馬の制が行はれてゐる。

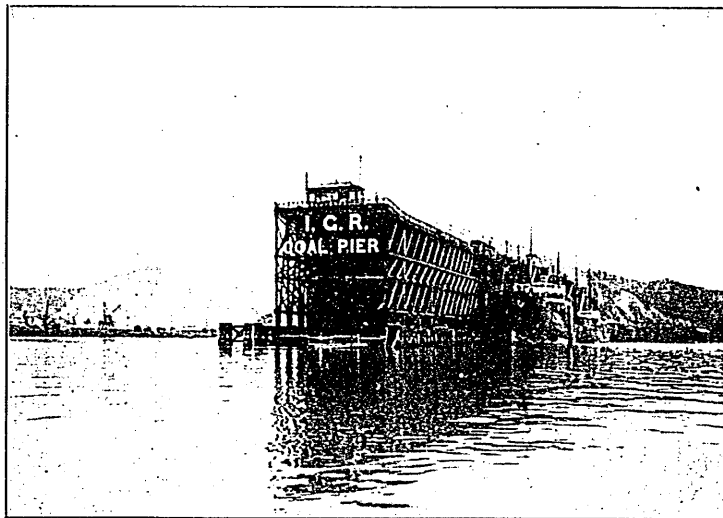
函館 函館港内の青函連絡船、船風丸

青函連絡船は四時間半、稚大連絡船は八時間を要する

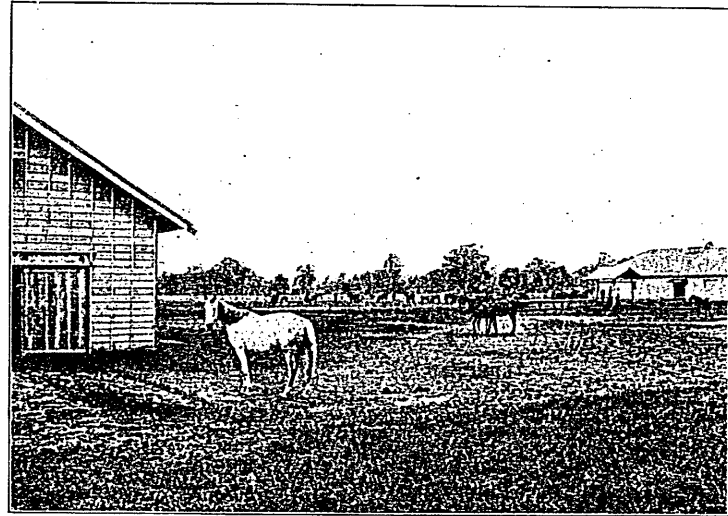
交通 本島は、開拓が進歩し、産業が発達するに従つて、鐵道が延長してきた。鐵道の幹線は、三條あつて、その函館線は、函館に起り、小樽・札幌を経て旭川に至る。宗谷線は、こゝより天鹽川の谷を通つて、稚内港に至る。又根室線は、瀧川に起り、帶廣・釧路を経て根室に至る。この三線は、何れも我が國に於ける幹線鐵道の一部で、鐵道連絡船によつて、南は函館・青森間を、北は稚内港・



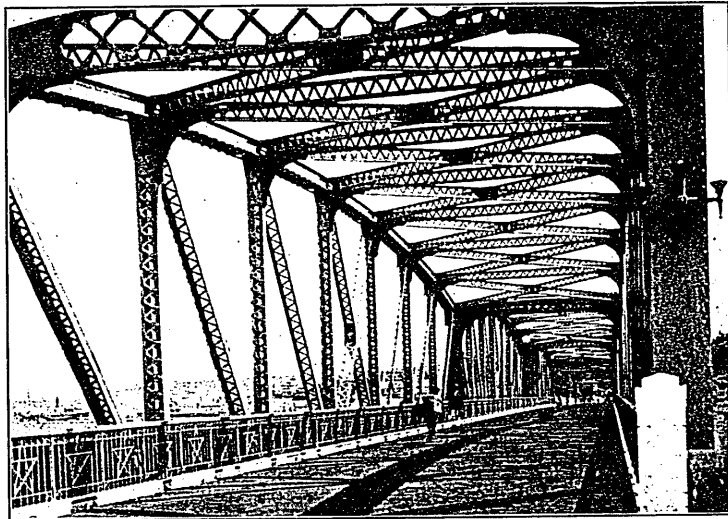
沼大でめ止き堰を水河は發場大の時舊がぬえ絶が壱も今は岳ヶ駒 沼大と岳ヶ駒
るあでく如の繪光風でん浮が々鳥の數無小大はに上湖 たじ生を沼湖の沼小



と鋼製・鐵製は出積の炭産の其でのるゐてえ控を田炭狩石 頭埠出積炭石の港蘭室
るあで場出積炭石式架高の用専省道鐵は圖 るあでのるけつ色特も最を兩室に共



新冠の牧場 日高國に在る管内轄の牧場であら 東二五十二軒北南三十二軒の
廣い積を占め駿馬九百餘頭を有し我が國第一の大牧場と稱せらる



大泊の港 築港昭和二年完成した大堤(延約一軒)の一部であら 左側に鐵道の
が通る之によつて冬季の上米の役荷便も除かれ海陸連絡の便が一新した

函館にも放送局が
設けられた

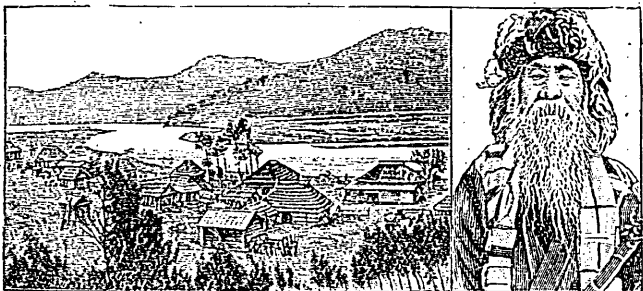
大泊間を連絡してゐる。幹線の外長萬部に起り、内浦灣岸を廻る室蘭線は、室蘭に達する。網走線は、池田に起り、オホーツク海岸の斜里に至り、其の支線の湧別線は、名寄線と接續してゐる。宗谷線は、音威子府に起り、オホーツク海岸に沿うて稚内に至る。尙、石狩炭田地方にも、海岸地方にも、各數條の鐵道が通つてゐる。海運は、函館・小樽・室蘭の三港を中心として發達し、函館・小樽の兩港は、樺太の諸港、シベリア東岸のニコライエフスクとも、航路が相通じてゐて、四季とも、船舶の出入が多い。海底電線は、本州との間に八條、樺太との間に三條通じ、函館・石狩・稚内・落石・宗谷・幌筈に無線電信局、札幌にラヂオ放送局が置かれてゐる。

住民 政府は、開拓の根本策として、内地人の移住を奨励し、今や人口は、二百八十萬を超えるに至つた。但し、在來のアイヌ(舊土)は、一萬に滿たない。

× 楡に似た木の樹皮で縫つたもの

圖解 (上) アイヌ人と其の住家 (下) 函館港

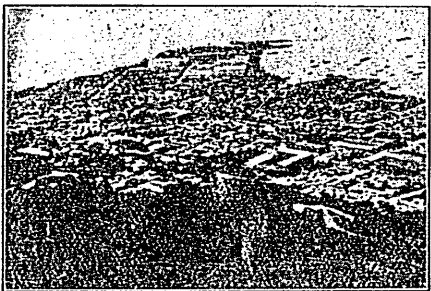
△ 要塞地帯に屬し附近に湯川温泉がある



アイヌ族は、今は日高國沙流川の附近に多く住む骨骸は逞しいが、性質は温和である。男子は、多くの頭髮鬚髯を蓄へ、有夫の女子は、口邊に黥する。衣服は、アツシで作られ、筒袖で裾が短く、概ね脚絆を穿ち、熊を射、鮭鰯などの魚類を捕へ、粟稗などの穀物を作つて、わびしき小屋に、其の月日を送つてゐる。併し近年は、生活が内地化して來た。

第三節 處誌

開港の函館市は、函館灣の沿岸にあつて、水産物の輸出が多く、罐詰用空



西岸に福山・江差・岩内・壽都等の漁港がある

× 大沼でも作る

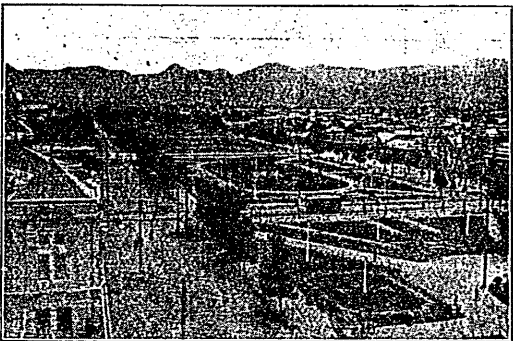
圖解 (上) 小樽港の全景 (下) 札幌公園と市街



罐電球の工場がある。明治維新史に名高い五稜廓の外濠では、函館氷が作られる。

開港小樽市は、石狩十勝二平野の門戸で、木材・石炭・豆類及び海産物などの積出が多く、本道第一の商業地である。

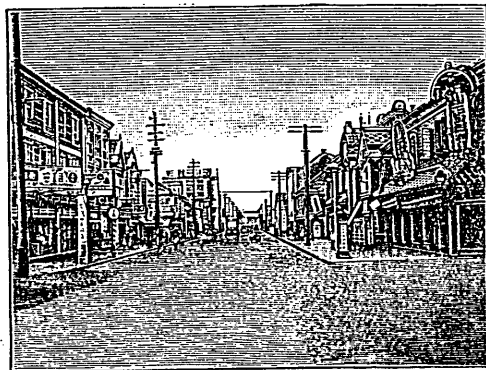
札幌市は、石狩平野の西部に位し、連峯を背景として築かれた新しい市街地である。街路が正しく、北海道廳控訴院・北海道大學、札幌神社があり、また大工業地である。



その東方の江別は、製紙が盛んである。石狩平野の東方山地には、夕張幌内、幾春別等の炭坑が多く、苦小牧は、洋紙の製造を以て世に名高い。

登別は温泉地

圖解 (下) 室蘭港
(上) 旭川市街
× 北海道炭礦汽船
會社とアイムスト
ロング會社との共
同事業



内浦灣岸の開港
室蘭市は、多く石
炭・洋紙を輸出し、
日本製鋼所の工
場がある。
旭川市(三鐵道
の交點)は、
上川平野(本道屈指
の中心で、農畜林
産の取引が多く、釀造が盛んで、第七師團
司令部がある。宗谷海峡附近の稚内は、



宗谷・天鹽二線の會點で、樺太の大泊に連絡船を通じ、交通幹線の重
要中繼地である。根室線上の帶廣は、帶廣平野の中心市場で、多く
大豆・甜菜等、農林産を集散し、甜菜糖を製造する。釧路市(四)は、釧路
河口に跨り、海林産物、殊に枕木の取引が盛んで、附近に炭山がある。
厚岸は、東海岸の安全避難港で、牡蠣・昆布を名産とする。根室(四)は、
根室線の終點に位し、千島・オホーツク海方面に出漁する者の根據
地、海産物の輸出港である。落石岬には、無線電信局があつて、北太平
洋航路の汽船と通信する。

千島の陸産は、硫黄の外は、極めて少い。鮭・鱒などの水産物が多い故、
夏季は、漁業者が集まる。擇捉島に、名邑の紗那がある。

第十章 樺太地方

第一節 地文誌

地域 北海道本島の北にあつて、南北に細長く、北緯五十度線で、ソヴエト共和國聯邦と境し、西は、間宮海峽を隔て、西比利亞に對してゐる。

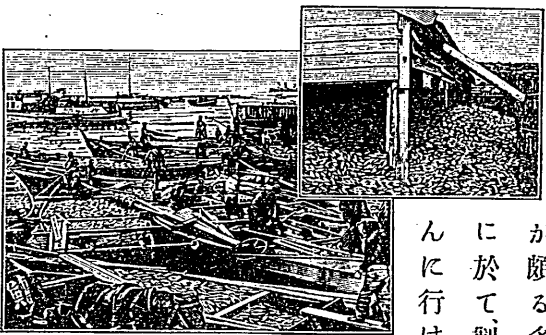
地勢 丘陵性の東樺太・西樺太の二山脈が縦走し、その間の北部に、幌内平野（ツインドラ）があつて、ソヴエト領より來る幌内川が流れ、馴鹿の牧場となつてゐる。南部の鈴谷・内淵・二河谷の鈴谷平野は、幌内平野よりも狭小なれど、本地方主要の農耕地である。海岸は、屈曲が少く、中知床・西能登呂・二岬間に亞庭灣、北知床岬の西に多來加灣がある。

氣候 冬季は、寒氣が強く、北部は、寒帶性であつて、港灣は、概ね氷結し、海底電信によつて内地と音信する。但し雨雪の量は、割合に少い。

第二節 人文誌

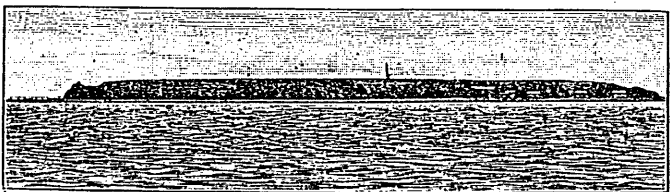
多來加灣の海豹島に鷹胸獸、間宮海峽の海馬島に海獺が棲する。
・豊原・大泊・野田・落合・泊居・東知取・眞岡・恵須取にバルフ工場がある

圖解（上）鯨の漁獲（下）鷹胸獸の產地海豹島



産業 氣候の關係上、農産は少ないが、林産は有望で、蝦夷松・榎松・落葉松の密林が、島内の各所に亘り、木材が、頗る多量に伐出される。従つて各地に於て、製材とパルプ・洋紙製造とが盛んに行はれる。鯨・鮭・鯡・昆布・海獸（鷹胸獸等）等の水産は、無盡藏といはれ、漁期には、内地より出漁する者が頗る多い。鑛産は、石炭（川上・野田・赤・泊居・東・白・浦）を主とし、石油も有望である。

交通 道路・鐵道は、漸次發達し、土人は、犬橇・馴鹿橇を使用する。鐵道は、鈴谷平野及び

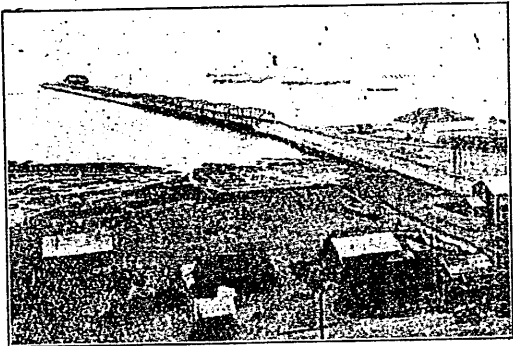


圖解 大泊港

東西兩海岸の一部に敷設されてゐる。海運は内地との航路は開けたが、近海は冬季に氷結し、春季に流水の漂ふ缺點があつて、この兩季間は船の往來が少い。

沿革 樺太はもと日露兩國の共屬地であつたが、我が國は明治八年に千島全部を領有して、本島全部の露領たることを承認した。然るに日露戦争の結果(明治三十三年)再び本島の南部を領有することゝなつた。

また大正十四年一月、日露條約の結果、北樺太に於て、我が國は、石炭石油の探掘權を得、並に是等企業に要する木材採伐と、交通運輸を容易ならしめることの爲に、諸般の設備をなし得ることになつて、既にヅエ炭田・オハ油田の探掘事業を開始



△大泊・本斗・真岡
泊居・敷香・元泊・豊原

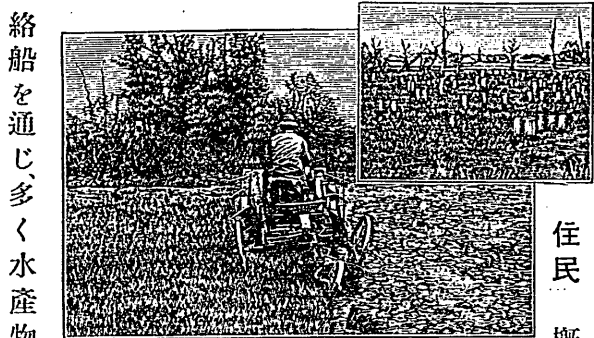
アイヌ 一五三人
キーリン 五八人
オロツコ 二八人
ニクブン 二五人
計 一九九人

圖解 (上) 樺太の
開墾 (下) 大泊

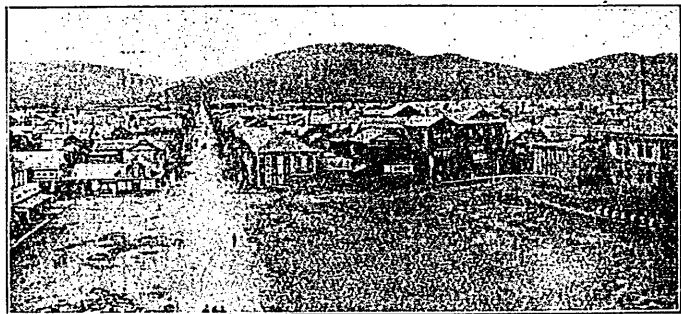
してゐる。行政上七支廳に分れ、樺太廳が之を統轄してゐる。

住民 概ね内地人で、農耕に従事し、少數の土人が住んでゐる。夏は内地よりの出漁者が多いが、冬は激減する。

第三節 處 誌



亞庭灣頭の開港大泊は、内地より本島に入るの要地で、稚内に連絡船を通じ、多く水産物を取引する。豊原は、



鈴谷河谷の新市街で、樺太廳・樺太神社がある。
大泊に起る鐵道は、こゝを過ぎて、多來加灣岸の知取(地製紙)を経て北なる新聞に達する。不凍港の眞岡(港)は、漁業の一中心で、本斗泊居(トトリイ)・久春内(クシナイ)・鵜城は、何れも西岸の要地である。

第十一章 朝鮮地方

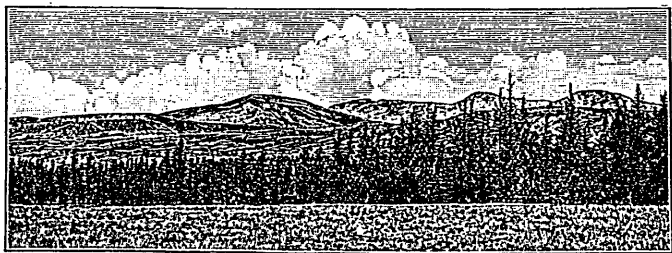
第一節 地文誌

地域 亞細亞大陸東部の兎形(ウサギガタ)の一大半島で、東より南東にかけては、本州・九州に向ひ、北は豆滿江・白頭山・鴨綠江によつて、西比利亞・滿洲と境し、面積は、本州のそれに近い。

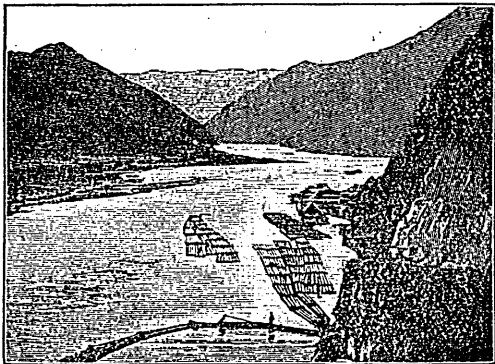
地勢 南部は、金剛山の峙てる大白山脈が、東海岸を走り、日本海に向つて急斜(急シヤ)する故、著しい河流は、概ね山脈の西側にある。漢江・錦

圖解 (上)白頭山の遠望(下)鴨綠江の中流

×最大の濟州島は航海者の目標となり漢羅山が屹立し近海は漁利に富む



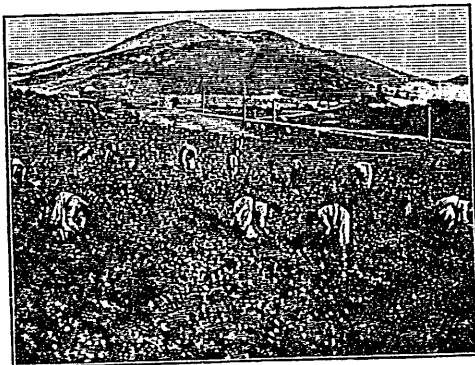
江・榮山江は西流し、洛東江は南流する。北部は、北東より南西に向つて數條の山脈が走り、土地が概ね高峻で、國境に噴出した白頭山(海抜一五米)は、本地方の最高峰である。之に發する鴨綠・豆滿二江の上流地方には、大森林がある。日本海岸は、出入(永興灣)が少いが、朝鮮海峡・黃海の方面は、屈曲・島嶼に富む。又黃海岸は、潮汐干満の差が著しくて、十米の多きに及



氣候が激變し易く
て「三寒四溫」の俚
諺さある

圖解 (上) 綿の積
取 (下) 人蔘の採
別

ぶ處もある。
氣候 南部は溫和なれども、一般に寒暑が
甚しく、北部の河川は、何れも冬季に氷結す
る、一般に雨量が少い。

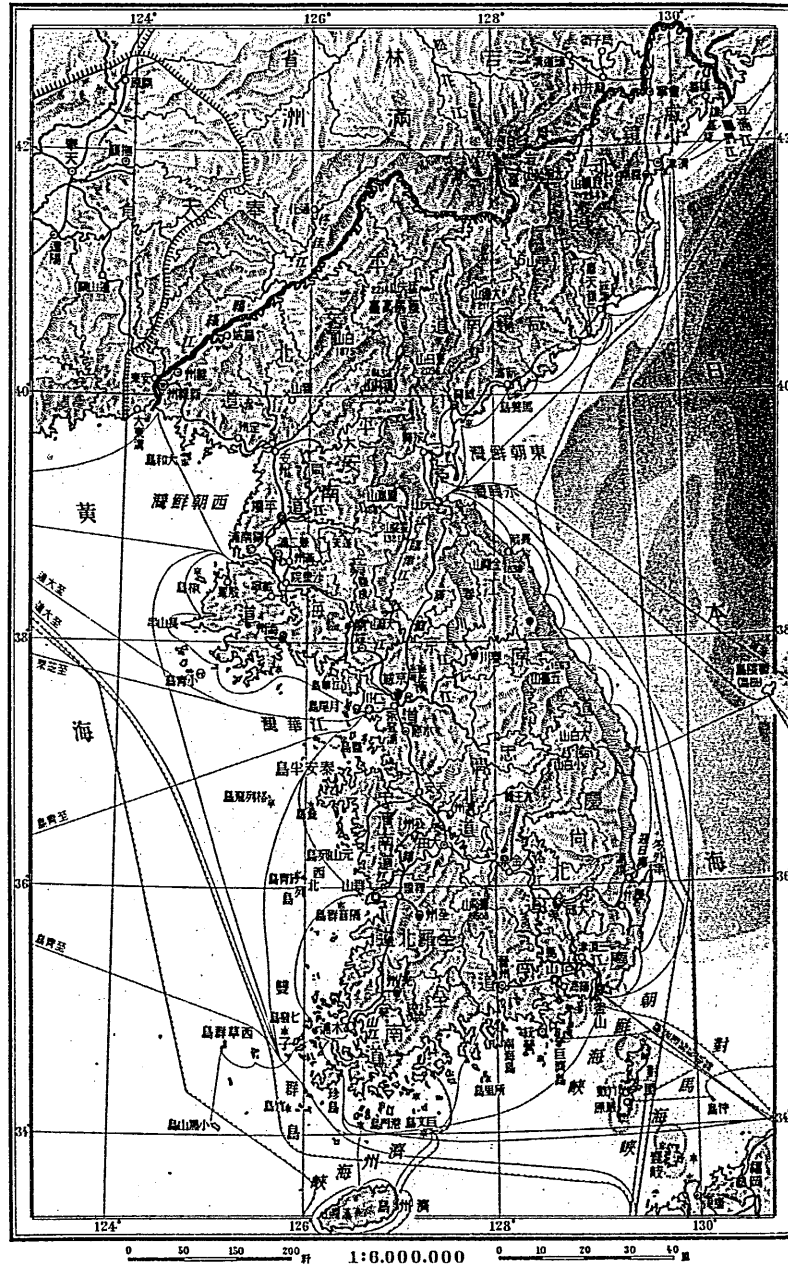


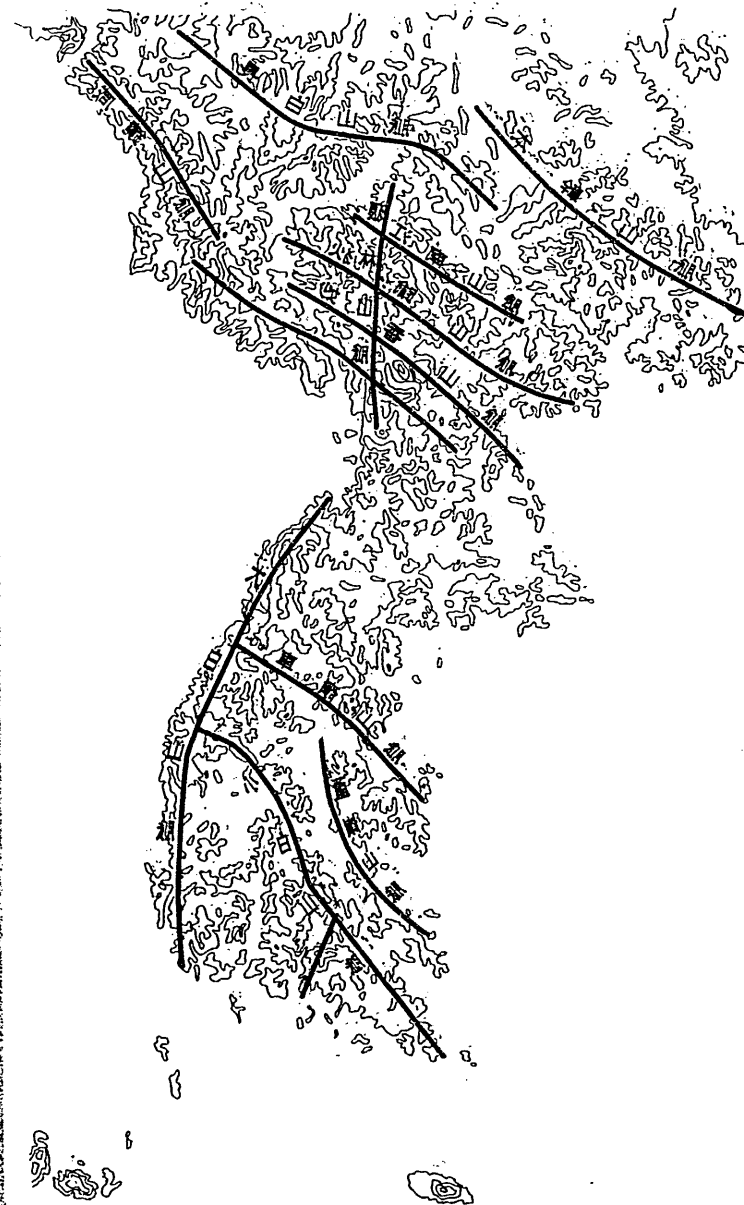
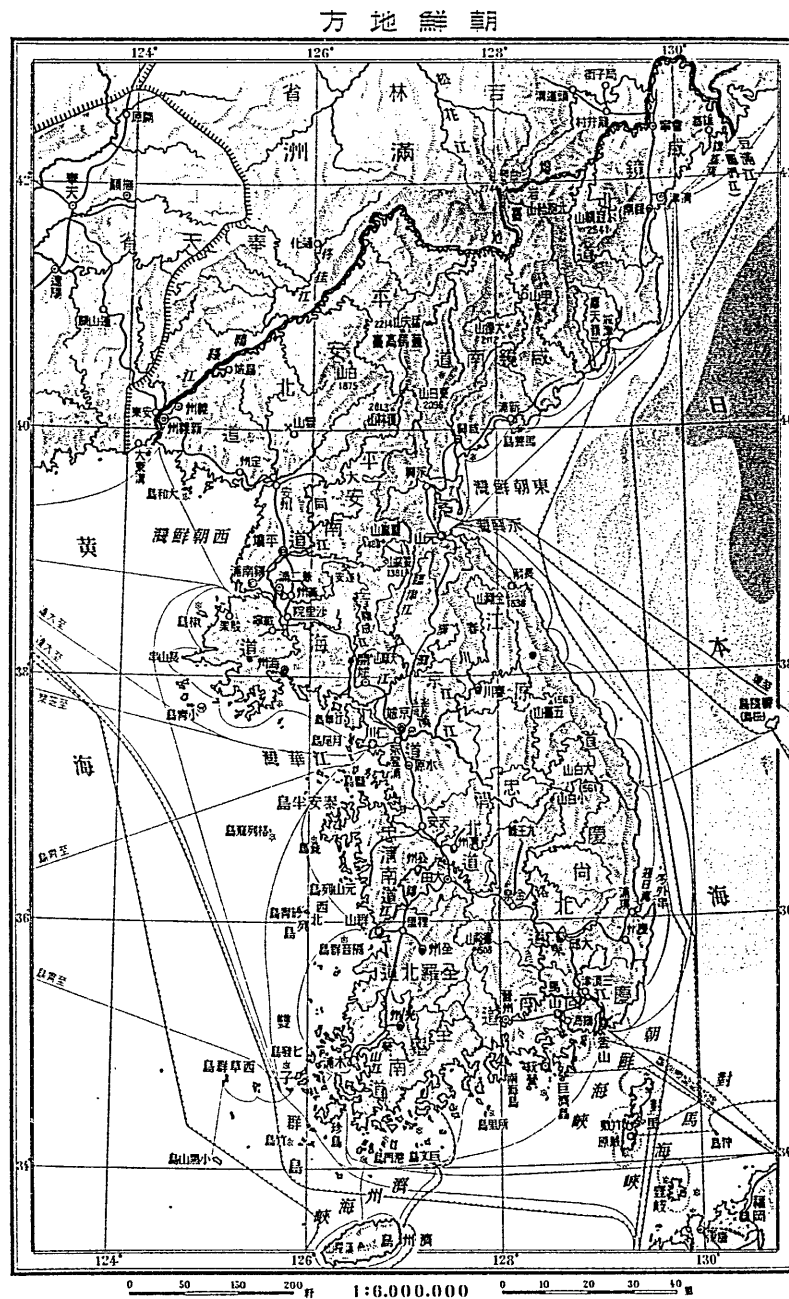
第二節 人文誌

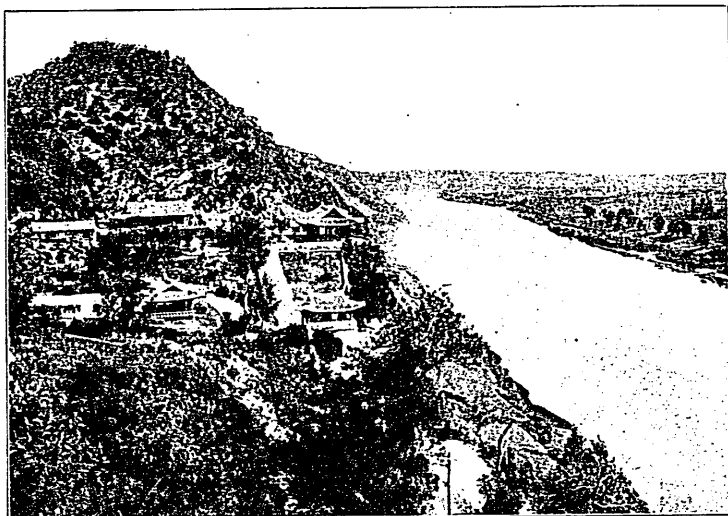
産業 農業は、古
來、朝鮮第一の産
業となつてゐて、住民の約八割は、農業者
である。總督府の水源涵養法灌漑工事
の進捗と、移住内地人の耕地開拓經營法
改良と相俟つて、農作物の産額が、大いに
増加してきた。その主産物は、米(南部)・大豆



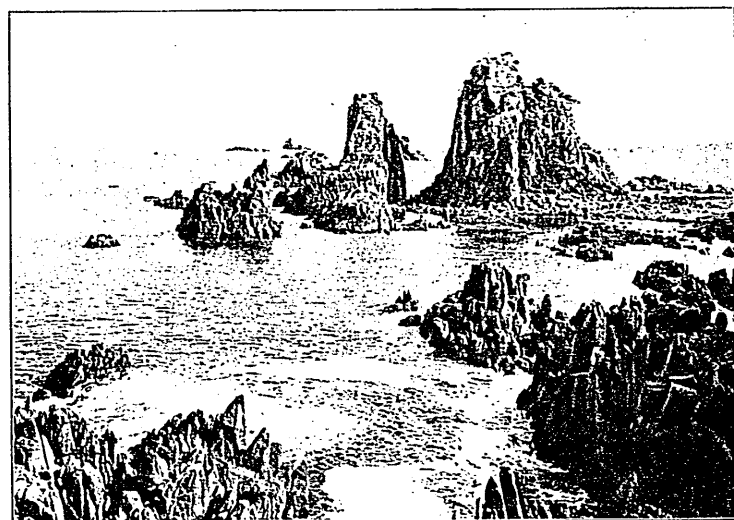
方地鮮朝



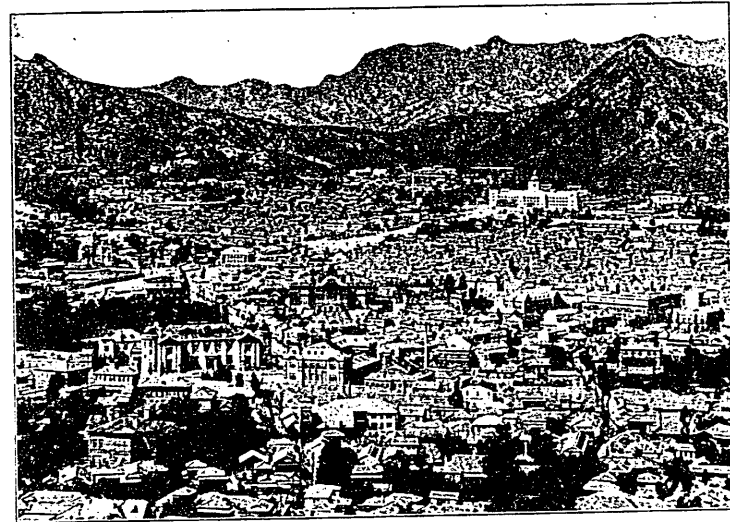




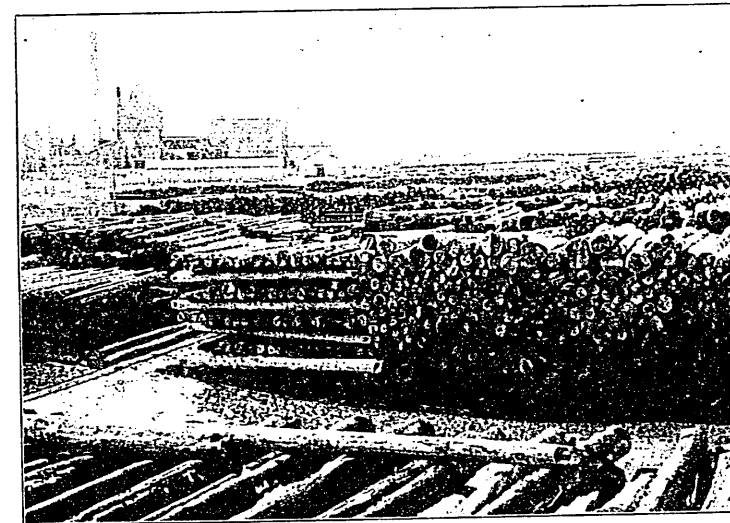
に流清の江同大 るあが名の此でのる似に丹壮が峯山りあに端北の府県平 墨丹壮
るゐてれら知く著てしと地戦苦の軍が我て於に役清日又つ且て佳絶窟開望眺でん臨



海が石怪岩奇果結の用作蝕海たれは行てふ沿に(目れ割)理節狀柱の岩崗花 剛金海
るあが味壯豪な殊特中勝奇の剛金爲るゐてしと景背を海本日 るゐてし列羅に岸



るた々堂の麓岳白で岳白は峰尖の前のそ部一の山溪北はる標に紫く遠 觀大の城京
るみてえ見に方左に僅が宮薛徳の部一の城皇舊 るあで府行總は築建堡白



共と設架の橋鐵江綠鴨がたつかなぎ過に洲砂一ともは地の州義新 所材製の州義新
るあで場工鮮朝社會紙製子王は眞寫 たし興勃も業工大の紙製・材製し興新に

圖解 明太魚

(中部・栗(部北)・麥(部南)・綿煙草(部以上部中)・人參(附近城)等で、果實甜菜の栽培も、稍盛んである。半島は、到る處原野を利用して、牛の牧畜が行はれ、その頭數は、内地の頭數を超え、牛皮の産額が頗る多い。北部の高原地方殊に鴨綠江・豆滿江の各流域には、大森林があつて、落葉松・朝鮮松・唐檜等の良材が伐出され、本地方の各地に送られる。

その他の地方は、林政が不備のため、薪炭の山地が多かつたが、總督府設置以來、力を營林に用ひたので、林相が次第に改まつてきた。鑛産は、朝鮮地方の一大富源で、雲山・昌城・三成・稷山・金鑛・載寧・殷栗・安岳・价川・利原等の鐵鑛・平壤附近の石炭などを主とする。水産業は、著しく發達し、日本海方面では、明



太魚・鮭・鯉・鯨・朝鮮海峽方面では、鯛・鯉・鯉を、黄海方面では、石首魚を多く漁獲し、また廣梁灣及び朱安附近にては、天日製鹽を行つてゐる。

工業は、醸造業器具及び金屬品細工は、近年著しく發達し、内地人經營のセメント製造、製鐵、製革、製材、パルプ製造、製藥は、大規模に行はれてゐる。京城・大邱・平壤の開市は、日用品を供給し、十一箇の開港場は、主に内地諸港との取引を行ひ、その額は、年々増加してゐる。重要移輸出品は、米・麥・大豆・礦物水産物で、主要移輸入品は、砂糖・金巾・綿布・麻布・絹布等である。

交通 鐵道は、概ね廣軌で、幹線が南北に通じてゐる。即ち京釜線は、釜山を起點として北に向ひ、大邱を経て京城に至る。京義線は、平壤を過ぎて新義州に至る。この幹線は、釜山では鐵道連絡船によつて、山陽線と連絡を取り、新義州では、鴨綠江の鐵橋によつて、南

×釜山・木浦・群
山・仁川・鎮南浦・
龍巖浦・新義州・元
山・咸津・清津・雄
基

圖解 朝鮮の兒童



住民 朝鮮人は、容貌が内地人に似、殆ど住民の全部を占めて居る。

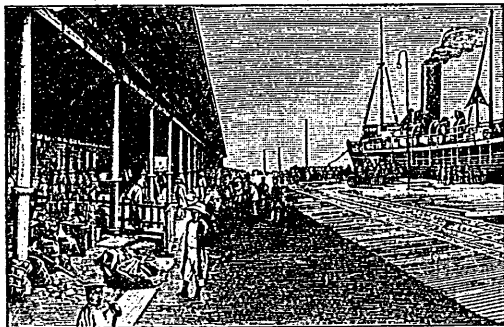
滿洲鐵道の安奉線に接續してゐる。幹線の外に、馬山線・東海中線・湖南線・京仁線・京元線・咸鏡線等がある。咸鏡線は、將來滿洲の鐵道に接續する豫定である。

東海岸は、春夏には濃霧が起り、又冬季には風波が荒い爲海上の交通が稍困難であるが、主要諸港は、四時とも、船舶の出入が容易で、沿岸航路の外、大阪・ウラヂャストク・大連等の諸港にも航路を通じ、釜山・仁川等には外國航路の汽船も多く出入する。

海底電線は、釜山より下關に、元山より島根半島に通じ、無線電信局は、港門島・木浦・京城・小青島・仁川に、ラヂオ放送局は京城にある。

道と道廳所在地
慶尙南道 釜山
慶尙北道 大邱
全羅南道 光州
全羅北道 全州
忠清南道 公州
忠清北道 清州
京畿道 海州
黃海道 平壤
平安南道 新義州
平安北道 春川
江原道 咸興
咸鏡南道 羅南
咸鏡北道 羅南
圖解 (上)釜山港
(下)大邱の市場

△附近に東萊温泉がある



第三節 處誌

内地人は、今や五十萬(除いて)に達した。内地的教育は、日に月に普及してゐる。政治 朝鮮總督が駐在し、その下の十三道に長官が置かれ、又其の下の十四府(京城、仁川、大邱、馬山、開城、平壤、鎮南浦、新義州、元山、咸興、清津)に府尹、數多の郡に郡守がある。郡の下の邑、面に夫、長がある。邑面は、ほゞ内地の町村に當る。

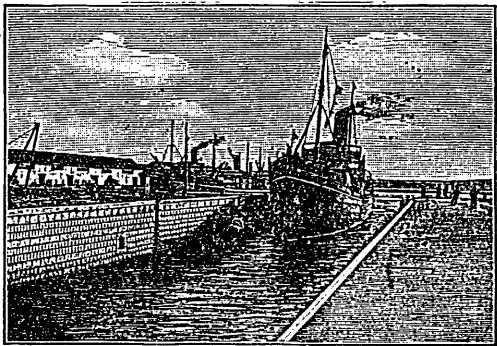


釜山は、内地との交通商業の要門である。要塞地の鎮海灣岸に、漁港の馬山と、海軍要港部所

○内地の控訴院に相當する

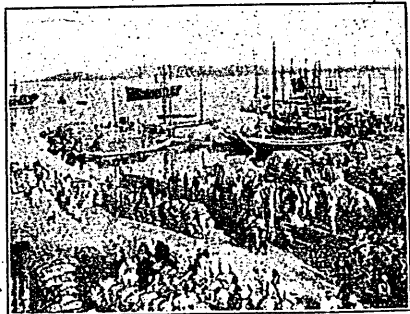
圖解 (上)仁川港の閘門(下)群山の米の積出

×漁業の根據地
光州・全州は湖南米産地の中心水原は模範農場の所在地



在の鎮海とがある。鐵道東海中部線に沿ふてゐる慶州は、古の新羅の舊都で、今も佛國寺などの史蹟が多い。此の鐵道上の蔚山は、捕鯨の根據地である。

洛東江平野の大邱(慶東線の起點)は、覆審法院のある處で、定期市が盛んである。大田(二鐵道會點)は、米産地方の新市街である。榮山江河口の木浦は水産物綿米を、錦江河口の群山は、米を積出して賑はしい。黄海岸の仁川(閘門式)は、京城の咽喉に當り、

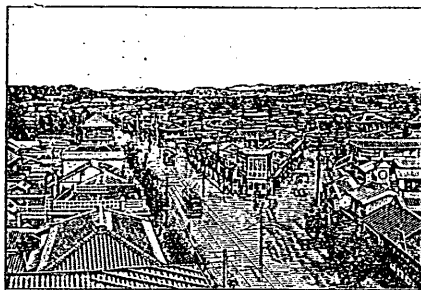


△湖沙の干満が大であるからこの特別設備がある

△内地の大寺院に相當する
×帝大・法專・醫專
高商・高工

○鐵・石炭・亜鉛を積出す
國幣 平壤市街の一部

■築港變成北鮮第一の貿易港



京畿黃海忠清各道の貨物を吞吐し、内地滿洲の諸港に定期航路を有する。半島の中央なる京城は、漢江に臨み、本地方の最大都朝鮮に於ける政治經濟交通及び教育の中心である。李王宮朝鮮總督府第二十師團司令部、高等法院、覆審法院、高等諸學校等がある。開城（一名）は、高麗の舊都、人參、高麗燒を名産とする。

平壤は、大同江の中流に位し、覆審法院の所在地で、文祿日清の兩役に名高い。その江口に、鎮南浦、鐵工業の盛んな兼二浦及び廣梁灣、鹽田等がある。

新義州（京義線終點）は、鴨綠江の上流なる木材を集散し、安東縣（滿洲）との間に、回轉開閉式の大鐵橋（延長三〇九八呎）がある。元山城、津雄基は東岸の要港、永興灣は要塞地帯、羅南は第十九師團司令

部の所在地で、咸興附近には、近時、新に工業が起り、又農産が多く、李朝太祖の舊址もある。鏡城、會寧は、間島（滿洲）及びソヴェト國領のシベリアに對する要地である。

第十二章 關東州

第一節 地文誌

地域 關東州は、日本の租借地で、滿洲の南西部にある遼東半島の南西端を占め、西は渤海灣に、東は黃海に面し、南は直隸（チベット）海峽を隔て、支那の山東半島と相對してゐる。

地勢 一般に、丘陵の多い小地域で、平地



面積六六方里（二ヘ方里）
國幣 旅順附近の丘陵（前面は東鎮冠山地帯）

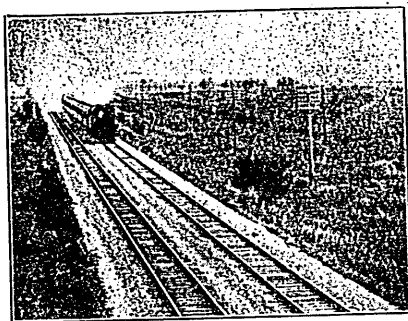
に乏しく、著しい河川がない。併し海岸線は、よく屈曲してゐて、東に大連灣があり、西に金州灣があつて、金州地峽を挟み南端に、旅順の良港がある。南東海上には、長山列島海洋島があり、また金州灣外には、鳳鳴島などがある。

氣候 寒暑の差が大きく、冬は、沿岸の氷結する處もある。夏の外は、一般に雨が少い。

第三節 人文誌

産業 地味が瘦せ、生産力が貧弱であるが、貔子窩、雙島灣等の製鹽業は、割合に盛んである。近年大連に搾油製粉製麻等の工業が大規模に行はれるようになった。

交通 南滿洲鐵道は大連を起點として北に

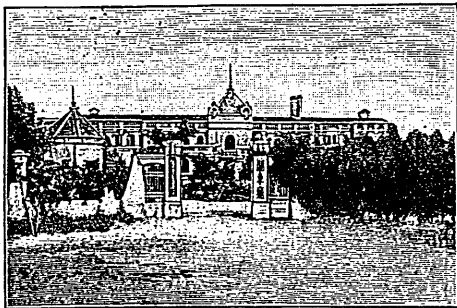


圖解 滿洲鐵道を走る我が南滿洲鐵道

南滿洲鐵道は滿洲に於ける鐵道・鐵山その他各種事業を經營してゐる

圖解 關東廳

租借期間は明治三十年以降九十九年間である



向ひ、新京にて東支鐵道に、奉天營口にて山奉線の本支線に連絡し、以て、アジアに於ける鐵道幹線の一部となつてゐる。

海運は、大連より内地諸港、北支那諸港及び上海等との間に、航路を相通じ、又外國航路の汽船も、多くこゝに出入する。海底電線は、長崎及び支那山東省の芝罘に通じ、また無線電信局は大連旅順に、ラヂオ放送局は、大連に置かれてゐる。

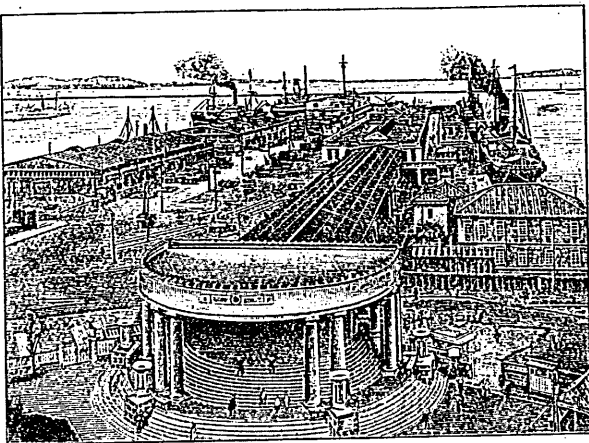
住民 總數約百萬で、その多くは支那人である。日本人の移住してゐるものは、約十一萬に過ぎない。

政治 日露戰後、我が國は、露國に代つて租借を繼承し、旅順に、關東廳を置いて管轄せしめ、別に關東軍司令官を置いて、關東州の防備

を掌らしめてゐる。

第三節 處 誌

圖解 大連埠頭



に大豆、豆粕、豆油、高粱を移輸出し、内地より、綿織物、綿絲、砂糖を移入する。かくて其の市況は益々盛んである。

第十三章 南洋諸島

第一節 地文誌

面積三萬四千六百方里

ヤルイト島は我が海軍の最初に占領した環礁島である

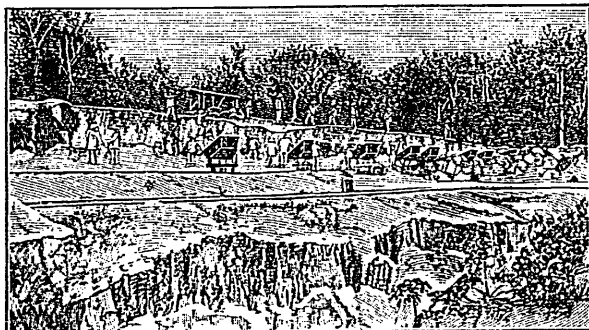
地域 小笠原諸島の南方、東西四千五百里、南北二千四百里の間に散布する數多の小島より成り、ミクロネシアの大部を占めて、自ら四部に分れる。中央に、カロリン諸島があつて、北部にマリアナ列島(そのグアム島は米國領)、東部にマルシャル諸島、西部にパラウ諸島がある。島々は、何れも彈丸黒子ともいふべき小島であるが、我が内地人の太平洋に於ける發展の仲繼所として、重大なる地理的價値を有つてゐる。

地勢 マリアナ列島には、火山島が多い。併し南部には珊瑚島もある。マルシャル諸島は、二列の珊瑚島より成り、カロリン諸島には、

トルック島は珊瑚礁で囲まれた珊瑚湖の中に火山群島があつて良箇地をなしてゐる

附解 (上) アンガウル島の嶺南採取(下) トルック島の景観

火山島が多い。



貝殻等が有名である。

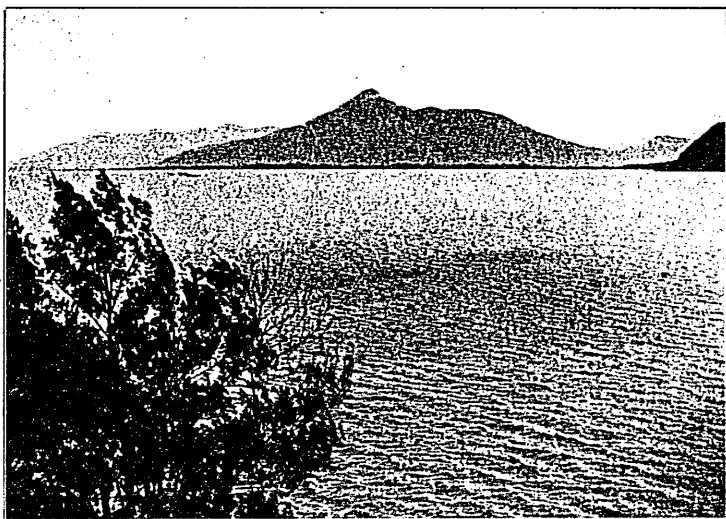
氣候 全部熱帯に屬して、氣溫が高く、その高低の差は極めて少い。常に海風の影響を受けて、氣候は熱帶海洋性の特色を示してゐる。

第二節 人文誌

産業 面積が狭く、地味が不良で、農産は少い。生産物としては、アンガウル島の燐礦を主とし、サイパン島の砂糖、各島のコブラ。



は圖 るゐてれら知を名に的界世と殆でとこな麗秀の容山 士富るた見りよ機行飛
い難へ例もに物何に實はき高崇の其で姿るゆ聲に表雲てい載を雪白に空の曉

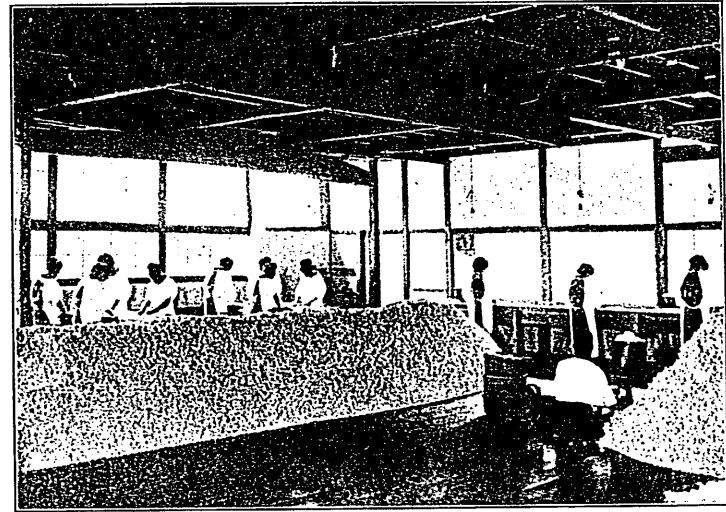


るれらせ用利に上業注等力水・漑灌へ堪に地低の地盆津會は湖 山梯雪と湖代苗猪
るあで一の水湖的表代の國が我く良亦も光風てし映を影の々山の等梯磐又く多とこ

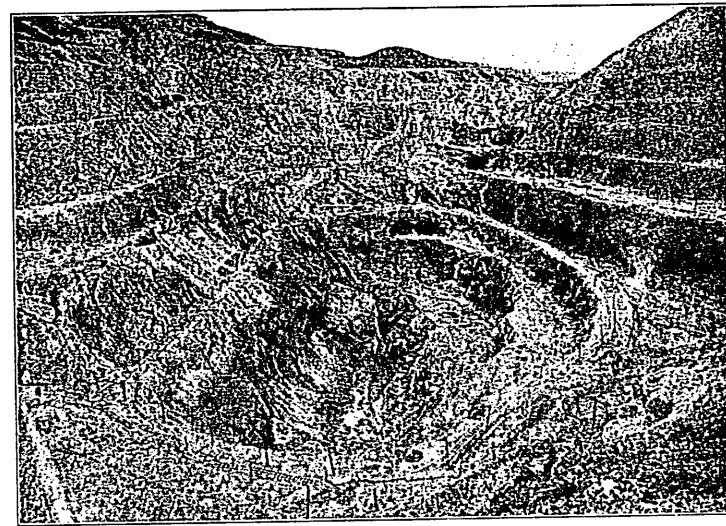
図解 (上) サイバ
ン島チモロ族
の洗濯(下)コロ
ール島在留邦人
の家屋

交通 航路は、横濱大阪神戸門司二見及び各島間に相通じ、無線電信局は、ヤルトポナベトルックサイパンヤップパラウアンガウルの諸島にある。ヤップ島は、海底電線の仲繼をなし、北東は、米領グアム島を経て、我が内地及びサンフランシスコに通じ、西南は、セレベス島を経て、ボルネオジャバの二島に通じ、北西は、琉球の那覇に達してゐる。

住民 土人は、ミクロネシア族で、チモロ族は、勤勉で衣食住も洋式を真似てゐるが、カナカ族は、裸體跣足で、椰子樹の陰に、舞踏雜談睡眠にふけてゐる。



てめ集を滿産の縣府各がいなき過に%二十の國全は額産蘭の縣野長 擇選蘭の谷岡
るあで部一の場絲製谷岡地心中の共は圖 ぶ及に%五十二は額産絲生でのるす絲製



主を銅ひ用を法掘採な殊特るす稱と堀天露で山鐵大の指扇本日一第北東 山鐵坂小
るあでのもたし示を場鐵探掘天露な模規大は圖 るす産を等鉛亜・鉛・銀・金てしと

政治 もと獨逸領であつたが、歐洲大戰の結果、我が國の委任統治地となつた。我が南洋廳は、バラウ諸島のコロール島にあつて、全諸島を管理し、土人の保護に任じてゐる。

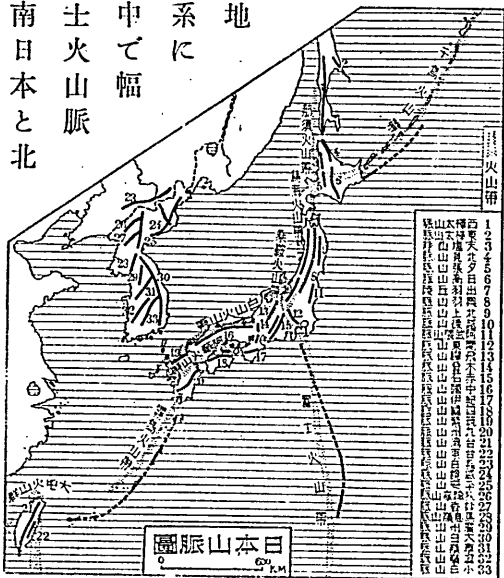
第二編 總括

第一章 自然地理

第一節 地勢

山脈 日本列島は、亞細亞大陸の縁邊にある海底山脈で、花綵列島又は東亞の防波堤といはれる。列島部の山地は、北東派樺太山系、南西派山系に分屬し、其の接合地域は、本州中で幅が最も廣く、地形が複雑し、富士火山脈が此處を縦走し、以て列島を、南日本と北

1 北緯山系ともいふ
2 南緯山系ともいふ



人文地理學上東日本・西日本と稱することあり

日本とに分つてゐる。日本列島は略、大弓形を呈し、其の太平洋方面を表日本、日本海方面を表日本と呼ぶことがある。北日本と南日本、又裏日本と表日本とは地文上、人文上、異れることが多い。北東派山系は、樺太に起つて、北海道本島奥羽地方を過ぎ、本州中部地方の略中央に達する。南西派山系は、南北の二列に分れて、北列は九州の北西部に、又南列は、南東部に起り、二者概ね並走して、北東派山系に接近してゐる。

櫻島の噴火
(大年三年)



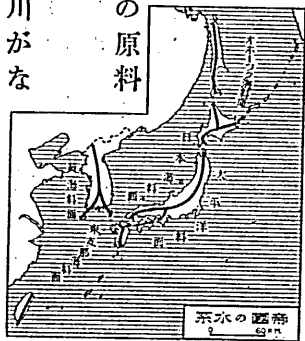
朝鮮は、北部は高臺で、長白妙香等の數山脈が、南西より北東に並走し、又南部には、略南北に走る大白山脈がある。火山脈 列島には、多くの火山脈があつて、一般に普通の山脈に沿ふて走るのが多い。火山數は、約二百(活火山約五十)を算

我が國の大河は朝鮮半島に多い

琵琶湖の水運(大津に於ける湖上汽船)



し、世界に稀なる火山國をなしてゐる。朝鮮は、内地に比して、火山が甚だ少い。温泉 概して火山地方に多く、或は健康の保持に適し、或は清涼水の原料を供するものがある。



河川 地勢上、大なる河川がなく、且つ舟運灌漑の利の大なるものも少いが、其の數、其の水量が割合に多く、又流れが急で、動力を供給するものが甚だ多い。河川は、太平洋、オホーツク海、日本海、朝鮮海峡、黄海、東支那海、臺灣海峡、瀬戸内海等の斜面に分流する。湖沼 大なるものは少いが、概ね風光が麗しくて、遊覽地として知られ、或は舟運灌漑に、或は工業

動力養魚に利用せられるものが多い。
平野 山岳が多い爲、僅に海岸又は川筋に開け、大陸にあるが如き、廣大なるものは見ない。併しよく利用されて、大なる生産力を有し、國家活動の中堅地を作つてゐる。

海岸 六大島は、概ね海岸線がよく發達してゐる。九州は第一位で、本州、四國、北海道が之に次ぐ。朝鮮半島は、西岸南岸が最も出入に富み、海岸發達の割合は、九州に次いでゐる。

島嶼 我が國には六箇の大島がある。此の外、千島、薩南、琉球、小笠原の四列島がある。また瀬戸内海は、九州の南部、臺灣の西部、朝鮮南部には、島嶼が集團し、淡路、沖繩、壹岐、對馬、濟州の五島、日本海の中の佐渡、隱岐(和名、隠岐)二島は、何れも稍、大きい屬島である。

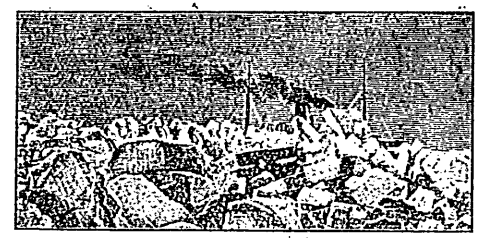
第二節 海洋

航海の適否 我が北邊の海上は、冬季に氷結し、春季には流水が漂

千島列島中にも國後、擇捉、得撫等の大島がある。南洋にも集團的のものがある。

臺灣の東、西海上も風浪が荒い。

日本海は、最深二千六百米。
樺太近海に於て、流水と開ふ特務、大泊。



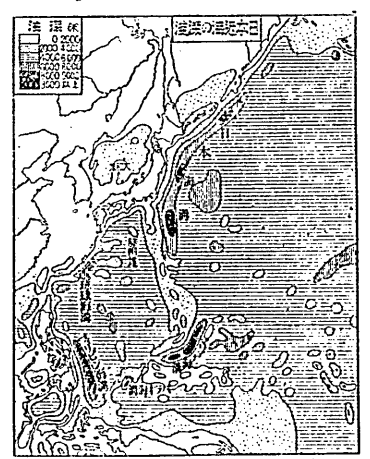
ひ、又日本海面は、冬季に波が高く、瀬戸内海には、潮流の早い處が多い。されば、我が近海は、世界に於ても、水難の多い處の一である。

深淺 列島に沿ふて、北東部に長く連る日本海溝(最深九四三三米)、南西部の琉球海溝(最深七四八一米)を始め、太平洋

には、深海が處々にあるが、オホーツク海、日本海、黄海、東支那海、瀬戸内海は、一般に浅い。

九州の南東海底に、膠州堆、能登半島の北方海底に、大和堆の淺所がある。

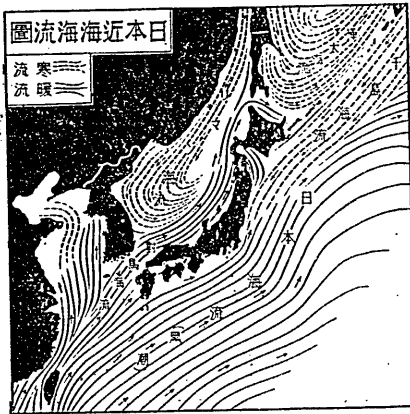
潮汐 潮汐干満の差は、太平洋岸、黄海岸有明海岸が大で、日本海では



内地では有明海の約六米が最も大きい。

1 二見海

1 濃藍色を呈する
故に此の名がある



少い。一局部としては、仁川附近の十米が最大、佐渡の三十糎が最小である。瀬戸内海は、潮汐干満の際、内外兩側の水準が異なる爲、急激な潮流の起る處が多く、就中鳴門・下關・來島・の三海峡が、最も有名である。

海流 太平洋には、日本(潮)千島(潮)の二海流がある。日本海流は暖流であつて、赤道附近より來て、略、北東に向つて流れ、以て關東地方以南の我が太平洋岸の雨量を多からしめる。千島海流は、寒流で、北、東方より來り、略、南西方に進む。之がため、北海道・奥羽の太平洋岸は低温・少雨となつてゐる。日本海流の分派である、對馬海流は、琉球より東支那海に入り、對馬海峡を経て、日本海を流れ、爲に九州より、樺太

第三節 氣候・生物

に至る列島の西岸北岸は割合に高温多雨である。樺太の東を樺太海流、西をリマン海流が南下し、共に寒流である。かくて之れ等の海流は、氣候の外、水産・舟運等に影響を及ぼすことが大である。

氣温 我が國は、緯度三十五度間に亙つてゐる故、南北寒暖の差が激しく、臺灣は高熱、奥羽以北は低温である。又亞細亞大陸の極寒・極熱や、土地の高低、寒暖・二海流等の影響があるが、國土の大部は、北温带に位し、且つ四面殆んど海を環して、氣候の溫和なることは、風光の明媚なること、共に、普く世界に知られてゐる。

風・雨 列島は、夏季に南東季節風、冬季に北西季節風が多い。これ實に、表日本と裏日本とが、多雨期を異にする主なる原因である。此の兩季節風の交代期は、概ね風雨が多くて、殊に八九月の頃は暴風・豪雨が襲來し、屢、洪水を起して、稻作を害する。又奥羽以南には、初

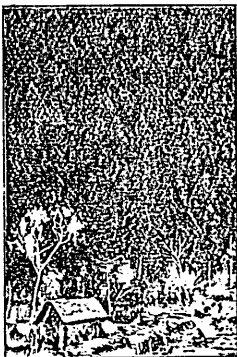
東京に中央氣象臺
神戸に海洋氣象臺
全國百餘ヶ所に測
候所數箇所に高層
氣象觀測所がある

1 臺灣では夏季に
南西季節風、冬季に
北東季節風が多い

雨量は風向と山脈
の方向とに影響せ
られることが多い

秋田縣に於ける杉の美林

樺太の馴鹿千島の
蝦夷地北海道の根本
州の鯨魚本州・四
國・九州の猿小笠
原の海魚琉球の飯
匙備後瀬戸の黄牛・
水牛朝鮮の虎を特
有動物とする



夏に、陰鬱な梅雨の現象がある。朝鮮半島は夏季に、南西季節風が發達し、冬季に北又は西の季節風が多いが、概して少雨である。

生物 氣候地質共に生物の生育に適して、其の種類が多い。南部に榕樹檳榔樹水牛、北部に蝦夷松、根松、馴鹿等が分布し、中部は、松、杉、檜の良材に富み、牛馬等の家畜が多い。暖流は、鰻、鯉、鮪等を伴ひ、寒流は、鯨、昆布、海獣を生育せしめる。

第二章 人文地理

第一節 産業

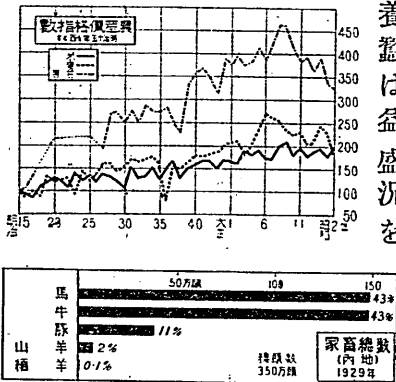
農業 農業は、我が國産業の大宗であつて、國民の大半は、これに従事してゐる。内地の耕地は、全面積の一割五分を占めるに過ぎ

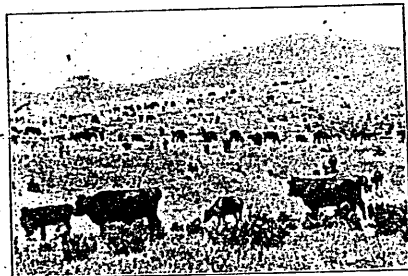
1 自作農創設・大
集團地開墾・農村
振興策 農村電化・
土地改良獎勵
2 北海道の水
田(上川盆地)



ひ、獸肉、獸毛、獸皮の需要が増加したが、氣

ないが、關東地方以南の地では、二毛作が盛んで、米、麥、大豆、甘藷、茶、種茶、煙草の産額が甚だ多い。併し住民の増加及び都會集中耕地の工場住宅地化によつて、食料品の不足を來し、今や土地開拓、耕地整理、移植民獎勵を急務とすると同時に、農産を振興せしむるの必要が益々大なるに至つた。養蠶は益々盛況を呈し、生絲は重要輸出品にして、其の輸出額世界第一である。朝鮮、臺灣の農業も著しく進歩し、多量の農産物を内地に移出する。牧畜業 文化の發達に伴



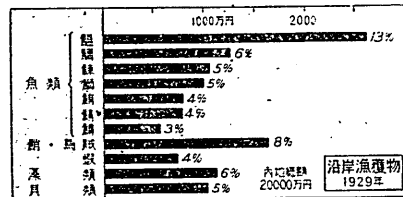
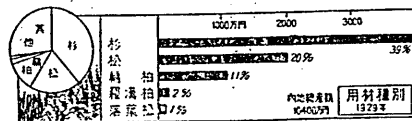


中國の牛
米國・加奈陀

候土地の關係上我が國は、牧畜業の大なる發達を期し難い。牛は、中國九州朝鮮に馬は、北海道奥羽九州に豚は、東京附近と鹿兒島縣以南とに多い。綿羊は、北海道其の他で僅に試育が行はれてゐる。

林業 樺太北海道には蝦夷松、松、松、落葉松、臺灣には樟、檜、津、輕半島には羅漢柏、秋田、吉野には杉、木曾には檜の美林があり、北朝鮮の山地には松、樅が繁茂し、併し國內の需要を充すに足らず、年々外國より木材を輸入する。

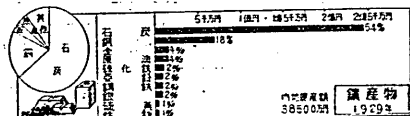
水産業 我が國は、殆ど海を環らし、且つ寒暖二流に洗はれてゐる故、水産物が豊富で、漁業の盛んなること、世界第一である。主



東京仙臺大阪福岡・札幌に鐵山監督局がある

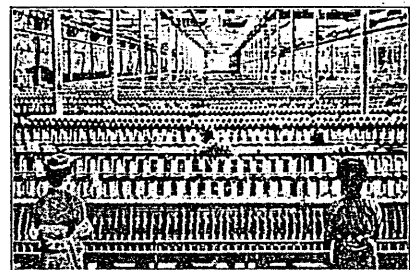
紡績工場
〔大阪附近〕

四大工業地帯以外の工業地帯
1、札幌・小樽・室蘭・旭川方面
2、福井・金澤方面
3、廣島・岡山・岡山方面



稍前途が有望である。

工業 世界大戰の影響により、機械力の應用が益々盛んとなり、今や我が國は、世界屈指の大工業國となつた。阪神地方、京濱地方、名古屋地方、北九州に最も盛んで、紡織業を第一とし、食品工業



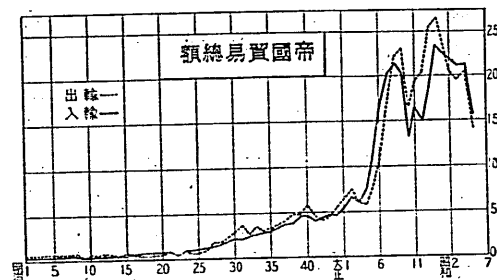
4. 桐生・足利・伊勢方面

化學品工業機械製造金屬工業等が之に次ぐ。

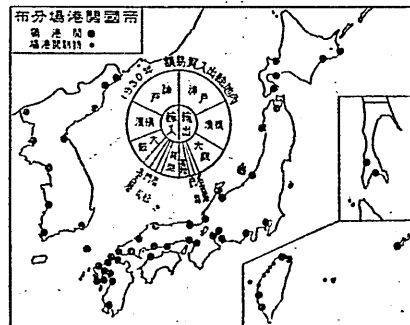
商業 東京は、商業が最も盛んにして、古來の大商業地たる大阪と共に、兩々相俟ち、内國商業の二大中心をなしてゐる。其の他、各地の大小の都會は多く其の地方的中心市場をなつてゐる。取引

の最も多いのは米で、麥、清酒、綿絲、綿織物、肥料、木材などが、之に次ぐ。

外國貿易は、世界大戰中大躍進をなしたが、其の後は稍不振で、年々減少の傾がある。併し尙現今内地の輸出額は、十四億七千圓、輸入額は十五億五千圓に上り、世界の、大商業國の一に伍してゐる。而して輸出品には、加工せざるもの、手先仕事になるもの、



品名	数量	金額
米	1,000,000,000	10,000,000,000
麥	500,000,000	5,000,000,000
清酒	1,000,000,000	1,000,000,000
綿絲	1,000,000,000	1,000,000,000
綿織物	1,000,000,000	1,000,000,000
肥料	1,000,000,000	1,000,000,000
木材	1,000,000,000	1,000,000,000



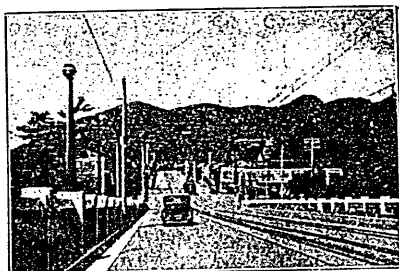
て神戸は輸入、横濱は輸出が多い。我が貿易品の重要仕向地は、米國、支那、印度、關東州、蘭領印度、英國の順であつて、重要仕入地は、米國、印度、支那、關東州、獨逸である。

第二節 交通

道路 國道は、東京、宇治、山田を中心として四通し、其の延長は、八

帝國貿易相手國別 (1930年)	輸入	輸出
米國	29%	34%
支那	10%	18%
印度	11%	9%
關東州	8%	6%
蘭領印度	4%	4%
英國	6%	4%
獨逸	6%	2%
日本	1%	2%
朝鮮	3%	1%
南洋羣島	7%	1%

鋪裝道路
(神戸西郊の山陽
道の一部)
明治五年初めて東
京・横濱間に鐵道
の開設された當時
に比すれば雲泥の
差である



千軒に及ぶ道路は、汽車電車汽船の發達につれて必要の度が減少するが、最近、自動車の増加が著しく、爲に年々改修によつて、完全な鋪裝道路が延長しつゝある。

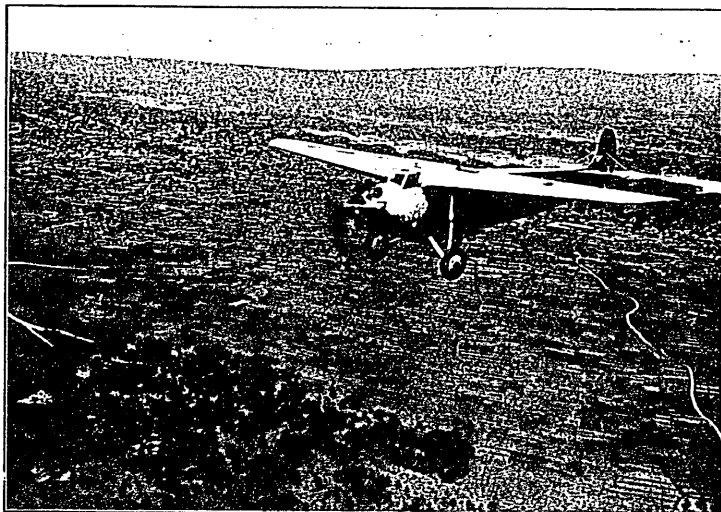
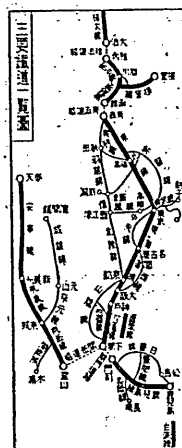
鐵道 國有鐵道が、大部を占め、其の總延長は、内地のみで二萬一千軒を超え、植民地には、別に七千軒の鐵道がある。内地幹線鐵道の中心は東京で、關東近畿北九州には、鐵道網が密である。

内地臺灣は、狹軌であるが、朝鮮關東州は、廣軌を採用してゐる。近

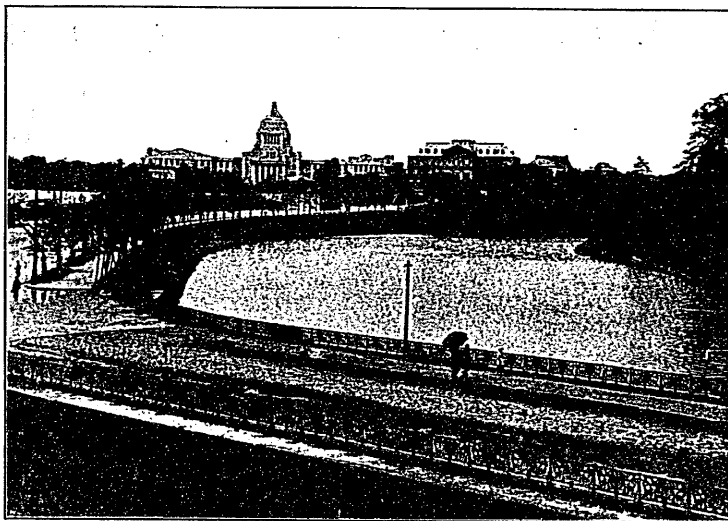
時は、電車の利用が益進んで、鐵道の電化も、次第に延長の傾向にある。

航路 我が國は、英米に次ぐ世界

第三の海運國で、横濱神戸上海香港

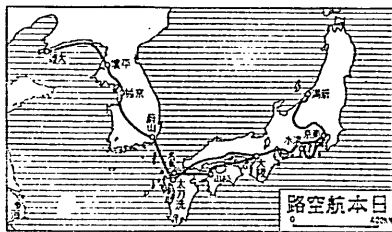


達發の路空航の國が我 るあで機空航期定の中翔快を空上野平大の尾濃 空航期定
るあてし増が者用に第次てしと關機通交速快最がいながのもきべる見だまは



でのもだん望を區衙官の方西南りよ外門田櫻の部南城宮 望展の堂事議と部本謀參
るあで部本謀參るた部腦首の軍陸は方左堂事議新會議國帝はるえ聳の塔高に方左

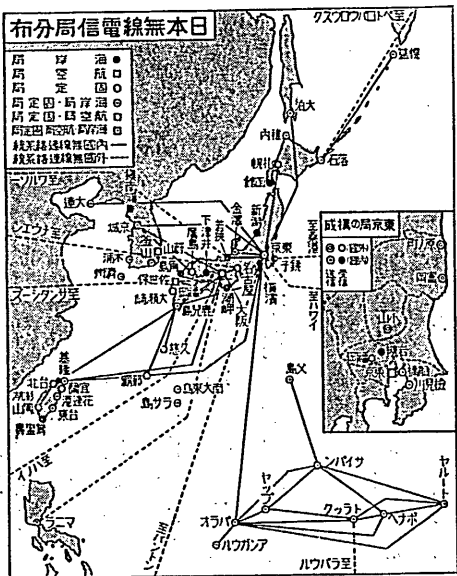
1 郵便物のみで且
つ冬季は休航



を主要港とし、内外の航路が頗る多く、汽船の總噸數も、三百八十萬噸(三十三萬噸)に達する。之を明治初年の一萬五千噸に比すれば、實に異常の發達と言はねばならぬ。汽船會社の大なるものは、世界屈指の日本郵船及び大阪商船、國際汽船、朝鮮郵船等である。

郵便は、明治四年、初めて東京・横濱間に開かれ、同十年、萬國郵便聯合に加はり、今や山間僻地に至るも、郵便の達せざる所なく、世界の郵便發達國の一である。航空 我が國の航空事業は、列強に比して劣つてゐるが、近年、次第に發達して、諸般の設備も整つて來た。今や東京を起點として、大連(大連・瀋陽・奉天・長春・哈爾濱)に至る長距離旅客郵便物の航空輸送が行はれ、其の他、東京・大阪間、大阪・福岡間、大阪・松山間、東京・清水間、東京・新潟間にも、定期航空路が開かれた。

1 丁抹國の所有である
デンマーク



電話 電話は明治二十三年に創始せられ、爾來發達して、長距離の通信も行はれてゐる。

は歐洲線に連なつて、最もよく利用されてゐる。近年、無線電信も頗る發達し、内地はもとより、植民地、近海航行中の船舶を始め、歐米との通信も行はれてゐる。

ラヂオ放送局既設地
東京・大阪・名古屋・廣島・熊本・仙臺・札幌・金澤・福岡・岡山・長野・静岡・愛知・北九州・大連・神戶・門司附近の主要地の電話局より有線で此の二個所の電話局に接続し、此處より無線となる

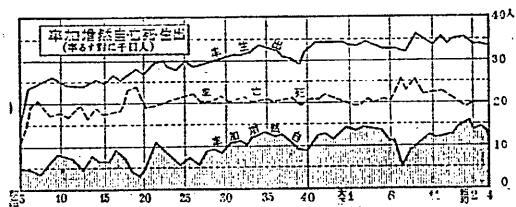
我が國の種族
大和族・大和族・朝鮮族・漢族・高砂族・アイヌ族・ギリアーク族・オロク族・ポリネシア族



電話も、亦漸次擴張せられた。近年、主要都市のラヂオ放送が隆盛となり、廣く教育・報道・娯樂用に供せられ、無線電話も、神戸・門司より、船舶との間に、應用せられてゐる。

第三節 住民

種族 大和族は、國民の大部(約八割)を占め、歴代天皇の恩澤を蒙つて、忠君愛國の念が強く、又團結が頗る固い。而かも其の性情溫雅にして、學術を好み、工藝に長じ、發展進歩の天稟を有して、優に世界の大國民たるの素質がある。大和族の外に、多くの朝鮮族がある。夙に文化の發達した種族であるが、一時沈滞して、昔日の面影がない。併し近年、良き統治の下に、漸次、其の面目を一新せんとしてゐる。其の他、漢族、高砂族、アイヌ族、ギリアーク族、オロク族、ポリネシア族がある。漢族は、臺灣に多數居住してゐるが、其の



他は、甚だ少い。何れの種族も、漸次、大和族に同化せられて、よく國內が統一されてゐる。

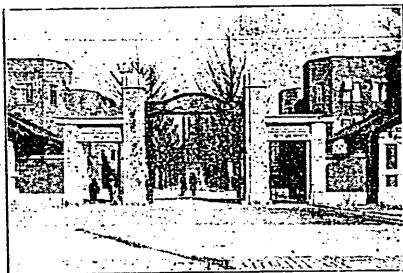
人口 人口は、内地に約六千四百萬人、新領土に二千六百萬人、即ち總計約九千萬人を有し、内地の密度は、一方、糶に付約百六十九人に及び、世界第四の人口稠密國である。人口が、既に稠密なる上に、年々の増加率が、甚だ大（一千に付十人の割合）である故、今や人口問題、食糧問題を考慮すると共に、移民植民の急を要する時が到來してゐる。既に滿洲、南米、南洋に赴く者が、漸く増加し、多く支那、布哇、米國、西岸、伯刺、西爾等に在留してゐるが、其の總數は、七十萬に過ぎない状態である。従つて最近の伯刺西爾植民は、各府縣とも、組織的に獎勵してゐる。

教育 教育は、世界稀に見る盛觀を呈し、國勢進暢の基をなして

東京帝國大學

宮内省直轄の學府がある

神社數十一萬
寺院數十一萬
神道・黑住教・修成派・大社教等十餘派
眞言・天台・淨土・眞臘・曹洞・日蓮・宗等五十餘派



ある。小學校は、其の數二萬五千に及び、學齡兒童の不就學者數は、僅に百八十分一に過ぎない。中學校、高等女學校、各種實業學校も、其の數、年々増加してゐる。又、高等教育には、各種の大學を始め、高等學校及び數多の各種專門學校があり、陸海軍には、各、軍人養成の爲、陸軍大學校、陸軍士官學校、海軍大學校、海軍兵學校等がある。

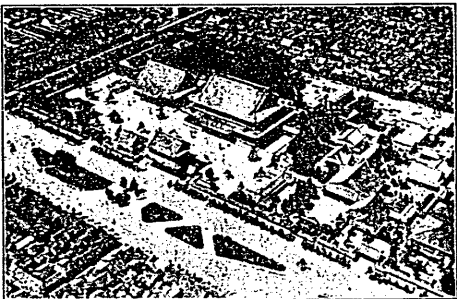
臺灣、朝鮮、關東州には、各、其の土地に適する教育制度を設け、文化の進歩普及に努めてゐる。

神社 我が國民は、皇祖、皇宗を始め、忠臣、賢士の靈を、神社として祭祀する美風がある。神社には、神宮の外、官幣社、別格官幣社、國幣社、府縣社、郷社、村社等の別がある。

宗教 神道は、帝國固有の宗教であつて、傳來した佛敎と共に、長

1 二十三派に分れてゐる

飛行機より見たる東本願寺

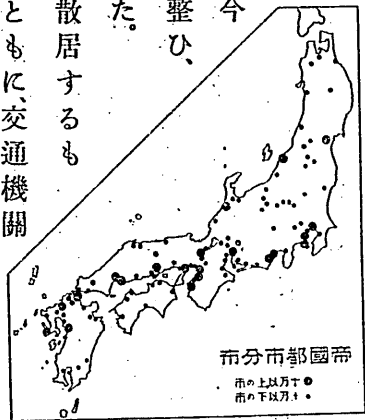


産業が発達すれば人口の稠密を來し人口稠密となれば又産業の發達を促がす

く民心を支配してゐる。又基督教も漸次普及し、都會及び開港場に信徒が多い。

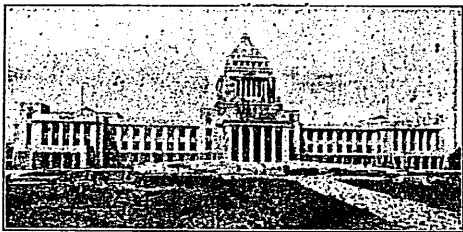
衛生 我が國は、氣候溫和、地味肥沃であるが、尙ほ脚氣、呼吸器病等の患者の多いのは、其の風土の多濕によることが多い。我が國民の死亡率が列強に比して、尙ほ高率なると、體格が稍不良なることゝは、誠に遺憾であるが、今や年々、衛生思想が発達し、其の設備も整ひ、之に關する學術も著しく進歩して來た。

都會 古來、農業本位の我が國民は、散居するものが多かつたが、今や商工業の發達とともに、交通機關



1 他に臺灣に七市朝鮮に十二府四東州に二市がある
2 此の外臺灣に一朝鮮に二關東州に一

建築中の帝國議會事堂（東京市麹町區役ヶ園にある）



第四節 政治

の進歩につれて、歐米諸國に於ける如く、都會に集中する傾向を生じ、市の總數は約百で、人口十萬以上を有するもの二十八を數へ、關東、近畿、濃尾、越後、北九州、平野、瀬戸内海沿岸に都會の數が多い。

國體 我が國は、建國の體制實に尊く、天津日嗣は、萬世一系、天壤と共に窮りなく、君臣の關係は、眞に親子の如くである。これ我が國體の精華にして、世界列國に比類なき處である。

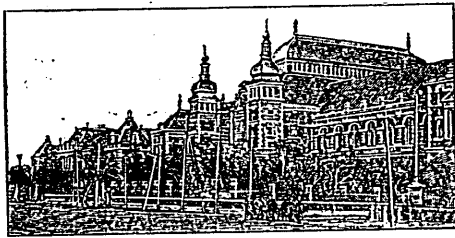
政體 我が國は、立憲政體であつて、立法、司法、行政の統治機關が分立して存在する。

1、立法機關 帝國議會で、貴族院衆議院より成り、法律の制定に協賛し、又豫算の議決等に當る。

2、行政機關 中央に、內閣、十二省（内務、外務、大藏、陸軍、海軍、鐵道、司法、文部、農林、商工、

府縣には支廳を有するものあり

大審院・東京控訴院（東京市麹町區日比谷にある）



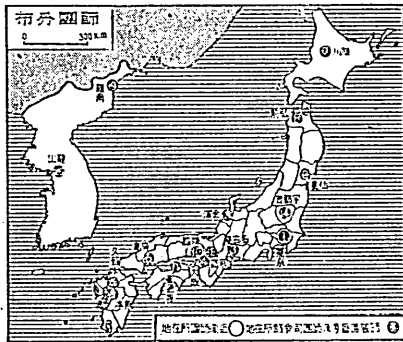
選任）がある。内閣總理大臣と各省大臣とは、國務大臣と稱せられて、國務大臣は内閣を組織してゐる。地方の統治者は、内地に北海道長官警視總監、三府四十三縣の知事、植民地に朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官關東長官南洋廳長官がある。朝鮮には朝鮮總督の下に、政務總監と十三道の知事があり、臺灣には臺灣總督の下に、總務長官と五州の知事、三廳の廳長とがある。

3、司法機關 司法機關の中、大審院は東京に、控訴院は東京仙臺札幌名古屋大阪廣島長崎にある。地方裁判所は、北海道に四箇各府縣及び樺太廳に各一箇所あつて、其の下に、區裁判所がある。而して朝鮮臺灣關東州等には、特別の司法制度が布かれてゐる。

以上三大統治機關の外、皇室に關する一切の事務を處理すべき宮内省と、天皇の最高諮詢機關たる樞密院とがある。

陸海軍の首腦部は參謀本部、海軍軍令部で夫々國防用兵の事を司つてゐる

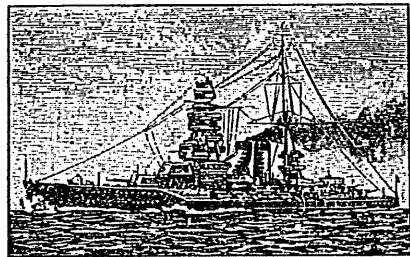
全國の各要害地に要塞がある



師團を置き、要地に其の司令部がある。外に東京に近衛師團、朝鮮に二箇師團、臺灣關東州に守備隊が置かれてゐる。兵員は、約二十萬で、列強に比して多くはないが、軍人の忠勇義烈は、吾等祖先の遺風で、これ實に、清露獨を破つた主因である。

2、海軍 全國の海岸海面を三海軍區に分ち、各區にある軍港（横須賀、吳、佐世、

1 各務原(二箇聯隊・八日市・太刀洗・立川・平壤・松原東に飛行隊千葉に氣球隊がある)
2 阿見(霞浦)・道濱(横須賀)・佐世保・大村・館山・佐伯
3 内外合計五十八億圓一人當九十二圓に及ぶ
4 戰艦陸奥(排水量 五三、〇〇噸大正十一年横須賀工廠で竣工した世界の優秀艦である)
我が修好國は約四十ある



保)の鎮守府が之を管轄してゐる。又要害地に要港がある。艦艇、一百十萬噸、兵員七萬五千を算して、實に世界屈指の海軍國である。
3、空軍 今や航空機は國防上に、必要缺くべからざるものとなり、陸軍の航空部隊は、陸軍航空本部、陸軍飛行學校及び航空諸隊によつて構成せられてゐる。海軍は、海軍省に於て、其の行政教育を直轄し、六箇の航空隊を配置してゐる。

財政 明治二十七八年頃は、歲計總額一億圓未滿であつたが、其の後、軍備の擴張、新事業の施設等によつて、年々増加し、又國債額も激増して、其の元利の償却をも計上する故、今や歲計は、約十七億圓に上るに至つた。

外交 世界列國との交際年に親密を加へ、大使公使を遣り、國交を修め、又要地には總領事領

事を派して、通商などを圓滑ならしめてゐる。今や太平洋に關して日米英佛の四國協商が成立し、又我が國は、國際聯盟に加はつて、其の常任理事國となり、優に列強の間に立つて、世界の平和を維持するの地位を占めるに至つた。吾等は、之を喜ぶと共に、責任の益重きを自覺しなければならぬ。

結論

我が國の位置は、正しく極東に僻在してゐる。これが爲に、國際的風波に逢ふことが少なかつた。併し今や太平洋時代が、日一日と近づき來つて、層一層、我が國の活躍すべき時が來た。

我が國は、到る處、殆ど氣候が良好で、吾人の生息活躍するに、極めて好適である。又秀麗なる山嶽が多く、清澄なる河海も、そここゝに

あつて、世界の公園との美稱さへある。殊に地味肥沃、産物豊富で、商工業の勃興にもよいのが、即ち我が國土である。……今や人口九千萬朝鮮に多い朝鮮族、臺灣に多い漢族を始め、何れも大和族を中堅として、互に相寄り相助けて、統一融和の實があがり、加ふるに萬世一系の皇室、儼然として之を導き、撫然として之を愛しみ給ひ、以て千戴萬古、聊かも國礎に動ぎがない。

我が國の地理を學んで、いやが上にも、我が國の隆盛發達に盡さねばならぬ。

人口一覽

昭和五年十月一日國勢調査統計（單位、千人）
（市町ハ一萬人以上、村ハ二千人以上）

關東地方 三、七七一															
東京府 五、四〇九	東京市 四、九七一	八王子市 五	武藏野町 七	立川町 四	青梅町 二	神奈川縣 一、七二〇	横濱市 六〇〇	横須賀市 二〇	川崎市 二四	平塚市 二四	田浦町 七	鎌倉町 七			
小田原町 二六	藤澤町 二五	茅ヶ崎町 二五	浦賀町 二〇	逗子町 二五	三崎町 三	秦野町 三	埼玉縣 一、四九九	埼玉縣 一、四九九	川越市 四	熊谷町 四	大宮町 元	浦和町 二五	川口町 三	秩父町 元	本庄町 六
深谷町 二四	忍町 二	所澤町 二	飯能町 二	千葉縣 一、四七〇	千葉市 兎	船橋町 二	市川町 三	本銚子町 三	野田町 元	佐原町 七	津田沼町 三	八街町 三	銚子町 三	松戸町 二	
浦安町 二	木更津町 〇	群馬縣 一、一六六	群馬縣 一、一六六	前橋市 金	高崎市 六	桐生市 五	伊勢崎町 三	館林町 七	澁川町 三	沼田町 三	富岡町 三	栃木縣 一、一四三	宇都宮市 八	足利市 四	栃木町 三
足尾町 二四	鹿沼町 三	日光町 二〇	佐野町 七	小山町 四	田沼町 三	今市町 三	大田原町 二	茨城縣 一、四六七	水戸市 五	日立町 六	古河町 六	土浦町 六	石岡町 六	結城町 五	

助川町	三	喜多方町	三	一關町	〇	大曲町	二	濱松市	二〇
湊町	四	原町	三	青森縣	八〇	山形縣	一〇〇	清水市	二〇
下館町	三	内郷村	七	青森市	七	山形市	空	沼津市	四
磯原町	三	宮城縣	二四	八戸市	五	米澤市	五	大宮町	四
松原町	二	仙臺市	一〇	弘前市	三	鶴岡市	五	三島町	三
磯原町	〇	石巻町	三	野邊地町	三	酒田町	五	島田町	三
奥羽地方 六、五四									
福島縣	一、五八	鹽釜町	三	田名部町	二	新庄町	五	小島町	七
那山市	五	氣仙沼町	五	三本木町	二	谷地町	三	燒津町	〇
白石町	三	古川町	三	秋田縣	六八	寒河江町	三	伊東町	六
岩手縣	六	能代港町	五	秋田市	五	上山町	三	熱海町	三
盛岡市	空	横手町	六	土崎港町	七	宮内町	〇	中泉町	三
釜石町	三	大館町	六	小坂町	四	東根町	〇	川崎町	三
宮古町	六	本莊町	三	湯澤町	三	靜岡縣	一、六八	相良町	三
白河町	三	大槌町	二	上諏訪町	三	靜岡市	三	掛川町	三
須賀川町	六	常滑町	〇	新津町	〇	石川縣	七	藤枝町	二
湯本町	五	起川町	五	加茂町	三	滑川町	〇	山比町	二
中村町	五	龜崎町	五	新津町	〇	石川縣	七	富士町	〇

山梨縣	三	古知野町	五	新川町	〇	下諏訪町	三	直江津町	四
甲府市	九	浦那町	五	鳴海町	〇	須坂町	〇	五泉町	四
鹽山町	二	舉母町	四	八幡町	〇	飯田町	六	龜田町	四
愛知縣	二、五五	稻澤町	四	大府町	〇	伊那町	六	燕町	三
名古屋市	九	高濱町	四	岐阜縣	二、二六	小諸町	五	小千谷町	二
豐橋市	九	田原町	三	岐阜市	六	丸子町	三	寺泊町	二
岡崎市	六	成岩町	三	大垣市	元	上飯田町	二	見附町	二
一宮市	三	犬山町	三	高山町	元	平野村	四	堀之内町	〇
瀬戸市	三	小牧町	三	中津町	六	新瀉縣	一、三三	富山縣	七
安城市	三	祖父江町	三	加納町	七	新瀉市	三	富山市	五
津島町	六	矢作町	三	多治見町	三	長岡市	天	高岡市	五
西尾町	七	福江町	三	關野縣	一、七	高田市	三	新湊町	三
一色町	七	木曾川町	二	長野縣	一、七	三條町	三	氷見町	四
半田町	七	二川町	二	長野市	五	柏崎町	四	伏木町	三
起川町	五	守山町	二	松本市	三	新發田町	三	魚津町	三
龜崎町	五	蟹江町	二	上田市	三	加茂町	三	滑川町	〇
刈谷町	五	常滑町	〇	上諏訪町	三	新津町	〇	石川縣	七

京都府 一、五五	膳所町 五	長濱町 六	彦根町 三	大津市 四	滋賀縣 六三	近畿地方 二、〇五		大野町 三	武生町 三	敦賀町 三	福井市 六	福井縣 六八	七尾町 三	輪島町 四	小松町 七	金澤市 一五
松阪町 六	宇治山田市 五	四日市町 五	津市 五	三重縣 一、二五	丹波市町 四	高田町 五	郡山町 七	奈良市 五	奈良縣 五九	中舞鶴町 二	舞鶴町 三	宮津町 三	綾部町 四	新舞鶴町 五	福知山町 三	京都市 五
岸和田市 五	堺市 三〇	大田市 二、四〇	大阪府 三、五〇	湯淺町 二	黑江町 二	御坊町 三	箕島町 四	田邊町 四	新宮町 五	和歌山市 二七	和歌山縣 八二		富洲原町 二	龜山町 三	尾鷲町 五	桑名町 三
洲本町 四	明石市 元	西宮市 元	尼崎市 五	姫路市 三	神戸市 六八	兵庫縣 二、四八		高石町 二	八尾町 二	大津町 三	春木町 三	濱寺町 五	佐野町 五	池田町 五	豐中町 六	布施町 四
倉吉町 六	米子市 四	鳥取市 五	鳥取縣 八九		中國地方 三、三三		精道村 六	小田村 四	高砂町 二	川西町 二	豐岡町 三	飾磨町 三	垂水町 四	伊丹町 四	加古川町 四	御影町 元

福山市 元	吳市 五	廣島市 二五	廣島縣 一、六三	連島町 〇	日比町 三	琴浦町 三	笠岡町 五	玉島町 三	倉敷市 五	津山市 四	岡山市 三	岡山縣 一、六四	今市町 三	濱田町 五	松江市 四	島根縣 五〇
岩國町 三	麻里布町 三	柳井町 六	小野田町 七	彦島町 三	徳山町 三	防府町 四	萩市 三	山口市 三	宇部市 六	下関市 九	山口縣 一、二五	鞆町 〇	府中町 三	音戸町 三	三原町 三	尾道市 元
善通寺町 七	坂出町 六	九龜市 元	高松市 六	香川縣 七三	加茂名町 三	小松島町 六	撫養町 六	徳島市 六	徳島縣 七七	四國地方 三、三〇		深川町 〇	下松町 〇	中關町 二	長府町 二	厚狹町 三
八幡市 六	福岡市 二六	福岡縣 二、五七	九州地方 九、六八		清水町 〇	高知市 六	高知縣 七六	新居濱町 〇	三津濱町 四	西條町 六	八幡濱町 六	今治市 四	宇和島市 四	松山市 六	愛媛縣 一、四二	觀音寺町 七
大川町 四	添田町 五	瀬高町 六	企救町 七	中田町 六	山田町 三	伊田町 三	後藤寺町 四	宮田町 三	飯塚市 四	直方市 四	戸畑市 五	若松市 五	久留米市 五	小倉市 六	大牟田市 七	門司市 一〇

延濱町	宇美町	小竹町	箱崎町	幸袋町	行橋町	穂波村	稻築村	二瀬村	佐賀縣	佐賀市	唐津市	鳥栖町	相知村	長崎縣	長崎市	佐世保市
西	三	三	三	〇	〇	三	三	三	三	〇	〇	〇	〇	一三三	二〇五	二五
島原町	諫早町	相浦町	平戸町	富江町	西有家町	茂木町	福江町	熊本縣	熊本市	水俣町	荒尾町	八代町	牛深町	大分縣	大分市	別府市
三	六	三	三	三	二	二	二	一三三	一〇	〇	〇	〇	三	〇	五	五
中津市	臼杵町	佐賀關町	日田町	佐伯町	大野町	高田町	宮崎縣	宮崎市	都城町	延岡町	小林町	高岡町	富高町	都濃町	鹿兒島縣	鹿兒島市
元	〇	四	三	三	二	二	吉	五	五	三	六	三	三	〇	一五七	三
川内町	谷山町	枕崎町	阿久根町	鹿屋町	末吉町	垂水町	西之表町	名瀬町	川邊町	志布志町	加世田町	出水町	加治木町	米ノ津町	伊作町	宮之城町
三	元	七	三	三	三	三	三	〇	六	六	六	六	五	五	五	四
隼人町	財部町	大口町	蒲生町	伊集院町	山川町	萬世町	顯娃村	串木野村	指宿村	沖繩縣	那霸市	首里市	平良町	石垣町	名護町	本部村
西	三	三	三	二	二	二	三	三	〇	五	六	〇	〇	五	三	三

北海道地方 二八三

函館市	札幌市	小樽市	旭川市	室蘭市	釧路市	夕張町	美唄町	岩見澤町	帯廣町	野付牛町	網走町	砂川町	苫小牧町	江別町
一七	一〇	一〇	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
稚内町	余市町	根室町	名寄町	留萌町	士別町	八雲町	伊達町	富良野町	俱知安町	上磯町	池田町	瀧川町	岩内町	森町
元	元	元	六	六	六	五	五	四	四	四	四	四	三	三
美深町	増毛町	紋別町	厚岸町	留邊蘂町	三笠山村	朝鮮地方三〇六			京畿道	京城府	仁川府	開城府	水原府	忠清北道
三	二	〇	〇	〇	三				二五	五	五	三	三	三
堤川面	陰城面	鎮川面	報恩面	忠清南道	大田面	禮山面	公州面	天安面	扶餘面	舒川面	全羅北道			全羅南道
三	三	三	二	一三六	三	五	三	三	三	二	一〇四	五	元	六
扶寧面	茂朱面	長水面	木浦府	濟洲面	光州面	二老面	麗水面	順天面	光陽面	羅州面	咸平面	長城面	康津面	靈巖面
三	二	〇	五	四	三	三	三	六	六	五	三	三	二	二

慶尚北道	二四六	統營面	三	延安面	二	厚昌面	二	北青面	八
大邱府	三	金海面	三	平安南道	一三三	鐵山面	〇	州翼面	七
尙州面	元	東萊面	元	平壤府	四	義州面	〇	波道面	四
慶州面	元	鎮海面	元	鎮南浦府	元	江原道	一四九	府內面(定平郡)	三
金泉面	六	三千浦面	七	安州面	七	鐵原面	五	咸鏡北道	古豐
安東面	五	密陽面	七	大同江面	七	江陵面	五	清津府	五
禮泉面	四	蔚山面	五	順川面	二	平昌面	四	雄基面	三
永川面	三	三浪津面	四	价川面	二	麟蹄面	四	會亭面	元
盈德面	三	河東面	三	寧遠面	〇	蔚珍面	三	梧村面	八
浦項面	三	居昌面	二	永柔面	〇	淮陽面	二	城津面	四
義城面	三	黃海道	一五四	平安北道	一五三	華川面	二	臺灣地方	四、五三
善山面	二	沙里院面	四	新義州府	四	平康面	二	臺北州	九四
榮州面	二	海州面	四	龍川面	四	旌善面	〇	臺北市	三〇
慶尚南道	二、三六	安岳面	六	宜川面	三	春川面	〇	基隆市	五
釜山府	一	載寧面	六	博川面	三	咸鏡南道	一五八	宜蘭街	三
馬山府	元	信川面	三	楚山面	三	咸興府	四	淡水街	三
晉州面	五	黃州面	二	昌城面	二	元山府	三		

沙止街	六	南投街	六	屏東街	五	落合町	五		
板橋街	六	彰化街	三	旗山街	元	救香町	三		
新莊街	七	大甲街	三	東港街	五	泊居町	三		
羅東街	四	梧棲街	三	鳳山街	五	留多加町	二		
新竹州	六四	北斗街	二	臺東廳	天	關東州	九六		
新竹市	五	臺南州	一〇六	臺東廳	〇	大連市	二五		
大溪街	七	臺南市	六	花蓮港廳	全	旅順市	三六		
中壢街	四	嘉義市	天	花蓮港街	三	帝國人口總計			
桃園街	三	斗六街	三	澎湖廳	容	內地方	六〇、三六、〇四三		
苗栗街	元	麻東街	七	馬公街	三	朝鮮	三、〇六、〇三五		
臺中州	一〇五	北港街	三	樺太地方	二五	臺灣	四、五二、五七七		
臺中市	五	西螺街	三	大泊町	三	樺太	二五、六六		
鹿港街	五	鹽水街	六	豐原町	三	關東州	九五、五五		
清水街	元	朴子街	元	知取町	元	南洋諸島	六、六六		
員林街	元	新化街	四	惠須取町	六				
豐原街	七	高雄州	三三	眞岡町	六				
埔里街	七	高雄市	三						

K220, 28-72

發賣所 株式會社 帝國書院 振替東京六七〇一四番	東京市神田區仲猿樂町三〇番地 著作權 所有 不許複製	昭和七年九月二十七日 昭和七年九月二十七日 昭和七年十一月十七日 發行 印刷
關西販賣所 三宅莊藏書店 振替大阪八九番	大坂市東區橫堀町四丁目三番地 著者 地理教授同志會 代表者 野守屋荒保興雄 發行者 株式會社 帝國書院 代表者 增田啓策 印刷者 東京市牛込區山吹町一九八番地 山本禎男	新帝國地理 (中表用) 定價金壹圓貳拾錢

東京 宗文社印刷所 印刷

